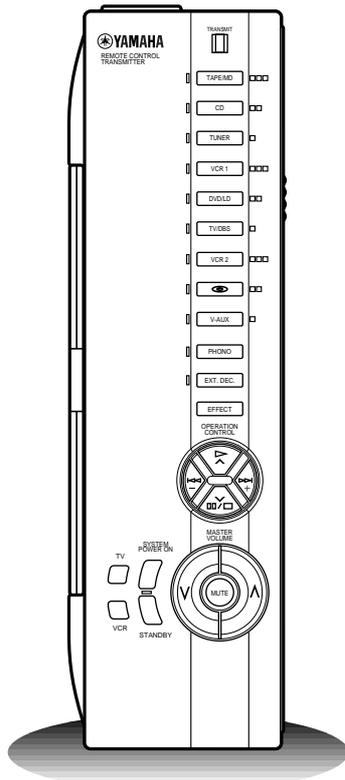
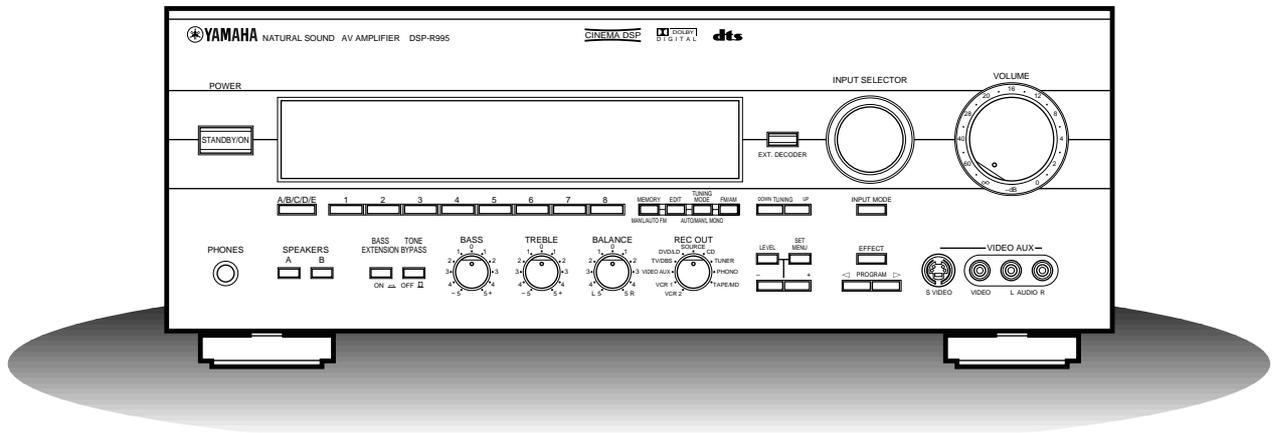




NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-R995

取扱説明書



このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-R995をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DSP-R995の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万が一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用前に必ずお読みください

安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも取り出せる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告		この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
設置されるとき		使用中に異常が発生したとき	
	本機に水を入れたり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。 表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。		電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 <small>水場での使用 禁止</small>	風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。	 	万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
ご使用になるとき			
	本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。 本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお客様のいるご家庭ではご注意ください。 電源供給コンセントに機器を接続するときは、機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を越えないようにしてください。火災の原因となります。 また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器など)は接続しないでください。 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。		万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 <small>分解禁止</small>	本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。	絵表示の例	
		 <small>指を挟まれな いよう注意</small>	記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
		 <small>分解禁止</small>	記号は禁止の行為であることを告げるものです。
			記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき	
	アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。		接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続には指定のコードを使用してください。電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。		
	本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点に注意してください。		指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。 ・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。 		旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
	お手入れについて		
	本機を設置する場合は、放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。		1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
	移動する場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

特長

ドルビーデジタル^{*1}対応

DSP-R995は、最新のシアターサウンド“ドルビーデジタル”を家庭で楽しめるドルビーデジタルデコーダーを搭載、DSP（デジタルサウンドフィールドプロセッサー）と組み合わせられた各種音場で楽しめます。

DTS^{*2}（デジタルシアターシステムズ）対応

ドルビーデジタルサウンドとともに優れたデジタルサラウンドサウンドを提供してきたDTSをご家庭にお届けするため、本機にはDTSデコーダーも搭載しています。ドルビーデジタルと同様に、DSPと組み合わせられた各種音場で楽しめます。

豊富な音場プログラムを搭載

大規模音場処理のキーデバイスとして、YSS918-Fを搭載しました。YSS918-Fはヤマハ独自のCINEMA-DSP処理に必要な機能を内蔵しており、ドルビーデジタルプロ・ロジックデコーダー、DTSデコーダー及び、高度なDSP音場処理をワンチップで実現しています。最新のドルビーサラウンド映画からモノラルの名画まで、またコンサート、ディスコ等の幅広いソフトを多彩な音場効果で楽しめます。

多彩な入出力端子

入力端子は、AVソース/オーディオソースにマルチに対応。デジタル信号をダイレクトに接続できるCOAXIAL/OPTICAL端子は、ドルビーデジタル信号/DTS信号/PCM信号を自動判別して再生します。

出力端子は、音声チャンネル/映像チャンネルの豊富な出力端子に加え、サブウーファー端子を備えていますので、効果的な重低音再生を実現します。さらに、6チャンネルの外部デコーダー入力を装備したことにより、すべてのマルチチャンネルのディスクリット音声を手軽にしかも本格的に楽しめます。

充実した録音 / 録画機能

フロントパネルにREC OUTセレクターを装備。リアパネルの接続を変更することなく、スムーズな録音 / 録画が可能です。また、オーディオ系ソースに他のAV系ソースの映像を組み合わせる録画するBGV（バックグラウンドビデオ）機能も内蔵しています。

FM/AMチューナー搭載

DSP-R995が搭載したFM/AMチューナーは、40局のプリセットが可能、FM多局化時代に対応しています。また、FM局のオートプリセット機能、プリセット局のエディット機能など、多彩な機能を装備しています。

オンスクリーン機能

プログラム名やパラメーターの設定状況、スピーカーのレベル設定など、本機の操作状況をモニター画面に表示するオンスクリーン機能を装備しています。

多機能リモコンを標準装備

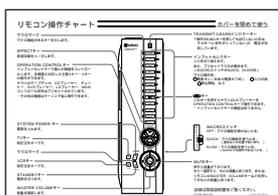
本機に付属のリモコンは、ヤマハの機器を集中操作する、オペレーションコントロール機能がプリセットされています。また、1つのキーを押すだけで複数の操作ができるマクロ機能も装備しています。加えて本リモコンは、他のリモコンの信号をラーニング（記憶）する機能を装備していますので、お使いになるシステムに最適で、オリジナルなリモコンに構成することができます。

- ^{*1} ドルビーライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、PRO LOGIC、およびダブルD記号  は、ドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの商標です。著作権1992年ドルビーラボラトリーズインコーポレーテッド。不許複製。
- ^{*2} DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。さらに、以下のPCT（特許協力条約）US95/0059に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。“DTS”はDTS Technology LLCの商標です。なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。

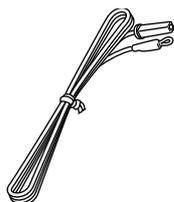
はじめに、次のことをお確かめください。

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか？
- 2 付属品はすべてそろっていますか？

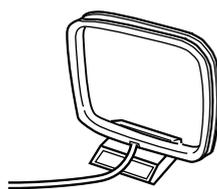
リモコン操作チャート



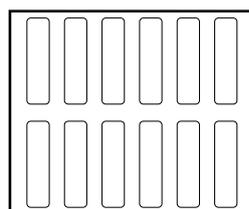
FM簡易アンテナ



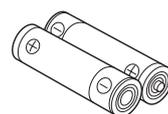
AMループアンテナ



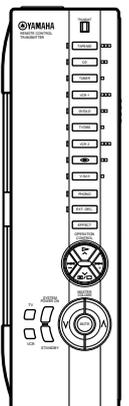
リモコンシート



単3乾電池2本



リモコン



目次

再生の準備

音場効果をお楽しみいただくために	6	他のアンプとの接続	19
スピーカーシステムについて	6	電源プラグ、電源供給コンセントの接続	20
スピーカーの配置	7	リモコンの準備	21
サブウーファーについて	8	乾電池の入れかた	21
接続のしかた	9	リモコンの使用範囲	21
正しい接続のために	9	各部の名称とはたらき	22
アンテナの接続	10	フロントパネル	22
オーディオ機器の接続	12	ディスプレイ	23
ビデオ機器の接続	13	リモコン	24
デジタル対応機器の接続	14	オンスクリーン・ディスプレイ	27
6(5・1)チャンネルディスクリート		スピーカーモードの設定<再生の前に>	28
出力対応機器の接続	15	設定のしかた	28
6(5・1)チャンネル音声について	16	各スピーカーモードの設定内容	29
スピーカーの接続	18	スピーカーレベルの調節<再生の前に>	32

基本操作

再生する	34	プリセット選局のしかた	52
リモコンで操作する	39	プリセット局の入れかえ	53
機器個別の操作をする	39	録音と録画	54
オペレーションコントロール機能を使う	41	見ている(聴いている)ソースを録音/録画する	54
マクロ機能を使う	43	見ている(聴いている)ソースとは別のソースを録音/録画する	55
音場効果を楽しむ	45	タイマー再生/録音	57
音場プログラムの選びかた	49	接続	57
FM/AM放送を聴く	50	操作	57
選局する	50	スリープタイマー	57
放送局のプリセット	51		

応用操作

音場プログラムのパラメーターを変更する	58	各メニュー項目の設定内容	64
パラメーターの変更	58	リモコンの学習機能(ラーニング機能)	67
パラメーターガイド	59	ラーニングできるキーについて	67
パラメーター一覧表	62	ラーニングのしかた	68
セットメニューの設定	63	マクロ設定のしかた	70
設定のしかた	63	学習内容の消去	72

その他

故障かな?と思ったら	73
参考仕様	75
オンスクリーン信号経路図	77
ヤマハホットラインサービスネットワーク	78



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

音場効果をお楽しみいただくために

本機にはセンタースピーカー、リアスピーカーを設置して楽しむ音場処理機能があります。音場効果を十分にお楽しみいただくため、ご使用前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

スピーカーシステムについて

本機の音場効果を楽しむためには、合計5本もしくは4本のスピーカーが必要となります。

スピーカーの音色が違くと、映画などで移動する主人公の声の音色が不自然に変わることがあります。なるべく音色の揃ったスピーカーをお使いください。

小型のスピーカーをお使いの場合は、十分な重低音や臨場感をお楽しみいただくために、サブウーファアの追加をお勧めします。

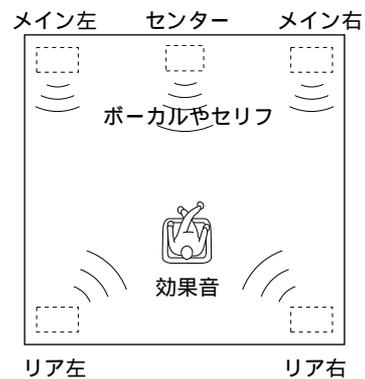
(8ページ)

スピーカーシステムを選ぶ

下記を参考にして、5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムのいずれかを選びます。スピーカーシステムに応じてセンターモードが決まります。

5スピーカーシステム(センタースピーカーを使用する)

従来の2チャンネルステレオで使用する2本の左右メインスピーカーに加えて、ドルビープロ・ロジック、ドルビーデジタルおよびDTSサラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、およびリスナーの後方に設置する左右リアスピーカーの合計5本のスピーカーを使用します。



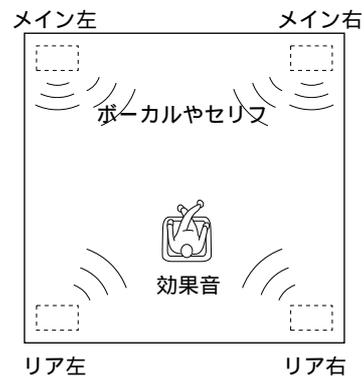
メインスピーカーの間隔が広い場合には、センタースピーカーの使用はセリフの定位などの改善に効果的です。

使用するセンタースピーカーに合わせてセンタースピーカーモードをLARGEまたはSMALLに設定します(29ページ)。

4スピーカーシステム(センタースピーカーを使用しない)

左右のメインスピーカー2本と、左右のリアスピーカー2本合計4本のスピーカーを使用するシステムです。

ドルビープロ・ロジック、ドルビーデジタルおよびDTS再生時のセンターチャンネル信号は、左右のメインスピーカーが再生します。

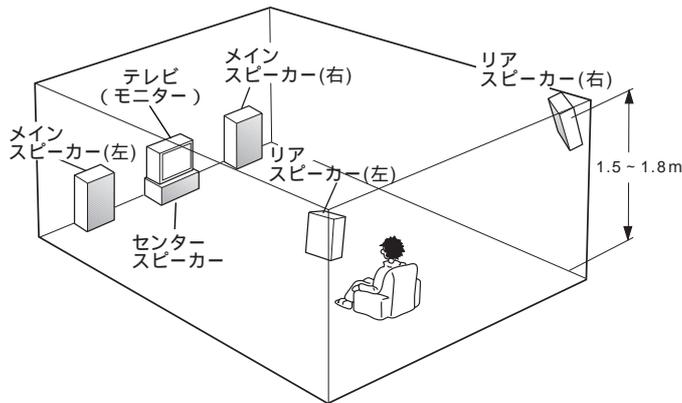


TVの両側にメインスピーカーを設置するような、スピーカーの間隔が比較的狭い場合は、センタースピーカーを使用しなくても十分な効果が得られます。

センタースピーカーモードはNONEに設定します(29ページ)。

スピーカーの配置

5スピーカーシステムの配置例



スピーカーは上図のような位置関係が理想ですが、厳密に揃わなくても十分な効果が得られます。

メインスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビをはさんで設置する場合は、左右のスピーカーとテレビの距離を同じにします。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

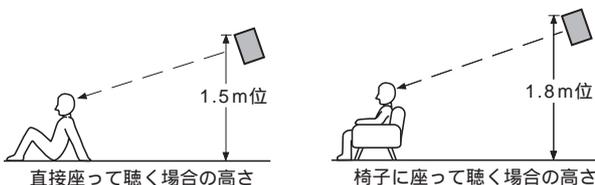
センタースピーカー

テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカーの前縁を揃え、テレビの下または上など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

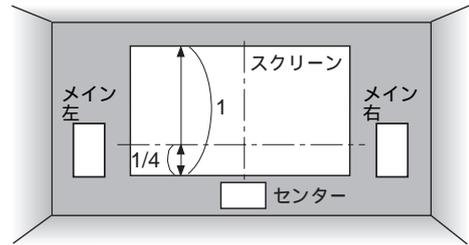
リアスピーカー

上図の配置例のようにメインスピーカーより左右の間隔を開けた後方斜めに配置し、スピーカーをリスニングポイントに向けてください。

スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



スクリーン使用時の設置例



メイン左、右は、スクリーン下辺から1/4の高さが適当です。センタースピーカーは、スクリーンのすぐ下中央に設置します。1本使いが定位の点で効果が得られます。

ご注意

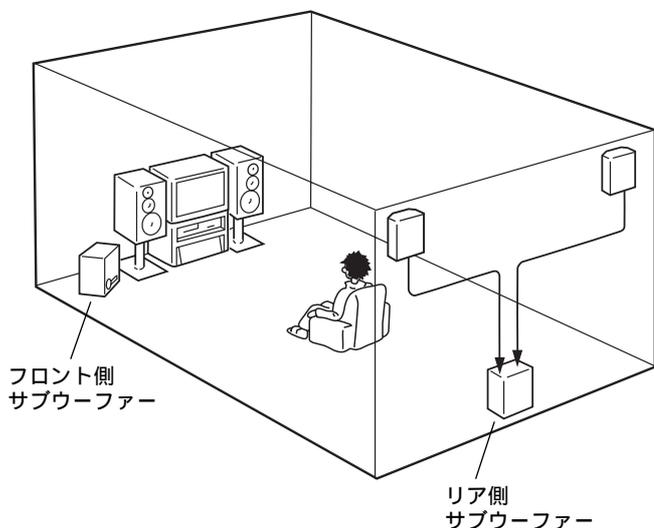
スピーカーによっては、テレビ(モニター)の画面が乱れることがあります。画面近くに設置するセンタースピーカーやスーパーウーファには、防磁型スピーカーの使用をお勧めします。(テレビの画面が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離してください)

サブウーファーについて

スピーカーシステムにサブウーファーを加えると、映画再生時の迫力や臨場感を大きく改善することができます。メインスピーカーに比較的大型のスピーカーを使用する場合でも、良質のサブウーファーを追加することで大きな効果が得られます。1台目はフロント側に、2台目をリア側に設置することをお勧めします。

フロント側サブウーファーは、スピーカーモードの「4. LFE/BASS OUT(LFE/バスアウトモード)」(31ページ)の設定にしたがって信号を出力します。EXT. DECODER(外部デコーダー)入力ときはEXTERNAL DECODER INPUTのSUB WOOFER端子に入った信号をそのまま出力します。

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。メイン側の低音とリア側の低音が再現されると迫力だけでなく、特にCINEMA-DSP音場プログラムのリアリティが大きく改善されます。



フロント側サブウーファー

配置

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカーを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試してください。

接続

本機背面のサブウーファー用のSUB WOOFER OUTPUT端子に接続します(18ページ)。

リア側サブウーファー

配置

視聴位置より後方に設置します。左右の位置は関係しません。

接続

リア専用のサブウーファーは、リアスピーカーのL、R端子からスピーカーコードで接続します。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

スピーカーモードの設定

リア側専用のサブウーファーを設置した場合は、スピーカーモードの「2. REAR SPEAKER(リアスピーカー)」を「LARGE」に設定してください。(30ページ)

リア側専用のサブウーファーを設置しない場合は、リアスピーカーの大きさに合わせて「LARGE」または「SMALL」に設定してください。(30ページ)

接続のしかた

正しい接続のために

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどとシステム接続する場合は、各機器と本機と同じ番号(1、3など)のついた端子どうしを接続してください。

接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ピンジャックの入/出力端子は、信号別に色分けされています。

- ・音声信号の左(L)チャンネル: 白色
- ・音声信号の右(R)チャンネル: 赤色
- ・モノラル音声信号: 黒色
- ・同軸デジタル信号: オレンジ
- ・ドルビーデジタルRF信号: 黒色
- ・映像信号(コンポジット): 黄色

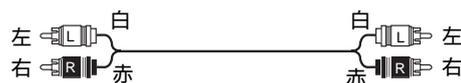
入/出力端子の接続には、市販のピンプラグコードをご用意ください。

本機がテレビなどに影響を与えるような場合は、本機と他の機器の設置場所を離してください。障害をなくすために、FMアンテナには屋外アンテナを使用し、同軸ケーブルで接続することをお勧めします。

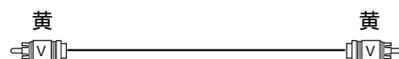
接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

接続図では、接続コードを次のように示します。

音声信号接続コード



映像信号接続コード(コンポジット)



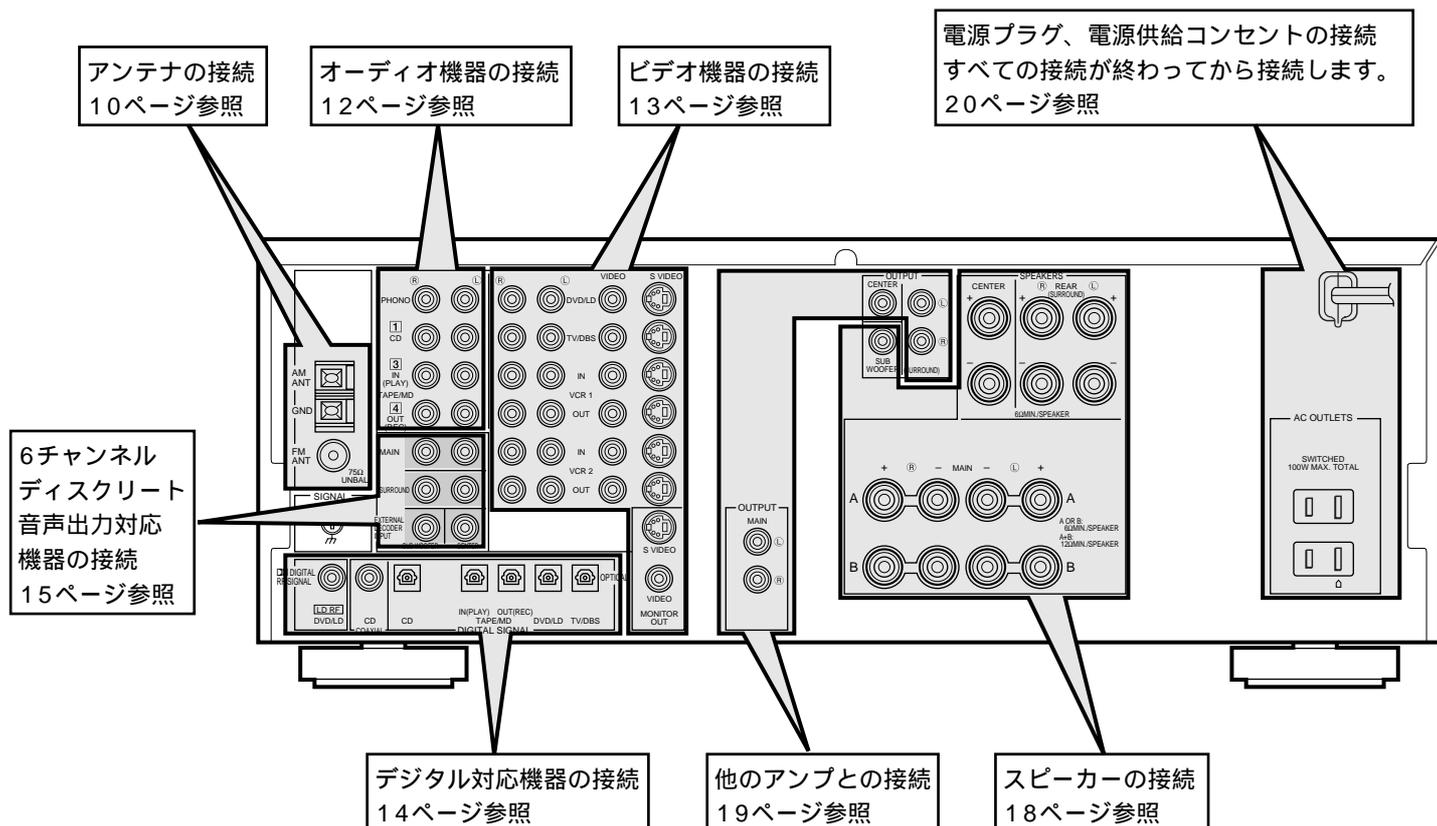
S映像信号接続コード



同軸デジタル接続コード



光デジタル接続コード

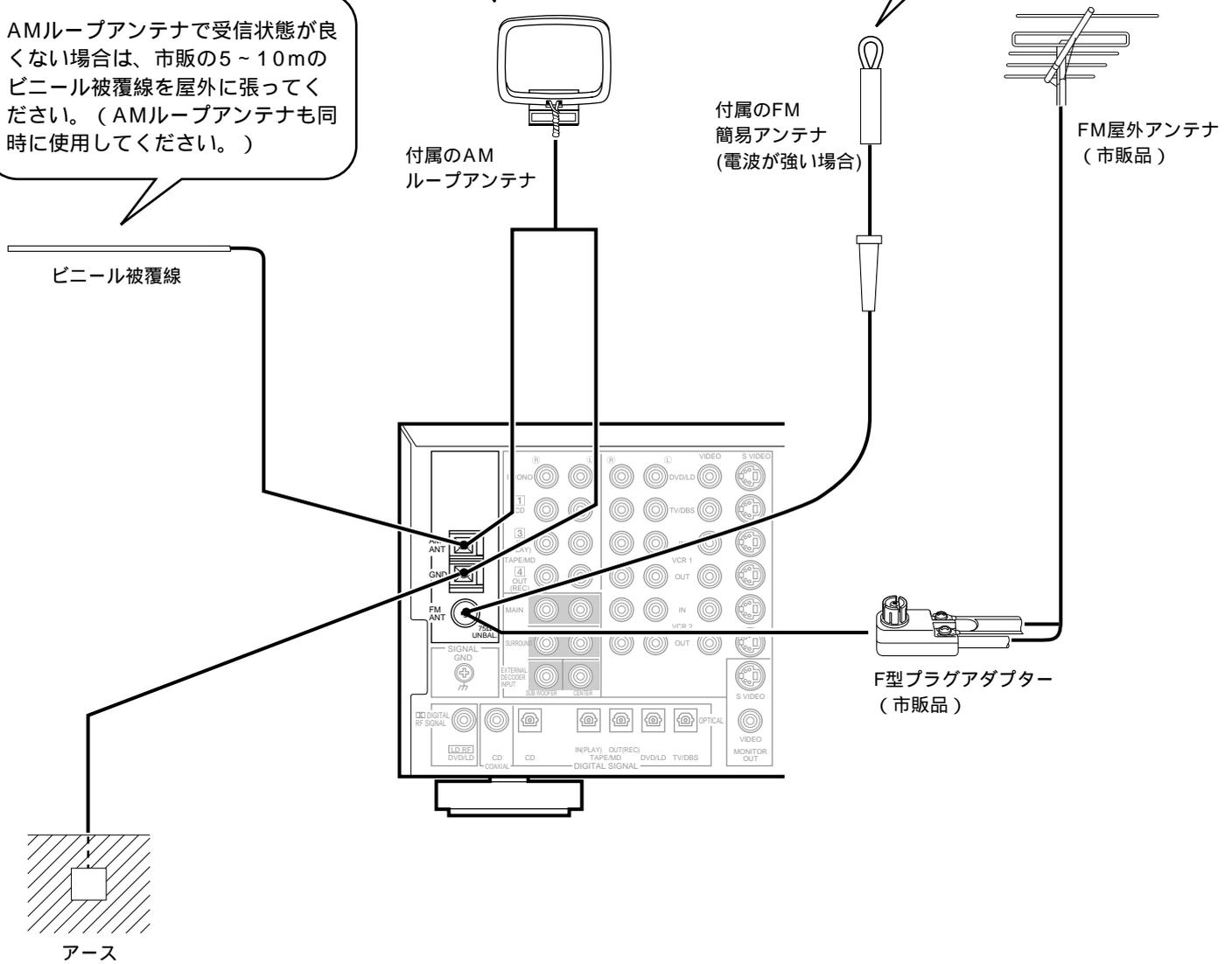


アンテナの接続

AMループアンテナは、スタンドから取りはずして壁などに掛けて使用することができます。壁が金属や鉄筋の場合、受信感度が悪くなることがありますのでご注意ください。

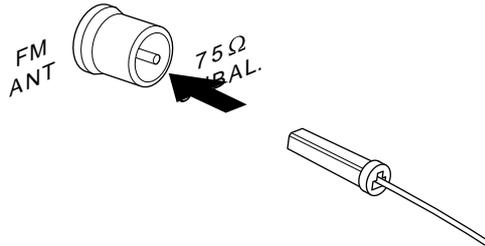
AMループアンテナで受信状態が良くない場合は、市販の5~10mのビニール被覆線を屋外に張ってください。(AMループアンテナも同時に使用してください。)

FM簡易アンテナは、あくまでも簡易的なもので、より良い音質で受信するためには、専用のFM屋外アンテナを設置することをおすすめいたします。



FMアンテナの接続

FM簡易アンテナの接続
 付属のFM簡易アンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。



FM専用屋外アンテナについて
 FM放送を良好に受信するためには、FM専用屋外アンテナを設置することをおすすめします。
 また、FM電波は受信する地域の状況（放送局からの距離、ビルや山のかげなど）によって、良好な受信ができにくい場合があります。ご使用になる地域の状況に合ったアンテナを設置してください。
 FM専用屋外アンテナは、自動車のイグニッションノイズの影響を受けまいよう、道路から離れたなるべく高いところに設置してください。

FM専用屋外アンテナの接続
 アンテナの接続には75Ω同軸ケーブルをご使用ください。
 また、アンテナと本機との間隔が長い場合は、ケーブル伝送中の電波減衰が少ない15C2Vケーブルの使用をおすすめします。
 FM屋外アンテナを接続したときは、付属のFM専用簡易アンテナは接続しないでください。

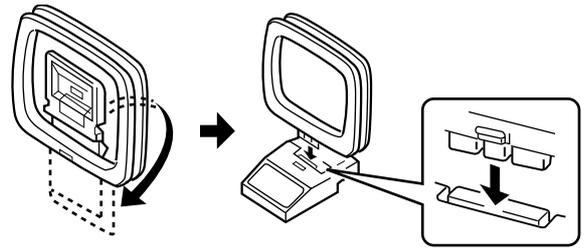
電波状況が非常に良い地域では
 TVのVHFアンテナを本機のFM用アンテナとして使用することができます。アンテナをTV受像機と本機で共用する場合は、市販の分配器をご使用ください。
 詳細は分配器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

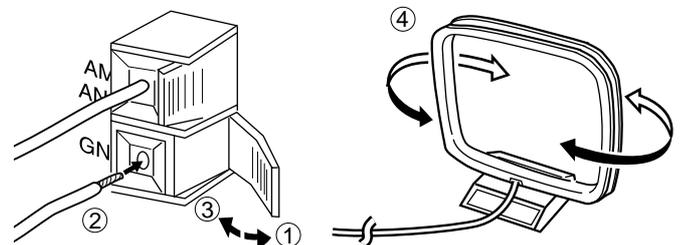
近くに放送局があるような強電界地域では、多素子のアンテナやブースター（増幅器）を使うと、電波が強すぎて、かえって良好な受信ができなくなることがあります。

AMループアンテナの組立と接続

組み立て



- 付属のAMループアンテナをAM ANT端子に接続します。
- ① AM ANT端子とGND端子のレバーを倒します。
 - ② AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込みます。（コードに極性はありません。）
 - ③ レバーをもとに戻してロックします。
 - ④ アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。



受信状態が最もよくなる位置に動かしてください。

ご注意

AMループアンテナは本機から離して設置してください。
 AMループアンテナで良好な受信ができない場合は、AM ANT端子に5mから10mのビニール被覆線を接続し、窓際から屋外に張ってください。（このときAMループアンテナも必ず接続しておいてください。）

アースについて

通常受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを取ることをおすすめします。
 アースは市販のアース棒が銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。
 GND端子に2本以上のコードを接続する場合は、よじって1本にまとめてください。

ご注意

アースを水道管やガス管に取り付けることは、感電や火災などの危険防止のため絶対おやめください。

オーディオ機器の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

フォノ PHONO端子について

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。

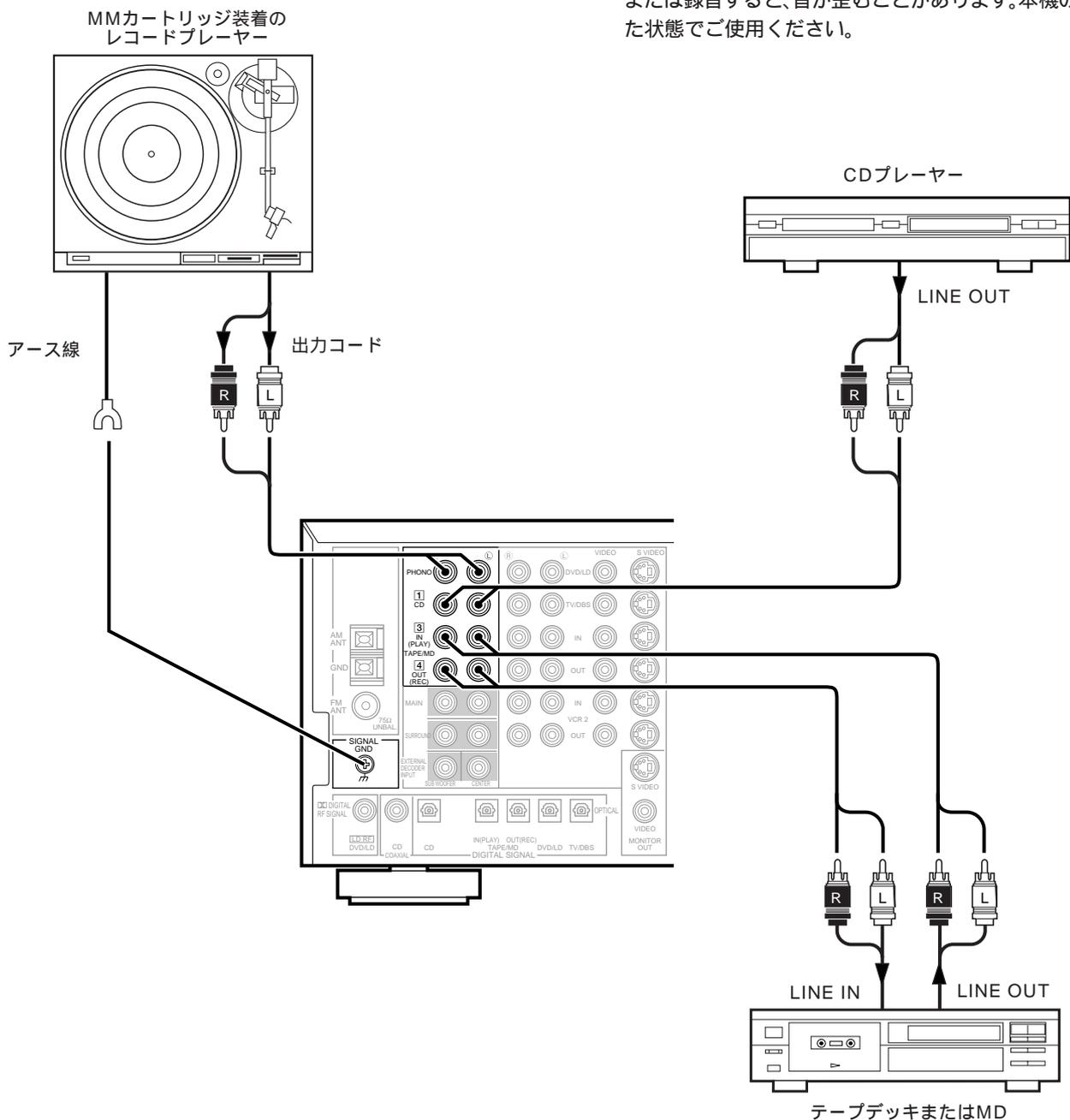
低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいは、MCヘッドアンプが別途必要になります。

レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。

ご注意

テープデッキを接続している場合、テープデッキの電源を切ると本機の音が歪むことがあります。本機の電源を入れている時は、常にテープデッキの電源も入れてください。

本機の電源を切った状態で、接続した外部機器の音をモニター、または録音すると、音が歪むことがあります。本機の電源を入れた状態でご使用ください。



ビデオ機器の接続

オーディオ オーディオ シグナル シグナル AUDIO SIGNAL 端子の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

ビデオ ビデオ シグナル シグナル VIDEO SIGNAL 端子の接続

入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

エスビデオ エスビデオ S VIDEO 端子の接続

接続するVCR(ビデオデッキ)にSビデオ端子がある場合は、ビデオデッキのS入/出力端子と本機のS VIDEO SIGNAL VCR OUT/IN端子を接続します。また接続するモニターにS入力端子がある場合は、本機のS VIDEO SIGNAL MONITOR OUTと接続します。

エスビデオ エスビデオ シグナル シグナル S-VIDEO SIGNAL 信号について

S-VIDEO信号は、ビデオ信号(コンポジット信号)の輝度を表わす信号(Y信号)と、色を表わす信号(C信号)に分けて伝送する方式です。S-VIDEO端子を利用すると映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生が行えます。

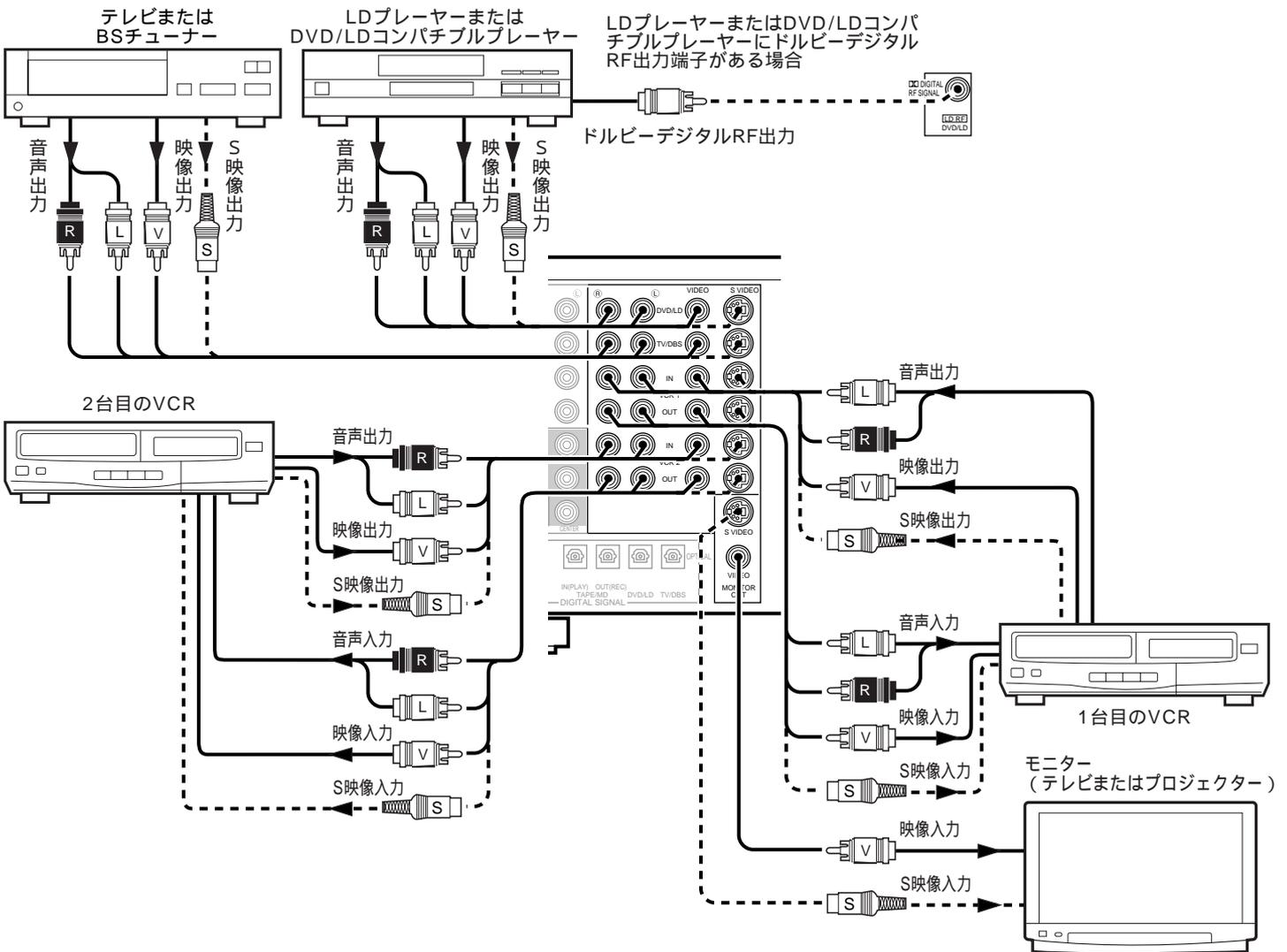
S-VIDEO端子に接続した機器の操作については、その機器の取扱説明書をご覧ください。

S-VIDEOの接続には専用のSビデオケーブル(市販)を用意してください。

本機では、S-VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子間は独立しています。ピンジャックから入った信号はピンジャックに出力され、S-VIDEO端子から入った信号はS-VIDEO端子に出力されます。

ご注意

ドルビーデジタル、DTSやPCM音声のデジタル音声出力のある機器を接続するときは、14ページもご覧ください。DIGITAL RF SIGNAL入力端子については17ページをご覧ください。本機は、テレビ画面の自動ワイド識別信号には対応していません。モニターとしてワイドテレビを接続したときに、画面がワイドにならない場合は、ワイドテレビ側の画面モードの設定を「ワイド」に切り換えてください。



デジタル対応機器の接続

本機のDVD/LD端子、TV/DBS端子、TAPE/MD端子およびCD端子は、アナログ端子の他にドルビーデジタル信号やDTS信号、テレビ/BSチューナーなどのデジタル信号をダイレクトに入力できるデジタル端子〔COAXIAL〔同軸〕/OPTICAL〔光〕〕を装備しています。(デジタル端子はPCM*/ドルビーデジタル/DTS兼用です。)

LDプレーヤーまたはDVD/LDコンパチブルプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL OPTICAL DVD/LD端子とつなぎます。また、これらの機器にドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、本機のDIGITAL RF SIGNAL入力端子とつなぎます。

テレビまたはBSチューナーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL OPTICAL TV/DBS端子とつなぎます。

CDプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL OPTICAL CD端子とつなぎます。

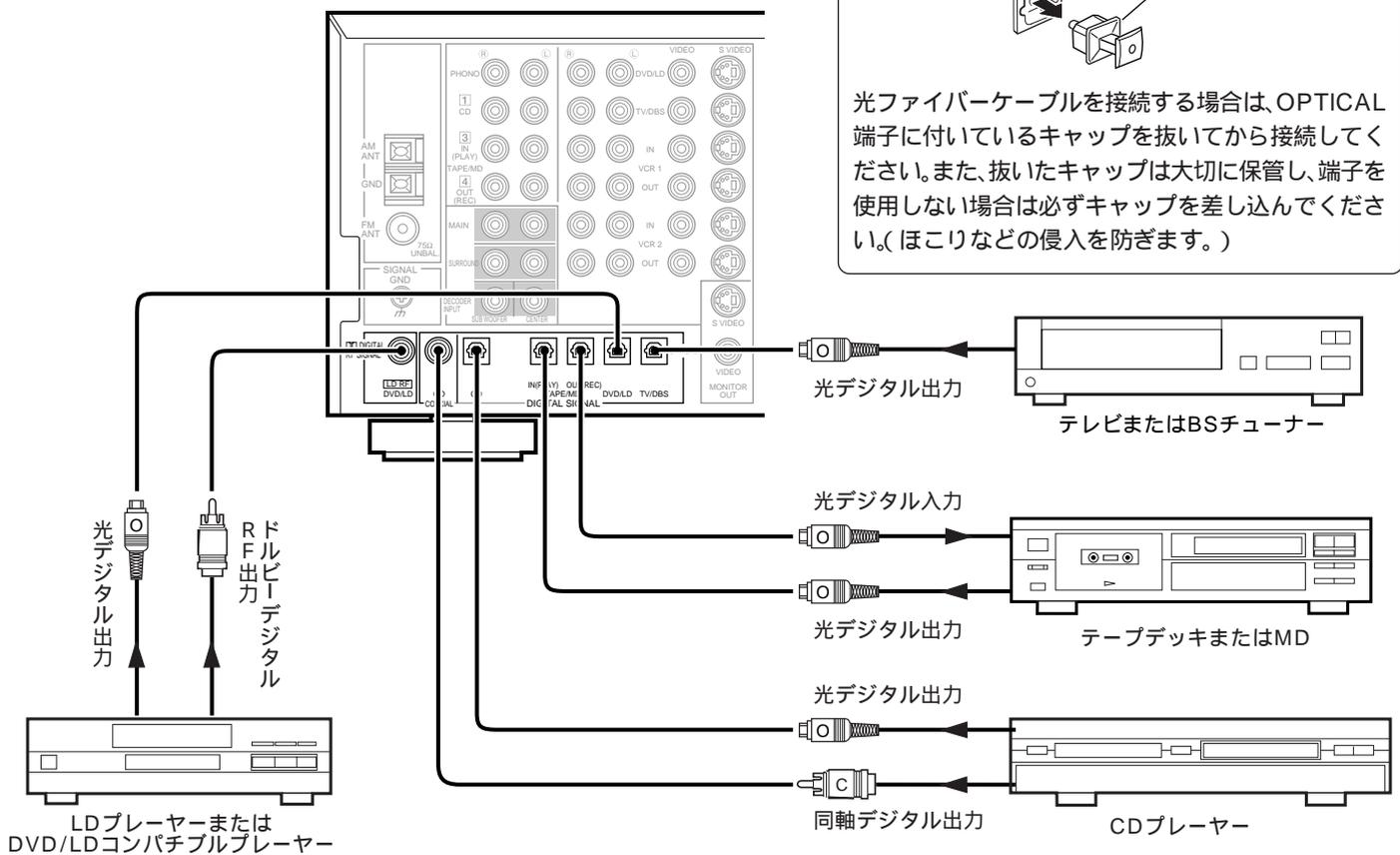
COAXIALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL COAXIAL CD端子とつなぎます。(CDプレーヤーにOPTICAL、COAXIALの両端子がある場合は、どちらかをつなぎます。)

MDまたはテープデッキにOPTICAL入力/出力デジタル端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL OPTICAL TAPE/MD OUT (REC)/IN端子とつなぎます。

COAXIAL端子に接続する場合はピンプラグコード(市販)を、OPTICAL端子に接続する場合は光ファイバーケーブル(市販)を使用してください。

*PCMについて

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送Aモードから、CDディスクやMDの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。



防塵キャップについて



光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)

ご注意

デジタル端子だけでなく、アナログ音声端子も接続してください(12、13ページ参照)。デジタル信号はデジタル端子に、アナログ信号はアナログ端子にのみ出力されます。

TAPE/MD REC OUTのデジタルとアナログは独立しているため、アナログ信号はアナログ端子に、デジタル信号はデジタル端子にのみ出力されます。デジタルとアナログ両方の入出力端子があるMDなどを接続する場合は、両端子とも接続してください。

CDのCOAXIAL端子とOPTICAL端子に同時に信号が入るとCOAXIAL端子の入力信号が優先されます。

本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

10～14ページの接続により、本機に搭載されている25種類の音場プログラム(CINEMA DSPも含めて)をお楽しみいただけます。さらにDVDプレーヤーなどのディスクリート6チャンネル音声をお楽しみいただくには、13、14ページの接続に加えて次のように接続してください。

6(5・1)チャンネルディスクリート出力対応機器の接続

外部デコーダーなどの多チャンネルのディスクリート音声出力端子(アナログ)を本機のEXTERNAL DECODER INPUT端子エクスターナル デコーダー インプットに接続します。

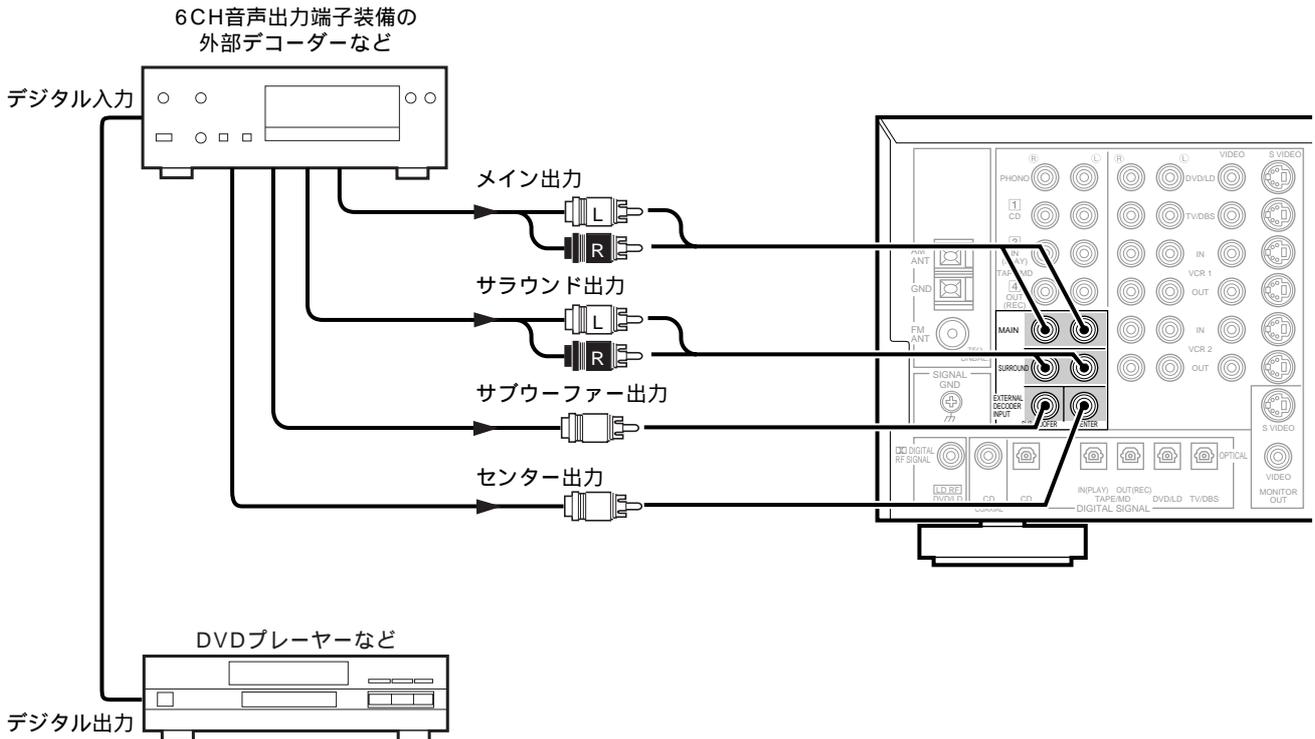
インプットセクターで選択した映像とEXT. DECODERキーで選択した外部デコーダーの多チャンネル音声を楽しめます。

ご注意

接続したEXTERNAL DECODER INPUT端子に対応したスピーカー(メインL/R、リアL/R、センター、サブウーファー)を必ず設置してください。

EXTERNAL DECODER INPUT端子から入力した音声に対しては、スピーカーモード1～4の設定(28ページ)やセンターディレイ調節(65ページ)は反映されません。これらの設定・調節は外部デコーダーで行ってください。

デコーダーを内蔵していないDVDプレーヤーを接続する場合



デコーダー内蔵の多チャンネル対応DVDプレーヤーを接続する場合

DVDプレーヤーの多チャンネル音声出力端子を本機のEXTERNAL DECODER INPUT端子に直接つなぎます。

ハイビジョンテレビやMUSEデコーダのディスクリート音声(3・1)も接続できます。

ハイビジョンテレビ(デコーダー)の音声L、R出力およびセンター出力を本機のMAIN L、R INPUT端子およびCENTER INPUT端子に接続します。

サラウンド出力がステレオの場合は、市販のピンプラグケーブルを使って、本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。(サラウンド出力がモノラルの場合は、市販の1P 2P分岐ピンプラグケーブルを使って本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。)

サブウーファー出力について:

ハイビジョンテレビやMUSEデコーダーなどの3.1ディスクリート音声端子にはサブウーファー出力がありませんが、メインスピーカーのL、R端子にサブウーファーを接続すると、メインチャンネルの低音域をサブウーファーから出力することができます。接続については、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

6(5・1)チャンネル音声について

ドルビープロ・ロジック		ドルビーデジタルおよびDTS	
2	記録チャンネル数	6	
4	再生チャンネル数	6	
前方左右 + 前方中央 + 後方	再生チャンネル構成	前方左右 + 前方中央 + 後方左右 + 低域効果音	
マトリックス処理、ドルビー・サラウンド	音声処理	ディスクリート処理、ドルビーデジタルまたはDTSエンコード、デコード	
16ビット	信号処理ビット数	20ビット	
7kHz	サラウンド音声の高域再生限界	20kHz	

映画ソフトの音響システムを家庭で楽しむには、それなりの再生システムをリスニングルームに構築しなければなりません。従来の劇場用ドルビーステレオの場合は、ドルビープロ・ロジックという家庭用の規格「前方左右 + 前方中央 + 後方 = 計4チャンネル」が用意されていました。

そして、劇場用ドルビーデジタルに対して、家庭用に生まれた規格が「ドルビーデジタル」や「DTS(デジタルシアターシステムズ)」の「前方左右 + 前方中央 + 後方左右 + 低域効果音(LFE) = 計6チャンネル」です。

本機はドルビーデジタルおよびDTSデコーダーを搭載し、さらにドルビーデジタルRF信号を直接LDプレーヤーおよびDVD/LDコンパチブルプレーヤーから入力するためのV DIGITAL RF SIGNAL入力端子を装備していますので、LDディスクのドルビーデジタルおよびDTSソフトをそれぞれのサラウンドサウンドシステムならではの臨場感にあふれた再生でお楽しみいただけます。

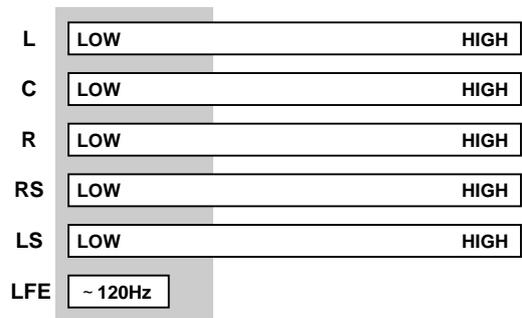
ご注意

ドルビーデジタルまたはDTS対応のDVDプレーヤーやLDプレーヤーを本機にデジタル接続しても、ドルビーデジタルやDTSでエンコードされていないディスク(ソフト)ではドルビーデジタル再生やDTSにはなりません。ドルビーデジタルまたはDTS対応のディスク(ソフト)を再生してください。

LFEについて

ドルビーデジタルやDTSで導入されたLFEは、特殊な低域効果音、あるいは5チャンネル部に収録しきれない部分の低域音として使用されます。ただし「LFEチャンネルだけが、ドルビーデジタルのサブウーファー用信号ではない」ということに注意が必要です。下図のように、全チャンネルフル帯域化により、5チャンネルには、それぞれの方向情報を持った低域成分が含まれており、この低域をバランス良く再生することが、映画ソフトをサラウンド再生するときの最重要課題となります。

本機では、低域再生をより良く行えるように、スピーカーに応じた設定が可能です(28ページ)。また、LFEレベルを調整することも可能です。(31ページ)



ドルビーデジタルとDTS(デジタルシアターシステムズ)

ドルビーデジタルとDTSは、今日、私たちが家庭で体験できる5.1チャンネルサラウンドサウンドシステムの双璧を成しています。両者のあいだには、エンコード時のデータ圧縮の違いはありますが、5.1チャンネル音声を基本とした優れたオーディオパフォーマンスの再現において、ほとんど差異は認められません。ドルビーデジタル、DTSにかかわらず、それぞれのソフト作成者の意図により(各チャンネルにどの音を割り当てるかなど)数々の特長を持った個性あるソフトが生まれ出されています。本機ではドルビーデジタルデコーダーとDTSデコーダーの両方を搭載したことにより、ドルビーデジタル対応およびDTS対応を問わずそれぞれのディスクの特長を生かしたオーディオパフォーマンスを体験できます。

DIGITAL RF SIGNAL入力について



本機に接続するLDプレーヤーまたはDVD/LDコンパチブルプレーヤーに、ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、本機のDIGITAL RF SIGNAL DVD/LD入力端子と接続します。(ドルビーデジタルRF信号とデジタル/アナログ信号を同時に入力した場合、ドルビーデジタルRF信号が最優先されます。)

入力モードの設定により以下の入力信号を選択できます。(36ページ参照)

入力モード	入力信号の優先および固定
AUTO	ドルビーデジタルRF優先 ドルビーデジタルRF入力 ドルビーデジタルRF信号の入力なし デジタル入力 デジタル信号の入力なし アナログ入力
D. D. RF	ドルビーデジタルRF固定
DTS	DTSデジタル固定
DGTL	デジタル固定
ANALOG	アナログ固定

ドルビーデジタルRF信号を再生する場合は、入力モードを“AUTO”または“D. D. RF (固定)”に設定してください。

メモ

ドルビーデジタルRF信号はREC OUT出力されません。DVD/LDを録音/録画する場合は、DVD/LDのOPTICALデジタル端子およびAUDIOアナログ端子も同時に接続してください。

ご注意

ドルビーデジタルRF出力端子付のLDプレーヤーまたはDVD/LDコンパチブルプレーヤーを本機に接続しても、通常のLDディスク(ソフト)ではドルビーデジタル再生になりません。ドルビーデジタル対応のディスク(ソフト)を再生してください。

DTS信号の入力について

デジタル出力を持つCDプレーヤー、LDプレーヤーおよびDTS対応DVDプレーヤーを本機のデジタル入力端子に接続するだけでDTS対応ディスクをお楽しみいただけます。本機はこれらのDTS信号を自動識別し、CDまたはLDのDTS信号を入力すると通常赤色の**dts**インジケータが点灯し、DVDのDTS信号を入力すると通常オレンジ色の**dts**インジケータが点灯します。

CDまたはLDのDTS再生において、オレンジ色のインジケータが点灯することがあっても支障ありません。(73ページ参照)

DTS対応ディスクを再生するために特別な操作は必要ありませんが、入力モードの設定によりDTS信号の優先/固定を選択できます。(36ページ参照)

入力モード	入力信号の優先および固定
AUTO	DTSを含むデジタル優先
DTS	DTSデジタル固定

ご注意

DTS対応のCDやLDを“AUTO”の設定で再生すると、本機がDTS信号を識別するまで短時間のあいだノイズが発生します。ノイズの発生を避けるには、“DTS”に設定してください。

DTS対応のCDやLDを“ANALOG”の設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するためノイズが出力されます。DTSソースを再生するときは必ずデジタル入力端子に接続し、“AUTO”または“DTS”に設定してください。

デジタル出力のレベルが調整できるCDプレーヤーなどでDTS対応ソフトを再生する場合は、出力レベルを最大またはニュートラル(フラット)にします。これは、DTSデータをエラーなく本機に出力させるためです。この操作を行わないと、DTS対応ソフトは再生できないので注意してください。

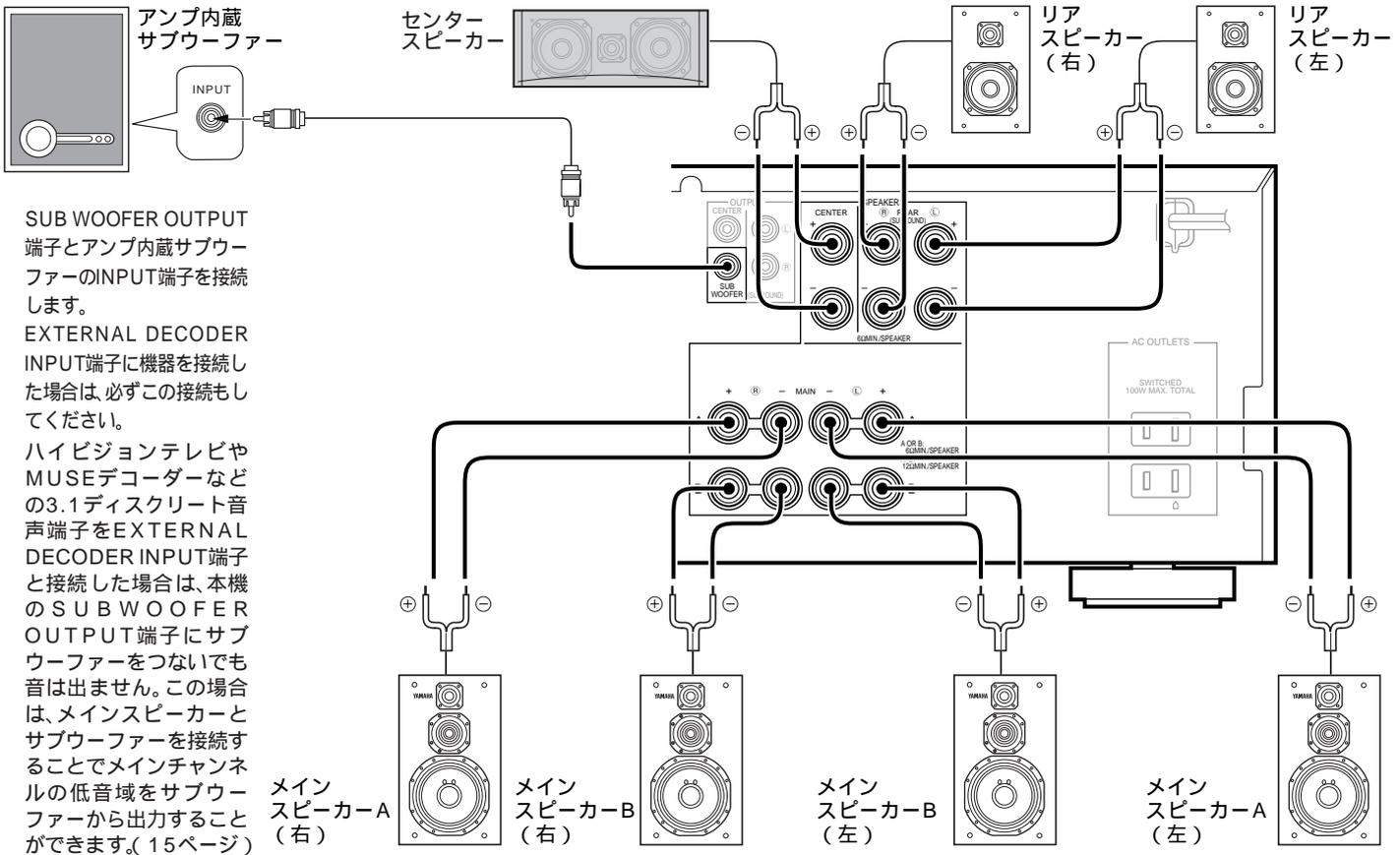
一部のプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしてもDTS再生ができない場合があります。プレーヤーのデジタルアウトデータに何らかの処理がされている場合、通常のデジタル音声ではわずかな音量差やわずかな周波数特性差にしかならない処理でも、DTSデータではエラーを生じ、再生ができなくなるからです。

DTS対応のLDやCDの再生中に、状況によってはプレーヤーのデジタル出力にエラーが生じることがあり、“INPUT DATA ERR”と表示されます。この場合、再生を止め、プレーヤーの電源を入れ直してください。

スピーカーの接続

接続する際、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)“+ (赤) - ” (黒)を確認して正しく接続してください。極性 (+、-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。

スピーカーコードの接続は、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働き電源が切れる場合があります。このような場合は、電源コードを抜いてから、ショートしている箇所の接続をやり直してください。接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカー-AとBを同時に使う場合は、インピーダンスが12Ω以上のスピーカーを接続してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、故障する恐れがあります。



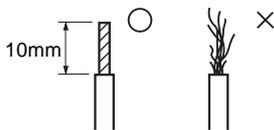
SUB WOOFER OUTPUT 端子とアンプ内蔵サブウーファアのINPUT端子を接続します。

EXTERNAL DECODER INPUT端子に機器を接続した場合は、必ずこの接続もしてください。

ハイビジョンテレビやMUSEデコーダーなどの3.1ディスクリート音声端子をEXTERNAL DECODER INPUT端子と接続した場合は、本機のSUB WOOFER OUTPUT端子にサブウーファーをつないでも音は出ません。この場合は、メインスピーカーとサブウーファーを接続することでメインチャンネルの低音域をサブウーファーから出力することができます。(15ページ)

スピーカーコードの接続

スピーカーコードの先端の絶縁部を10mm位はがし、しっかりとねじります。芯線がバラけているとショートしやすいのでご注意ください。

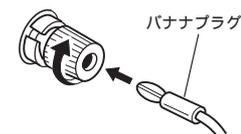


メイン/センター/リアスピーカー端子

スピーカー端子を左にまわしてゆるめ、スピーカーコードをスピーカー端子の穴に差し込みます。スピーカー端子を右にまわしてしっかりと締めます。



市販のパナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



他のアンプとの接続

メイン/センター/リアスピーカー出力のパワーアップを図りたいときや、お手持ちのアンプを使用したいとき、本機のOUTPUT端子に外部パワーアンプ(プリメインアンプ)を接続してください。

メイン メイン アウトプット OUTPUT端子

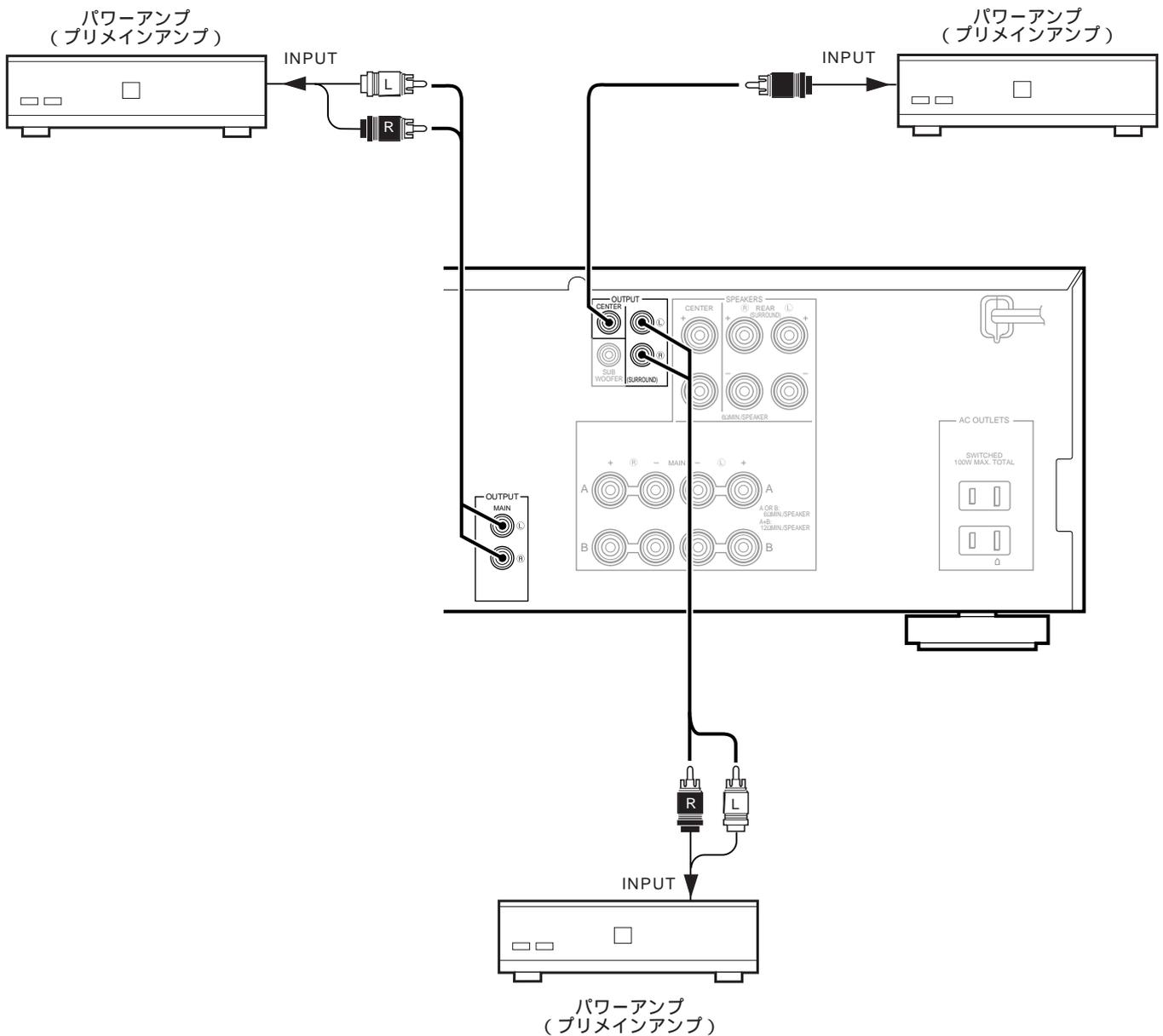
メインチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ(プリメインアンプ)と接続して、メインスピーカーを駆動したい場合に使用します。

センター センター アウトプット OUTPUT端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ(プリメインアンプ)と接続して、センタースピーカーを駆動したい場合に使用します。

リア リア サラウンド アウトプット REAR(SURROUND)OUTPUT端子

リアチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ(プリメインアンプ)と接続して、リアスピーカーを駆動したい場合に使用します。



電源プラグ、電源供給コンセントの接続

電源プラグ

電源プラグは、すべての機器の接続が完了するまで、コンセントに差し込まないでください。

家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを差し込みます。本機の消費電力は380Wです。

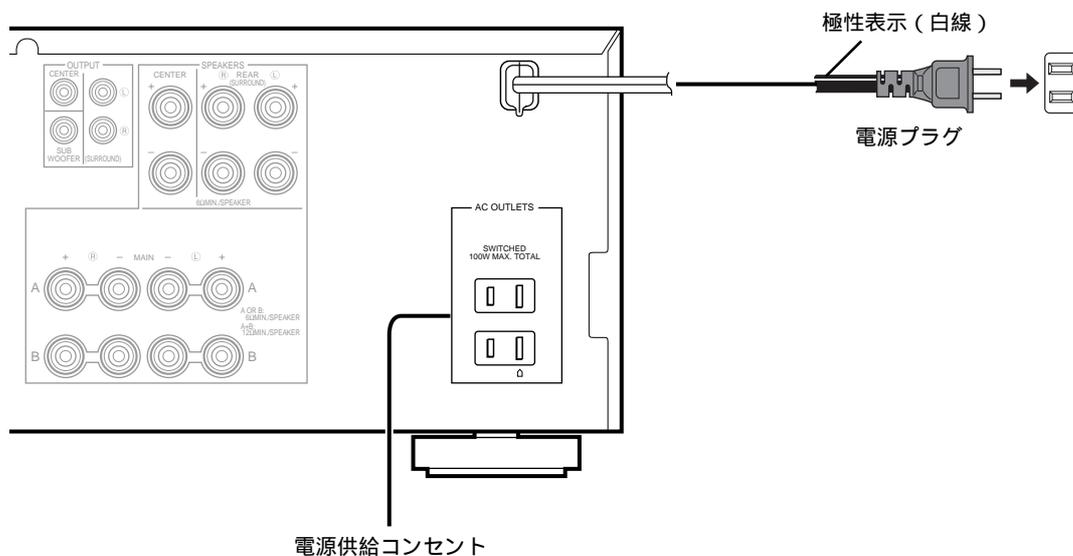
本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示(白線)されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、好みの極性でお使いください。

スイッチド エーシー アウトレット

SWITCHED AC OUTLETS(電源供給連動コンセント)

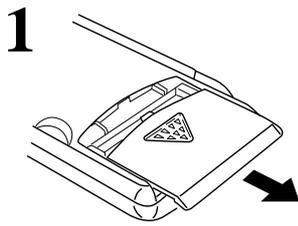
本機のPOWERスイッチと連動しており、2つのコンセントに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

また本機コンセントの長い方の穴が電源トランスの巻始め側になっています。



リモコンの準備

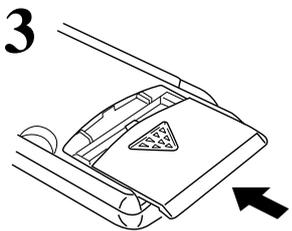
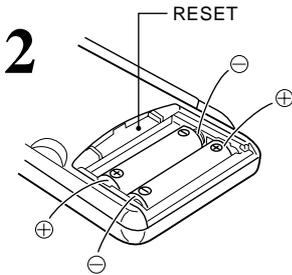
乾電池の入れかた



1 リモコンの裏蓋を開けます。

2 付属の単3乾電池 2本を、リモコンの電池ケース内の表示に従って、プラス(+)とマイナス(-)の向きを間違えないように、正しく入れます。

3 裏蓋を閉めます。(カチッと音がするまで押してください。)



乾電池についてのご注意

リモコンの電池ケース内の表示に従って、プラス⊕とマイナス⊖の向きを間違えないように、正しく入れてください。

消耗した乾電池は早めに交換してください。

新しい乾電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。

種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

乾電池の交換

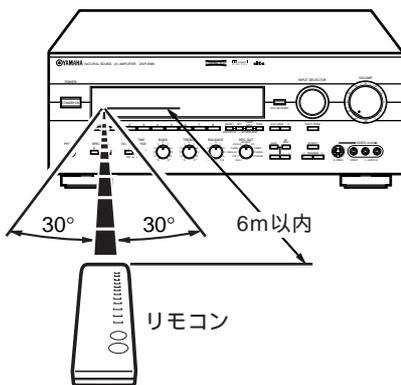
乾電池が消耗すると、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押しても TRANSMIT/LEARNインジケータが点滅しなくなったり、暗くなります。このような場合は2本とも新しい乾電池に交換してください。

乾電池交換の際、電池を外したまま、しばらく(3分以上)放置すると、学習(記憶)した内容が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

消耗した乾電池をそのまま入れておくと、学習した内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、再度学習させてください。

乾電池を交換した後に、必ずRESETキーをシャープペンシルの先などで押してから使用してください。(記憶した内容は消えません。)

リモコンの使用範囲



リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。

直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が、受光部に当たっていると、リモコンが動作しにくくなります。照明、または本機の向きを変えてください。

リモコンの取り扱い

リモコンは丁寧に取り扱いってください。

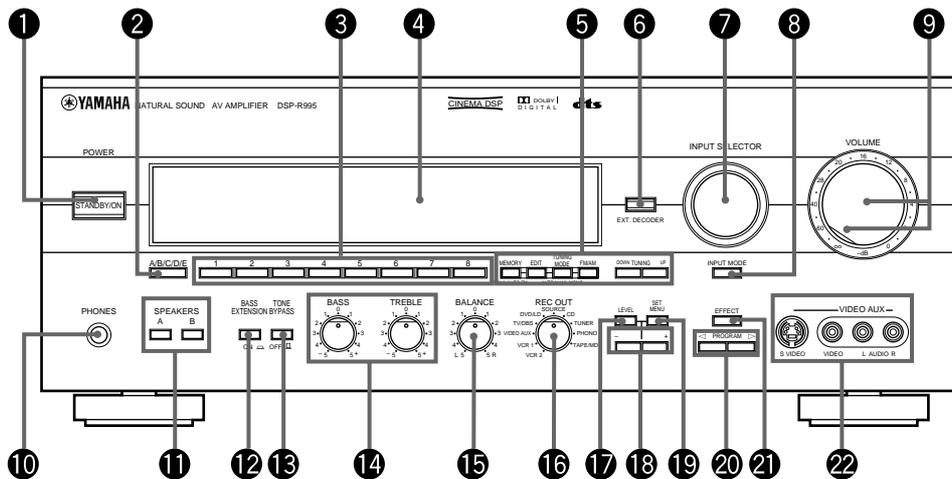
水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。

下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。

- ・ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
- ・ほこりの多いところ。
- ・極端に寒いところ。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



- 1** パワー スタンバイ/オン
POWER STANDBY/ONスイッチ
本機の電源を入/切します。
電源を入れるときは、音量を絞ってください。
電源が入っても、数秒間は本機のミュート機能の働きにより音は出ません。
- 2** A/B/C/D/Eキー
FM/AM放送を聴くとき、プリセットグループ(A/B/C/D/E)を選びます。
- 3** プリセット局番号キー
FM/AM放送を聴くとき、プリセット局の番号を選びます。
- 4** ディスプレイ
入力ソース名や設定状態、放送局の周波数などを表示します。(23ページ)
- 5** チューナーコントロールキー(50~53ページ)
FM/AM放送を聴くときに使います。
メモリー
MEMORY: 受信したAM/FM局をプリセットするときや、FM局をオートプリセットするときに押します。
エディット チューニング モード
EDIT: プリセット局を入れかえるときに押します。
TUNING MODE: マニュアルチューニング(手動選局)またはオートチューニング(自動選局)を選びます。
FM/AM: AM放送、FM放送を切り換えます。
チューニング アップ ダウン
TUNING UP/DOWN: 選局します。
- 6** エクスターナルデコーダー
EXT. DECODERキー
入力ソースにEXTERNAL DECODER INPUT端子につないだ機器を選択します。キーを押すたびにEXT. DECODER↔オフ(インプットセクターで選んでいる機器の入力)が切り替わります。
- 7** インプット セクター
INPUT SELECTOR
再生したいソースを選択します。(34ページ)
- 8** インプット モード
INPUT MODEキー
CD、TAPE/MD、DVD/LD、TV/DBS入力の優先/固定モードを切り換えます。AUTO(信号に応じてデジタルとアナログが自動的に切り換わる)/DTS(DTS信号固定)/ANALOG(アナログ信号固定)を切り換えます。
- 9** ボリューム
VOLUMEツマミ/インジケーター
全体の音量を調節します。右に回すほど音量が大きくなります。
リモコンのMUTEキーを押してミュート(消音)にすると、インジケーターが点滅します。
- 10** ホーンズ
PHONES端子
ヘッドホンを接続します。メインチャンネルの音が出力されます。ヘッドホンだけで聞くには、SPEAKERSスイッチ(A・B)をオフにし、EFFECTキーでEFFECT OFFにしてください。
- 11** スピーカース
SPEAKERSスイッチ
本機に接続したメインスピーカーA・Bを選択します。A・B両方のスイッチをオンにすると、A・B両方のメインスピーカーから音が出ます。
SPEAKERSスイッチをオン/オフするときは、音量を絞ってください。
- 12** バス エクステンション
BASS EXTENSIONスイッチ
スイッチを押してONにすると、メインL、Rの低音域を+6dB(50Hz)強調することができます。
- 13** トーン バイパス
TONE BYPASSスイッチ
スイッチを押してONにすると、音声信号はトーンコントロール回路をバイパスしてフラットな特性で出力されます。
- 14** トーンコントロール
メイン左右チャンネルの低音(BASS)・高音(TREBLE)を調節します。
トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

- 15 バランス BALANCEツマミ
 メイン左右チャンネルの音量バランスを調節します。L側に回すほど、R(右)側の音が小さくなり、R側に回すほど、L(左)側の音が小さくなります。通常は0位置にセットしておきます。

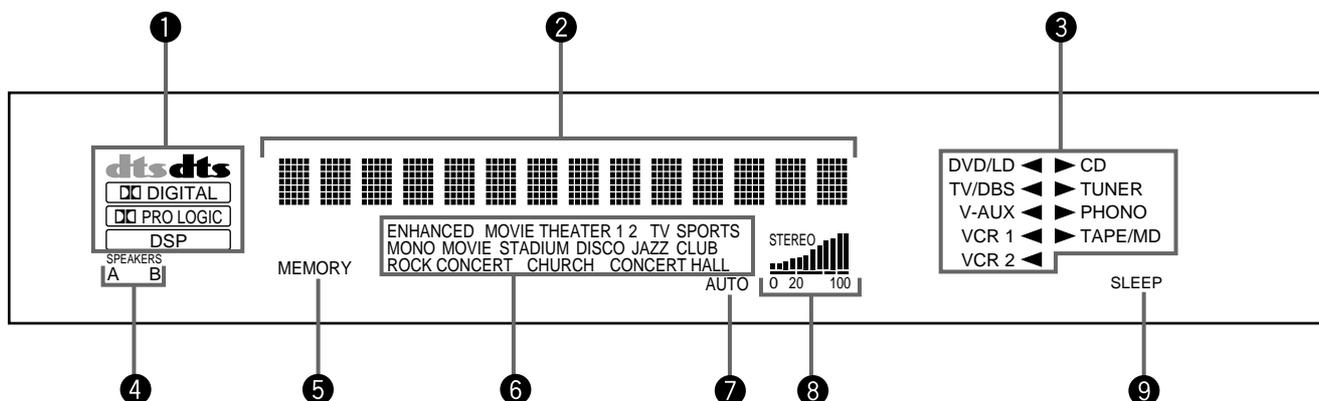
ご注意

BALANCEコントロールは、メイン左右チャンネルだけにはたらき、センターおよびリアチャンネルにははたらきません。

- 16 レック アウト REC OUTセクター
 録音、録画するソースを選びます。
- 17 レベル LEVELキー
 スピーカー出力レベルを調節するときに押します。
- 18 - / + キー
 セットメニュー項目の内容、スピーカー出力レベルを調節します。

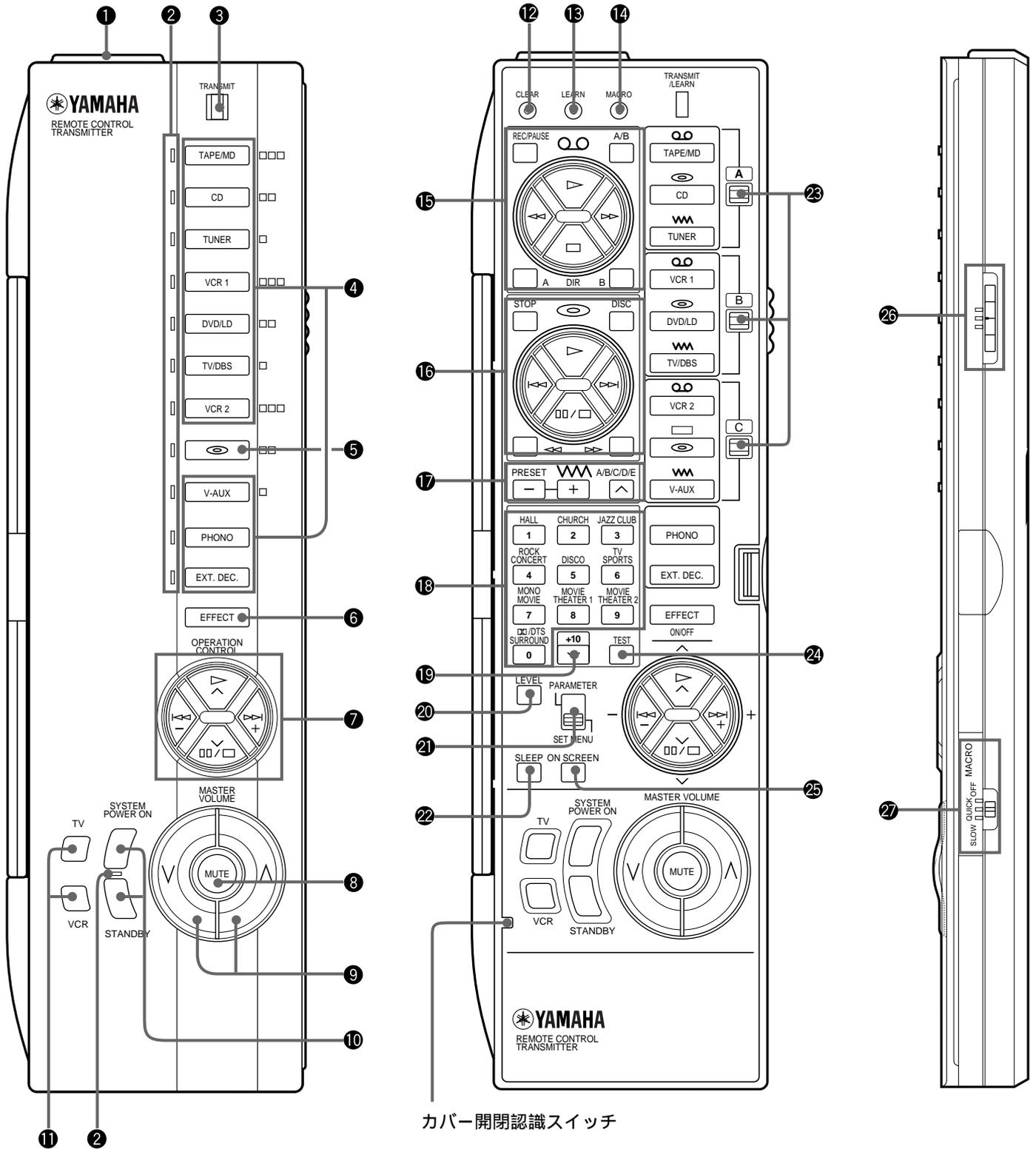
- 19 セット メニュー SET MENUキー
 セットメニューの項目を選びます。
- 20 プログラム PROGRAM◀/▶キー
 音場プログラムを選択します。(49ページ)
- 21 エフェクト EFFECTキー
 音場プログラムの効果をON/OFFします。OFFにすると、通常のステレオ再生になります。(センタースピーカーとリアスピーカーからの音は出ません。)
- 22 ビデオ エーユエックス VIDEO AUX入力端子
 ビデオカメラなどの機器を接続する予備入力端子です。
 S-VIDEO端子 : Sビデオの入力端子です。
 VIDEO端子 : ビデオの入力端子です。
 AUDIO L, R端子 : オーディオ(音声)の入力端子です。
 モノラルの場合は、L, Rどちらかの端子に接続するか、市販のモノラルステレオ変換ケーブルを使います。

ディスプレイ

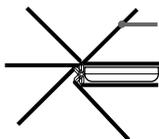


- 1 プロセッシングインジケータ プロセッシングインジケータ
 DTS(赤色 **dts** : CDまたはLD、オレンジ色 **dts** : DVD) / ドルビーデジタル / ドルビープロ・ロジックデコーダの動作中、DSP音場処理中にそれぞれのインジケータが点灯します。
メモ
 LDコンパチブルプレーヤーでDVDやビデオCDなどを再生したあとでDTS対応LDを再生した場合、オレンジ色の **dts** インジケータが点灯することがありますが支障ありません。
- 2 音場プログラム名 / 設定値表示 / 周波数表示
 選択した音場プログラム名、およびスピーカーレベルやパラメータ、セットメニューなどのさまざまな設定値を操作に応じて表示します。また、チューナー入力の際は、受信している放送局の周波数やプリセット番号を表示します。
- 3 入力ソースインジケータ
 インпутセクターで選んだソースの◀または▶のインジケータが点灯します。
- 4 スピーカース SPEAKERS A/Bインジケータ
 SPEAKERSスイッチで選んだメインスピーカーA、Bが点灯します。
- 5 メモリー MEMORYインジケータ
 チューナーの放送局をプリセットするとき、MEMORYキーを押すと点滅します。
- 6 音場プログラムインジケータ
 選択した音場プログラムのインジケータが点灯します。
- 7 オート AUTOインジケータ
 チューナーの選局モードをオートにすると点灯します。
- 8 受信強度インジケータ
 チューナーの受信電波の強さを示します。ステレオ放送を受信すると「STEREO」が点灯します。
- 9 スリープ SLEEPインジケータ
 スリープタイマーの動作中に点灯します。

リモコン



カバー開閉認識スイッチ



カバー カバーは360度回転します。

ご注意

カバーを閉めるときは、最初にサイド側のヒンジをカチッと音がするまで押し込んでから、カバーを閉めます。

- ① 送受信窓
リモコンのコントロール信号を送信・受信します。
- ② マクロマーク
マクロ機能のあるキーを示します。
- ③ ^{トランスミット} TRANSMIT/^{ラーン} LEARNインジケーター
リモコン操作時に点灯します。
また、ラーニング中、消去中は点滅/点灯します。
- ④ インプットセクター
再生するソースを選択します。
- ⑤  キー
リモコンのカバーを閉めた状態で、ヤマハのLDプレーヤーを操作するときに使います。 キーを押してから、オペレーションコントロールキーで操作します。
「空き」キーとしてリモコン信号をラーニングすることもできます。
- ご注意**
このキーにはインプットセクターの機能はありませんので入力を切り替えることはできません。
- ⑥ ^{エフェクト} EFFECT キー
音場効果をオン/オフします。
- ⑦ ^{オペレーション} OPERATION ^{コントロール} CONTROL キー
カバーを閉じたとき
インプットセクターで選んだ機器の基本的な操作ができます。
- ご注意**
ヤマハ以外の機器は、ラーニング後にリモコン操作できません。
- カバーを開けたとき
、 、 +、 - キーとして働きます。
パラメーターまたはセットメニューを選び、設定するときに使います。
- ⑧ ^{ミュート} MUTE キー
押すと音量が下がります。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。また、MASTER VOLUME キーなどを押してももとの音量に戻ります。
ミュート中は本体のVOLUMEつまみのインジケーターが点滅します。
- ⑨ ^{マスター} MASTER ^{ボリューム} VOLUME キー
キーを押すとスピーカーシステム全体の音量が大きくなり、^{ミュート} MUTE キーを押すと小さくなります。
- ⑩ ^{システム} SYSTEM ^{パワー} POWER ^{オン/スタンバイ} ON/STANDBY キー
本体の電源を入れるときはSYSTEM POWER ONキーを、電源を切るときはSTANDBYキーを押します。
- ⑪ TV、VCRキー
「空き」キーです。ラーニング後に使うことができます。
- ⑫ ^{クリア} CLEAR ボタン
ラーニング内容を消去するときに押します。
- ⑬ ^{ラーン} LEARN ボタン
ラーニングするときに押します。
- ⑭ ^{マクロ} MACRO ボタン
マクロ設定するときに押します。
- ⑮  ゾーンコントロールキー
ヤマハのリモートコントロール対応テープデッキの操作信号がエリアAに、MDの操作信号がエリアCにプリセットされています。テープデッキを操作するときはA/B/CスイッチをAに、MDを操作するときはCにします。
REC/PAUSE：録音待機状態になります。
A/B：ダブルデッキのデッキAとデッキBを切り替えます。(テープデッキのみ)
PLAY▷：再生を始めます。
□：再生または録音を停止します。
◀◀：◀◀方向に早送りします。(MDでは曲の頭にもどります。)
▶▶：▶▶方向に早送りします。(MDでは次の曲の頭に進みます。)
DIR A：デッキAのテープ走行方向を選択します。(テープデッキのみ)または、オートリパーステープデッキのテープ走行方向を選択します)
DIR B：デッキBのテープ走行方向を選択します。(テープデッキのみ)
- ご注意**
VCR 1およびVCR 2は、ラーニング後にリモコン操作できません。
- ⑯  ゾーンコントロールキー
ヤマハのリモートコントロール対応CDプレーヤーの操作信号がエリアAに、DVDプレーヤーの操作信号がエリアBに、LDプレーヤーの操作信号がエリアCにプリセットされています。CDを操作するときはA/B/CスイッチをAに、DVDを操作するときはBに、LDを操作するときはCにします。
STOP：演奏を停止します。(LDまたはDVDのみ)
DISC：ディスク番号を選びます。(CDチェンジャーおよびDVDチェンジャーのみ)
◀◀：曲/チャプターの頭に戻ります。
▶▶：次の曲/チャプターの頭に進みます。
PLAY▷：演奏を始めます。
⏏/□：一度押すと一時停止、もう一度押すと停止します。
◀◀：前方向に早送りします。
▶▶：後方向に早送りします。

各部の名称とはたらき

17 WMゾーンコントロールキー

ヤマハのリモートコントロール対応チューナーの操作信号がプリセットされています。A/B/CスイッチをエリアAに設定し、操作します。

PRESET - / + : プリセットされた放送局を選局します。

A/B/C/D/E : プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。

ご注意

TV/DBSおよびV-AUX(本体前面のVIDEO AUX入力端子に接続した機器)は、ラーニング後にリモコン操作できます。

18 音場プログラムキー

音場プログラムを選びます。

19 +10キー

「空き」キーです。ラーニング後に使うことができます。

20 LEVELキー

スピーカーレベルの調整モードに入ります。

21 PARAMETER/SET MENUスイッチ

パラメーターモードとセットメニューモードを切り替えます。

22 SLEEPキー

スリープタイマーを設定します。

23 エリアインジケーター

A/B/Cスイッチで選ばれたエリアがオレンジ色で表示されます。

24 TESTキー

押すとテストトーンを出力します。
スピーカーレベルを調整するときに使います。

25 ON SCREENキー

テレビ画面に本機の操作状態や音場プログラムのパラメーター内容などを表示することができます。押すたびにフル表示 ショート表示 表示オフが切り替わります。

26 A/B/Cスイッチ

エリアA、B、Cを切り替えます。

エリアAの位置にして操作する機器

ヤマハのテープデッキ : QOゾーンのキーを使います。

ヤマハのCDプレーヤー : ◎ゾーンのキーを使います。

ヤマハのチューナー : WMゾーンのキーを使います。

エリアBの位置にして操作する機器

VCR 1 : QOゾーンのキーにラーニングしてから操作できます。

DVDプレーヤー : ◎ゾーンのキーにラーニングしてから操作できます。(ヤマハのDVDがプリセットされています。)

TV/DBS : WMゾーンのキーにラーニングしてから操作できます。

エリアCの位置にして操作する機器

VCR 2 : QOゾーンのキーにラーニングしてから操作できます。(ヤマハのMDがプリセットされています。)

LDプレーヤー : ◎ゾーンのキーを使います。(ヤマハのLDがプリセットされています。)

VIDEO-AUX : WMゾーンのキーにラーニングしてから操作できます。

メモ

音場プログラムキーはA、B、Cの各エリアで操作できます。

27 MACROスイッチ

マクロ機能を使うときに"QUICK"または"SLOW"の位置にします。マクロ機能を使わないときは"OFF"の位置にします。(P.43参照)

リモコンの蓄光機能について

本リモコンの白いキーには蓄光機能があり、暗いところではキーが光ります。

キーが光らなくなったときは、リモコンを明るいところに置いて蓄光させてください。

オンスクリーン・ディスプレイ

本機にモニター(テレビ、またはプロジェクター)を接続すると、本機の操作内容などを映像に重ねて表示させることができます(オンスクリーン表示)。

セットメニューやパラメーターコントロールを設定する際にオンスクリーンを利用すれば、項目や設定値が分かりやすく表示されるため、本体のディスプレイ表示に比べて大変便利です。

メモ

映像信号が入力されていないときはモニター画面は青色になります。

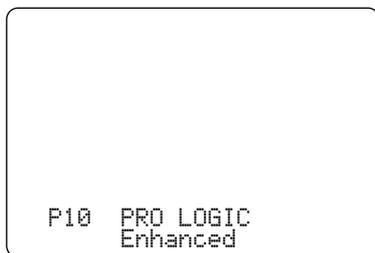
オンスクリーン表示はREC OUTに出力されないため映像と一緒に録画されることはありません。

表示の種類

フル表示例



ショート表示例



オンスクリーン表示には次の3種類があります。

フル表示: 音場プログラムのパラメーターが、常にモニター表示されます。音場プログラムのパラメーターについては、58ページの「音場プログラムのパラメーターを変更する」を参照してください。

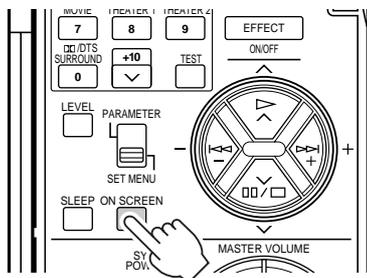
ショート表示: 本体のディスプレイと同じ内容(操作状態)が、モニター画面の下に数秒間表示された後、消えます。

表示OFF: モニター画面の下に「DISPLAY OFF」が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。

メモ

セットメニューやテストトーン調節時は表示の種類にかかわらずモニター表示されます。“フル表示”または“ショート表示”選択時、インプットセレクター/レベルコントロールなどの操作は、本体ディスプレイと同じ内容が画面下に数秒間表示されます。

表示の切り替え



1 電源を入れると、モニター画面、および本体のディスプレイに現在選択されている音場プログラムが表示されます。

2 リモコンのON SCREENキーを押すと、オンスクリーンの表示フォーマットがフル表示 ショート表示 表示OFF(DISPLAY OFF) フル表示 ...の順に切り替わります。

メモ

S-VIDEOとVIDEOの両方を接続しているソースをインプットセレクターで選択し、さらにMONITOR OUTにS-VIDEOとVIDEOの両方が接続されている場合、映像は両方に出力されますが、オンスクリーンはS-VIDEO側に表示され、VIDEO側には表示されません。(映像信号が入力されていない場合は、両方に表示されます。)

コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を入力した場合、オンスクリーンの表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

スピーカーモードの設定 < 再生の前に >

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、5種類のスピーカーモード(センタースピーカー/リアスピーカー/メインスピーカー/バスアウト/メインレベル)を設定します。セットメニューの各スピーカーモードを呼び出しスピーカーモードの確認、および設定を行ってください。

EXT. DECODER(外部デコーダー)入力の際、スピーカーモード1~4の設定は出力に影響しません。メインスピーカーレベルのみが「5. MAIN LEVEL」の設定に従って出力されます。

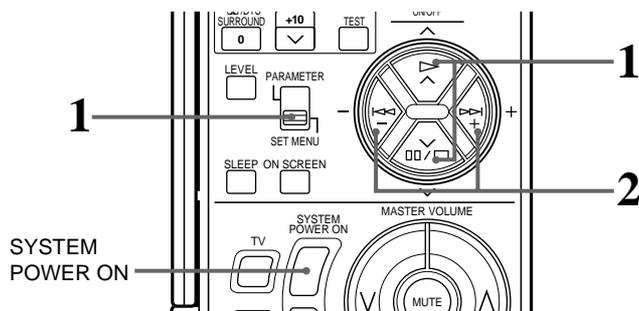
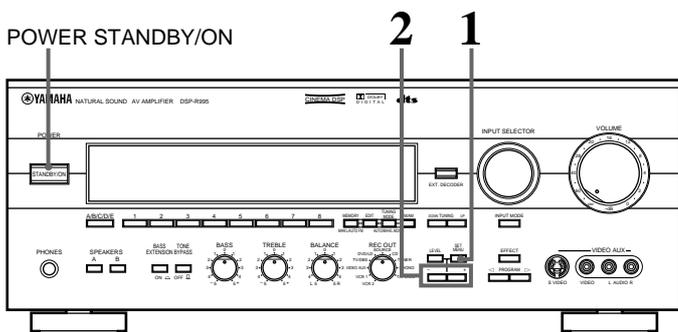
設定はモニター画面を見ながら行うことをおすすめします。本体のディスプレイ表示でも設定できますが、モニター画面の方が視覚的にわかりやすく設定できます。

スピーカーモードの設定内容

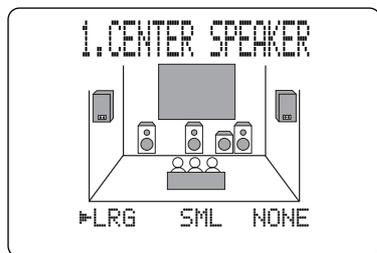
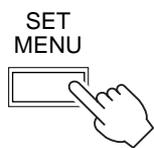
項目	設定内容	初期設定	可変範囲
センタースピーカー 1. CENTER SPEAKER	センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。	LRG	LRG/SML/NONE
リアスピーカー 2. REAR SPEAKER	リアスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL
メインスピーカー 3. MAIN SPEAKER	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL
バスアウト 4. LFE/BASS OUT	LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。	SW	SW/MAIN/BOTH
メインレベル 5. MAIN LEVEL	メインスピーカーレベルを選択します。	Normal	Normal/ -10dB

設定のしかた

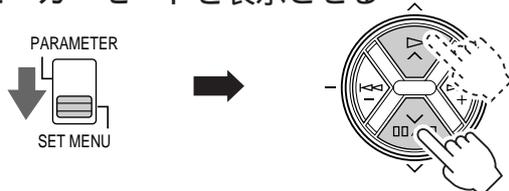
本体のPOWER STANDBY/ONキーまたはリモコンのSYSTEM POWER ONキーを押して電源を入れます。



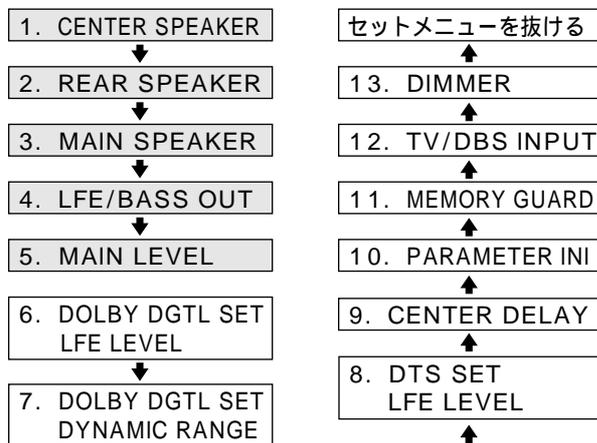
1 SET MENUキーを何回か押して、設定したいスピーカーモードを表示させる



リモコンでは、PARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせ、/キーを何回か押して設定したいスピーカーモードを表示させる



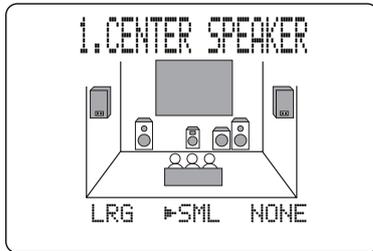
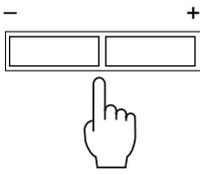
SET MENUキーまたは / キーを押すと、セットメニューは次の順序で表示されます。1~5がスピーカーモードです。



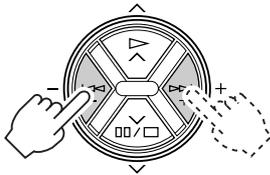
キーを押すと逆順に表示されます。

2 - / + キーを押して設定する

<本体>



<リモコン>



スピーカーモードの設定が終わったら

SET MENUキー(リモコンは / キー)を何回か押してセットメニューの表示を消します。

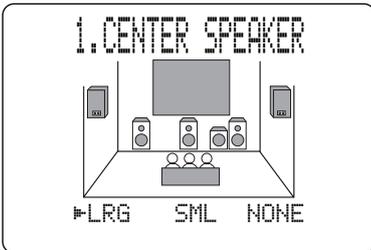
メモ

テストトーンでのスピーカーレベル調節中に、スピーカーモードの設定を行うと、モニター画面では、テストトーンが出ているスピーカーが点滅表示します。

各スピーカーモードの設定内容

1. CENTER SPEAKER(センタースピーカーモード).....

ラージ



使用するセンタースピーカーに合わせて、モード(LRG/SML/NONE)を選択します。

ラージ
LRG:

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域を、そのままセンタースピーカーに出力します。

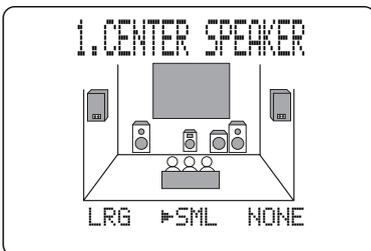
スモール
SML:

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4. LFE/BASS OUT」(31ページ)で選択したスピーカーに出力します。

ノン
NONE:

センタースピーカーを使用していないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL, Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

スモール



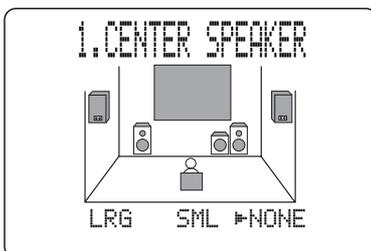
モニター画面には、センタースピーカーモードの状態がイラスト表示されます。

LRGのとき、センタースピーカーは大型になります(観客3人)、SMLのとき、センタースピーカーは小型になります(観客3人)、NONEのときはセンタースピーカーはなくなり、観客も1人になります。センタースピーカーを使用することで画像と音像が一致し、より多くの観客で楽しむことを表しています。

メモ

センタースピーカーをNONEに設定した場合のモニター画面は、他のスピーカーモードの設定にかかわらず観客は1人になります。

ノン



スピーカーモードの設定 < 再生の前に >

2. REAR SPEAKER(リアスピーカーモード).....

ラージ



使用するリアスピーカーに合わせて、モード(LARGE/SMALL)を選択します。

ラージ
LARGE: リアスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーへサブウーファーをスピーカーケーブル結線して使用する場合(8ページ)のモードです。リアチャンネル信号の全帯域を、そのままリアスピーカーに出力します。

スモール
SMALL: リアスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアチャンネル(サラウンド)信号の90Hz以下の低音域は、「4. LFE/BASS OUT(31ページ)」で選択されたスピーカーに出力されます。

スモール



モニター画面には、リアスピーカーモードの状態がイラスト表示されます。LARGEのときリアスピーカーは大型になり、SMALLのときはリアスピーカーは小型になります。

3. MAIN SPEAKER(メインスピーカーモード).....

ラージ

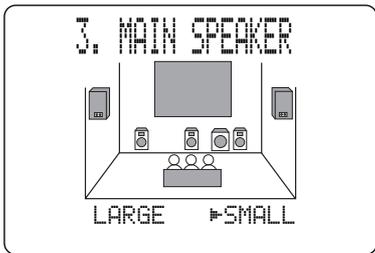


使用するメインスピーカーに合わせて、モード(LARGE/SMALL)を選択します。

ラージ
LARGE: メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL, Rチャンネル信号の全帯域を、そのままメインL, Rスピーカーに出力します。

スモール
SMALL: メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL, Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4. LFE/BASS OUT(31ページ)」で選択されたスピーカーに出力されます。

スモール

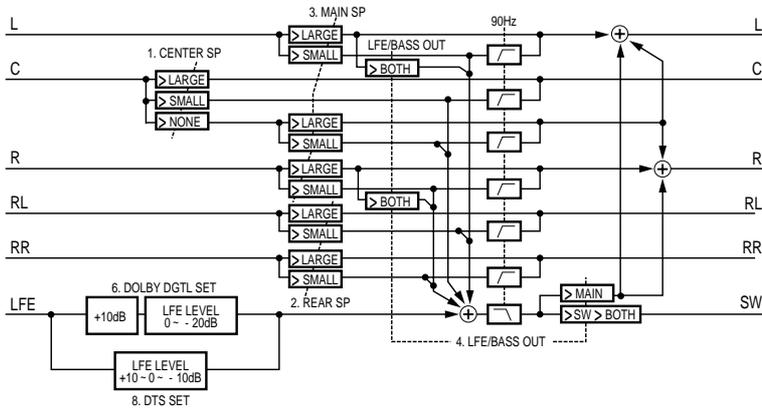


モニター画面には、メインスピーカーモードの状態がイラスト表示されます。LARGEのときメインスピーカーは大型になり、SMALLのときはメインスピーカーは小型になります。

メモ

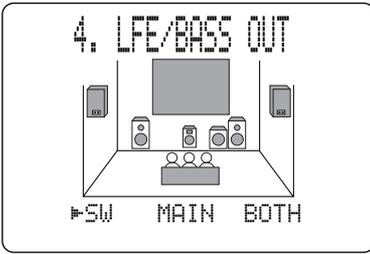
“SMALL”設定時でも、LFE/BASS OUTの設定が“MAIN”の場合は、メインL, Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はそのままステレオでメインに出力されます。

スピーカーモードの信号経路



4. LFE/BASS OUT(LFE/バスアウトモード).....

サブウーファー



メイン



ボース



LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。

(LFE信号:ドルビーデジタルやDTSなどに含まれる低域効果音.....16ページ)

サブウーファー

SW: サブウーファーを使用する場合。
LFEと、1～3の設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、サブウーファーに出力されます。

メイン

MAIN: サブウーファーを使用しない場合。
LFEと、1～3の設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、メインL/Rスピーカーに出力されます。

ボース

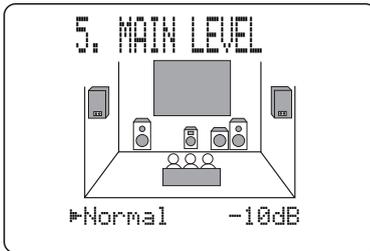
BOTH: サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーの低音域をサブウーファーにミックスする場合。
LFE、メインチャンネルの低音域(90Hz以下)と、1～3の設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、サブウーファーに出力されます。

メモ

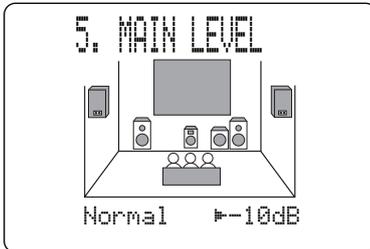
“BOTH”に設定し、なおかつメインスピーカーを“LARGE”に設定すると、メインスピーカーとサブウーファーの両方でメインの低音域を再生することができます。
バスアウトモードの設定中は、モニター画面では、LFE/BASS OUT信号が出力されるスピーカーが点滅表示されます。

5. MAIN LEVEL(メインレベルモード).....

ノーマル



-10dB



メインスピーカーの音量レベルを選択します。テストトーンでのスピーカーレベル調整(30ページ)の際に設定しておけば、再度設定する必要はありません。

ノーマル

Normal: 通常はこの設定にします。テストトーンでのスピーカーレベル調整も、まずこの設定で行います。

-10dB: テストトーンでのスピーカーレベル調整の際、リア・エフェクトスピーカーおよびセンタースピーカーの音量レベルを最大(+10dB)にしてもメインスピーカーよりも音が小さい場合は、この設定にします。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。

モニター画面のメインスピーカーは点滅し続けます。

スピーカーレベルの調節 <再生の前に>

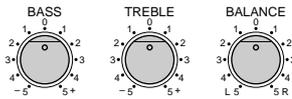
テストトーンを聞きながら、設置した各スピーカーの音量レベルが同じになるように調節します。一度調節すれば、スピーカーや部屋を変えたりしない限り、再度調節する必要はありません。

リモコンで操作します。

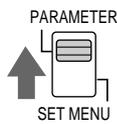
実際の視聴位置で調節してください。

調整の前に行うこと

本体のトーンコントロール(BASS, TREBLE)とBALANCEコントロールを「0(中央)」にセットします。

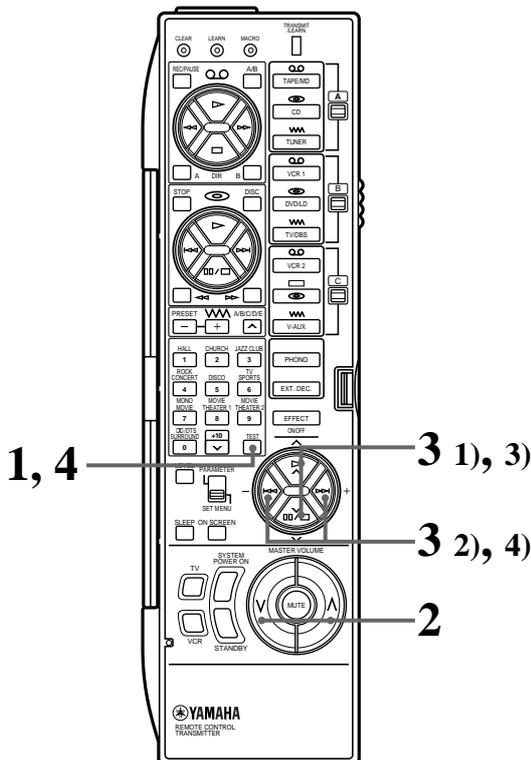


リモコンのPARAMETER/SET MENUスイッチをPARAMETERにします。



ご注意

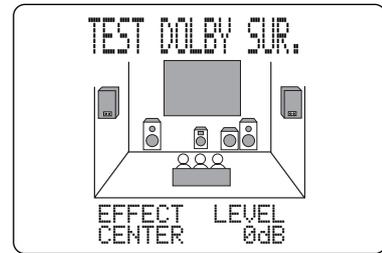
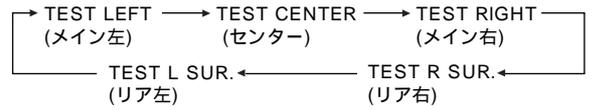
PARAMETER/SET MENUスイッチがSET MENUになっているとスピーカーのレベル調整はできません。



1 TESTキーを押す



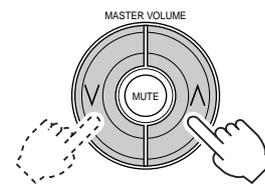
各スピーカーからテストトーンが約2.5秒ずつ聞こえ、次のように表示されます。



リア・エフェクトスピーカーLの調整中はL SUR.表示
リア・エフェクトスピーカーRの調整中はR SUR.表示

センターモードのNONEを選んでいるときは、センタースピーカーからテストトーンは出ません。テストトーンに同期してモニターのスピーカー表示が点滅します。

2 テストトーンの音量をVOLUMEで調節する



テストトーンが聞こえない場合や、スピーカーの表示と聞こえる位置が違うときは、VOLUMEを絞って電源を切ってから、スピーカーの接続を確認してください。

3 センタースピーカーとリアスピーカーの音量を調節する

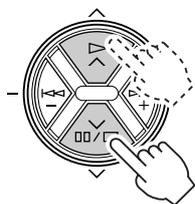
調節するスピーカーを選ぶには： / キーを押して調節するスピーカー表示 (CENTER、L SUR.、R SUR.) にします。同じキーを押し続けると、選択したスピーカーにテストトーンを固定することができます。

音量調節するには： - / + キーを押します。調節中のスピーカーにテストトーンが固定されます。

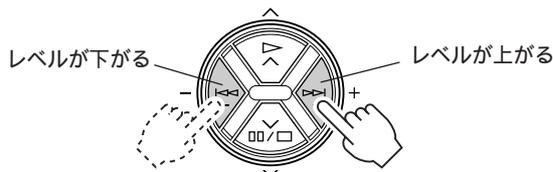
センター、リアL、リアRからテストトーンが出ているときは、- / + キーでテストトーンを出しているスピーカーの音量調節ができます。 / キーでスピーカーを選ぶ必要はありません。

センタースピーカーの音量調節：

- 1) / キーを押して 'CENTER' 表示にする



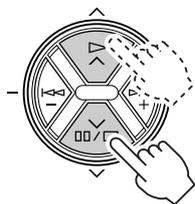
- 2) センタースピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように - / + キーを押して調節する



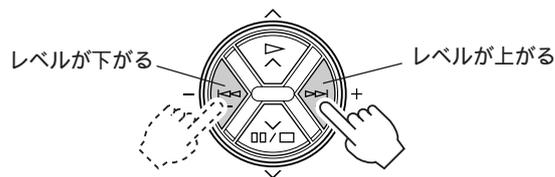
センターモードがNONEのときはセンターレベルの調節はできません。また、メインスピーカーに振り分けられたセンターチャンネルの音量も調節できません。

リアスピーカーの音量調節：

- 3) / キーを押して 'L SUR.' または 'R SUR.' 表示にする



- 4) リアスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように - / + キーを押して調節する



3)と4)の手順をくり返して左右のリアスピーカーの音量を調節してください。

- 4 調節が終わったら、TESTキーを押す



テストトーンが消えます。

調節できるレベルの範囲

MINと - 20dBから + 10dBです。調節したレベルが約1秒表示されます。MINのときは音量が最小になります。キーを押し続けて調節しているときに、いったん止まる値が初期値(0 dB)です。

ご注意

テストトーンでの調節では、メインスピーカーの音量を変えることはできません。

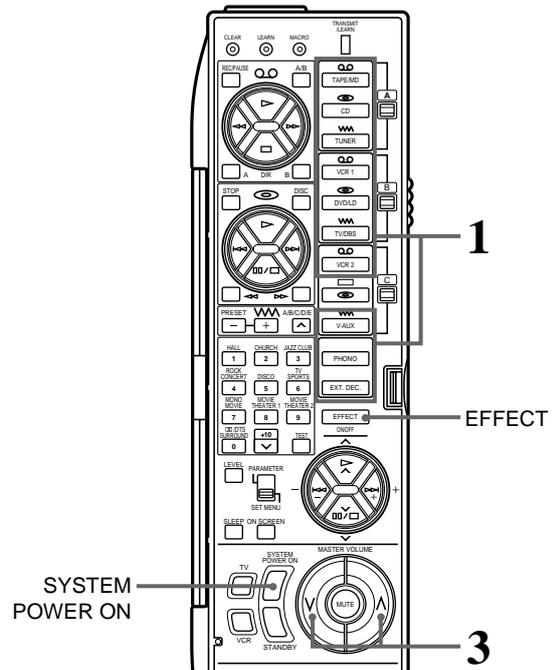
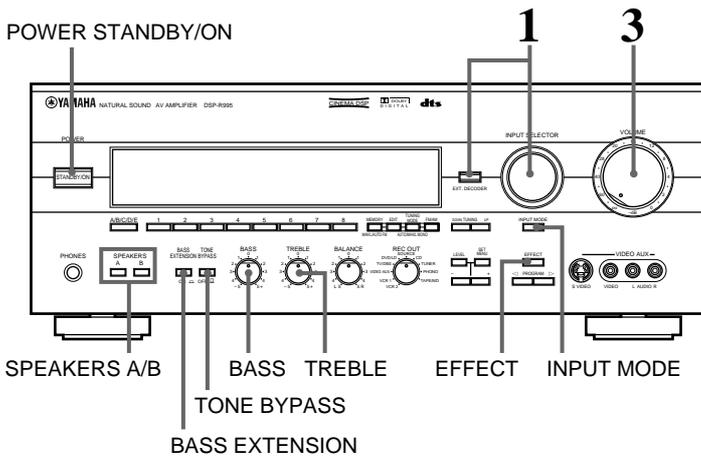
メモ

リア・エフェクトスピーカーおよびセンタースピーカーの音量レベルを + 10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニューの「5. MAIN LEVEL(メインレベル)」を「- 10dB」に設定します(31ページ)。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカー、リアスピーカーのレベル調整をもう一度行ってください。

外部デコーダー入力の場合も、センター、リアのレベル調節ができます。

再生する

VOLUMEを絞ってからPOWER STANDBY/ONスイッチまたはリモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。メインスピーカーを2組接続している場合は、SPEAKERSスイッチで使用使用するスピーカーを設定します。

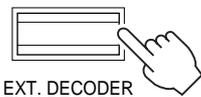
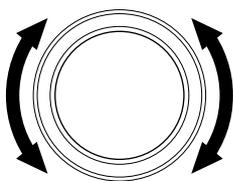


1 インットセクターで再生するソースを選ぶ

本体では、インットセクターを回して選びます。6チャンネルディスクリット音声を聴くときは、EXT. DECODERキーを押してます。リモコンでは再生するソースのインットセクターを押します。

<本体>

INPUT SELECTOR

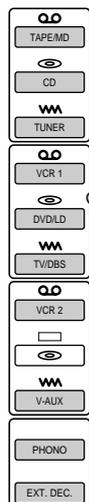


EXT. DECODER

選んだソースのインジケーターが点灯する

DVD/LD	CD
TV/DBS	TUNER
V-AUX	PHONO
VCR 1	TAPE/MD
VCR 2	

<リモコン>



オーディオ系

CD : CDを聴く。

TUNER : 本機のAM/FM放送を聴く。

PHONO : レコードを聴く。

TAPE/MD : テープデッキまたはMDを聴く。

EXT. DECODER :

EXTERNAL DECODER INPUT端子に接続したビデオ機器の音声を6チャンネルディスクリットで聴く。

EXT. DECODER(リモコンではEXT. DEC. 弁を押すたびにEXT. DECODER オフ(EXT. DECODERキーを押す前に選んでいた入力)が切り換わります。

6チャンネルディスクリット音声を聴くときは“EXT. DECODER”表示にします。

例 : DVDプレーヤーの音声をEXTERNAL DECODER INPUT端子に接続した外部デコーダーからの6チャンネルディスクリットで楽しむには

インットセクターでDVD/LDを選び、EXT. DECODERキー(リモコンではEXT. DEC.キー)を押してEXT. DECODER表示にします。DVDの映像とともに、DVDの音声を6チャンネルディスクリットでお楽しみいただけます。音声をデジタル入力やアナログ2チャンネル入力に戻すには、EXT. DECODERキー(リモコンではEXT. DEC.キー)を押して“EXT. DECODER”表示を消します。

ビデオ系

- DVD/LD : DVDまたはLDを見る。
 TV/DBS : テレビ放送または衛星放送を見る。
 VIDEO AUX : 前面のVIDEO AUX端子に接続したAV機器を再生する。
 VCR 1 : ビデオデッキ1のビデオを見る。
 VCR 2 : ビデオデッキ2のビデオを見る。

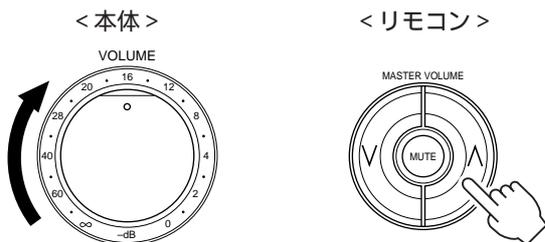
ソースを選択すると、ディスプレイと画面にソース名と入力モード(DVD/LD入力時:“AUTO/D.D.RF/DTS/DGTL/ANALOG”、CD、TAPE/MD、TV/DBS入力時:“AUTO/DTS/ANALOG”)を数秒間表示した後、入力ソースを表示してから元の画面に戻ります。TUNER、PHONO、VCR 1、VCR 2、V-AUXでは入力ソース名だけを表示して、元の画面に戻ります。

ご注意

“EXTERNAL DECODER”表示になっていると他の入力ソースを再生できません。外部デコーダーからの音声を再生しないときは、EXT. DECODER(リモコンではEXT. DEC. 卍を押して、“EXTERNAL DECODER”表示を消してください。

2 ソースの再生を始める

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

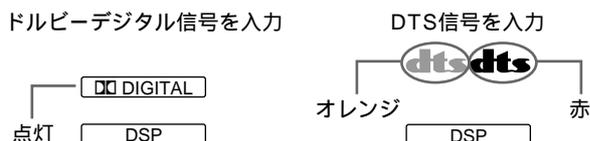
3 VOLUMEで音量を調節する

必要ならば、音質をトーンコントロール(BASS、TREBLE)で調節します。「音質調節(37ページ)を参照してください。

ご注意

REC OUT端子に接続されている機器の電源が切られている場合、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

ドルビーデジタル信号やDTS信号を入力したときの表示



リアパネルのV DIGITAL RF SIGNAL端子からドルビーデジタルRF信号(P.17参照)を入力したとき、またはデジタル入力端子からドルビーデジタル信号を入力すると、本体のディスプレイにDIGITALインジケータが点灯します。また、デジタル入力端子からDTS信号を入力するとDTSインジケータが点灯します。DTS対応のCDやLDを入力すると赤色のDTSインジケータが、DTS対応のDVDを入力するとオレンジ色のDTSインジケータが点灯します。DTS対応のCDやLDの入力時にオレンジ色のDTSインジケータが点灯しても支障ありません。(73ページ参照)

ご注意

DTS対応のLDやCDの再生中、“INPUT DATA ERR”と表示され、音が出なくなった場合は、再生を止めてからプレイヤーの電源を入れ直してください。

再生する

INPUT DVD/LD
AUTO:DOLBY DGTL

AUTO設定
AUTO:DOLBY DGTL

ドルビーデジタル再生時

AUTO:DTS

DTS再生時

AUTO:PCM

PCM再生時

AUTO:ANALOG

アナログ再生時

D. D. RF (ドルビー
デジタルRF) 固定

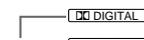
D. D. RF

D. D. RF再生時

D. D. RF: ---

D. D. RF信号入力がない時

ドルビーデジタルRF信号を入力



DTS固定

DTS

DTS再生時

DTS: ---

DTS信号入力がない時

DTS信号を入力



DGTL固定

DGTL:DOLBY DGTL

ドルビーデジタル再生時

DGTL:DTS

DTS再生時

DGTL:PCM

PCM再生時

DGTL: ---

デジタル信号入力がない時

ANALOG固定

ANALOG

入力モードについて

本機には、多彩な音声入力端子(ドルビーデジタルRF [DVD/LDのみ] DIGITAL OPTICAL [CD、TAPE/MD、DVD/LD、TV/DBSのみ] DIGITAL COAXIAL [CDのみ] アナログ)が装備されています。入力モードは、これらの入力端子の優先/固定を切り替えることにより、ソースに収録されているドルビーデジタル音声、デジタル音声、アナログ音声をそれぞれ楽しんでいただける機能です。入力モードにはこれに加えて、DTS対応ディスク用に「DTS」固定モードがあります。

AUTO: ドルビーデジタル対応のDVD/LDからドルビーデジタル信号(RF入力)とデジタル信号とアナログ信号が入力された場合、自動的に「ドルビーデジタル(RF入力) デジタル(DTS、PCM) アナログ」の優先順位で信号を選択します。

その他の入力(CD、TAPE/MD、TV/DBS)では、「ドルビーデジタル デジタル(DTS) デジタル(PCM) アナログ」の優先順位で信号を選択します。

D. D. RF: ドルビーデジタルRF入力固定(DVD/LD入力時のみ)

DTS: DTS信号固定。

DGTL: デジタル入力固定。デジタルの光端子または同軸端子から入力されたデジタル信号を再生します。

ANALOG: アナログ入力固定。アナログ端子から入力された信号を再生します。ドルビーデジタル再生やDTS再生は行われません。

入力モードの切り替え

リモコンのインプットセレクター、または本体のINPUT MODEキーを押すと、現在の入力モードを表示します。入力モード表示中にもう一度押すと入力モードを切り替えることができます。

ご注意

再生機器によっては、アナログとデジタルで異なる信号を出力する場合があります。必要に応じて入力モードを切り替えてください。

デジタル音声が入っていないLDソフトでは、アナログ接続して、入力モードを「ANALOG」に設定してください。

DVD/LD、CD、TAPE/MDでの入力モードの設定は、電源を切ると「AUTO」にリセットされます。

TV/DBSでの入力モードの設定は、電源を切るとセットメニュー「12. TV/DBS INPUT」(66ページ参照)で設定されたモードにリセットされます。

DVD/LD入力の「AUTO」モードは、ドルビーデジタル信号を検出すると自動的にデコーダーが切り替わるため、何も操作しなくてもドルビーデジタル音声を楽しめます。また、LDプレーヤーの通常の再生中以外では、ドルビーデジタル信号が検出されなくなるため、自動的にデコーダーがPCMに切り替わります。

LDのドルビーデジタル音声再生時、ポーズ/チャプター送りなどから再生に切り替えると、ドルビーデジタル音声に切り替わる前に、PCM/アナログ音声が一瞬出力されることがあります。このような場合は、インプットモードを「D. D. RF(固定)」に切り替えると、音声の断続は起こりません。

DTSソースの再生と入力モードの切り替えについて

DTS対応のCDやLDを「AUTO」の設定で再生すると、最初に本機がDTS信号を識別してDTSデコーダーが作動するまで短時間のあいだノイズが発生します。故障ではありませんが、これを避けるためには入力モードを「DTS」にしてください。

また、DTS対応のCDやLDを「AUTO」の設定で再生すると、本機は自動的に「DTS固定」となりその後のノイズ発生を防止します(赤色のDTSインジケーターが点灯)。この状態から通常のPCMのCDやLDを再生しても音が出ません(赤色のDTSインジケーターが点滅)。これらのディスクを再生するには、リモコンのインプットセレクターまたは本体のINPUT MODEキーを押して、入力モードを「DTS(固定)」から「AUTO」に戻してください(点滅していた赤色のDTSインジケーターが消える)。

DTS対応のCDやLDを「ANALOG」の設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するためノイズが出力されます。DTSソースを再生するときは必ずデジタル入力端子に接続し、「AUTO」または「DTS」に設定してください。

BGV機能(リモコン操作のみ)

リモコンのインプットセクターでビデオ系ソースを選択した後、オーディオ系ソースを選択すると、映像はそのまま残り、BGV(バックグラウンドビデオ)として楽しむことができます。

外部デコーダーからの音声入力について

6チャンネルディスクリット音声に対応しているDVDなどのソフトでは、6チャンネルディスクリット音声をお楽しみいただくこともできます。

6チャンネルディスクリット音声を聴くときは、EXT. DECODERキー(リモコンではEXT. DEC.キー)を押して“EXT. DECODER”表示にします。AUDIO SIGNAL端子の2チャンネル入力やDIGITAL端子の入力に切り換えるにはEXT. DECODERキー(リモコンではEXT. DEC.キー)を押して“EXT. DECODER”表示を消します。

音場プログラムを選ぶには

音場プログラムキーを押します。詳しくは49ページをご覧ください。

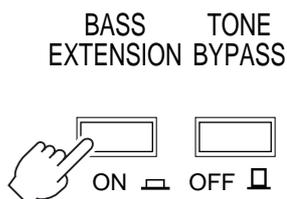
通常のステレオ再生するには

EFFECTキー(リモコンではEFCTキー)を押して“EFFECT OFF”表示にします。リア、センタースピーカーからの音は出ません。

入力をEXT. DECODER(外部デコーダー)にすると本機の音場プログラムは選べません。

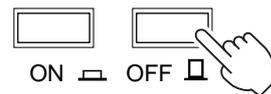
低音を強調するには

BASS EXTENSIONスイッチを押してONにします。解除するには、もう一度押してOFFにします。

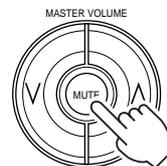
**音質をフラットにするには**

TONE BYPASSスイッチを押してONにします。トーンコントロールでの音質調節は無効になり、音質がフラットになります。もとの音質に戻すときは、もう一度押してOFFにします。

BASS TONE
EXTENSION BYPASS

**一時的に音量を下げるには**

リモコンのMUTEキーを押します。もう一度押すともとの音量に戻ります。また、リモコンのSLEEP、ON SCREEN、 / / - / + キー、WMゾーン / QDゾーン / Zゾーンコントロールキー、SYSTEM POWER ONキー以外のどのキーを押してももとの音量に戻ります。



ミュート中は“MUTE ON”を表示し、本体のVOLUMEコントロールのインジケーターが点滅します。

音質調節**BASS**

低音域を調節するつまみで、右(+)に回すほど低音域が強調され、左(-)に回すほど弱まります。

0の位置でフラットな特性になります。

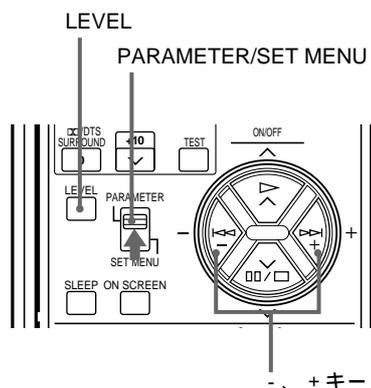
TREBLE

高音域を調節するつまみで、右(+)に回すほど高音域が強調され、左(-)に回すほど弱まります。

0の位置でフラットな特性になります。

トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。トーンコントロール(BASS・TREBLE)でメインを極端に強調したり弱めた場合、センターおよびリアとの音のつながりが悪くなりますので注意してください。

スピーカーレベルの再調節



ソースの再生音を聴きながらメインスピーカー以外のスピーカーレベルを調節することができます。

1. PARAMETER/SET MENUスイッチをPARAMETERにします。
2. LEVELキーを押すごとに、センター リアR リアL サブウーファー センターの順でスピーカーを選択できます。
調節したいスピーカーをLEVELキーで選んでから、-または+キーでレベルを調節します。

センター、リア、フロントスピーカーの調節範囲は、MIN、-20dB ~ +10dBです。
サブウーファースの調節範囲は、MIN、-20dB ~ 0dBです。

注意

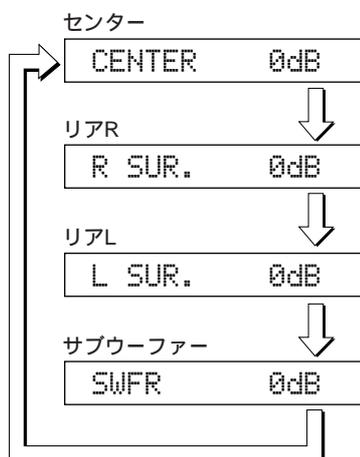
LEVELキーでスピーカーレベルを調節すると、テストトーンで調節したスピーカーレベルは無効となります。

セットメニューの 1. CENTER SPEAKER (センタースピーカーモード) が "NONE" に設定されている場合は、センターの項目は表示されません。また、選択した音場プログラムによっては調節できない項目があり、表示されません。

メモ

LEVELキーでレベル表示にすると、または キーでもスピーカーを選択することができます。キーを押すとLEVELキーと同じ順序でスピーカーが選択でき、キーを押すと逆方向に選択できます。

サブウーファースのレベルは音場プログラムを使わないときでも調節できます。PARAMETER/SET MENUスイッチがSET MENUのとき、レベル調整はできませんが、LEVELキーを押すごとに各スピーカーのレベルが表示されるのでスピーカーレベルの確認ができます。



リモコンで操作する

本機のリモコンでは、ヤマハ各機器の操作はもちろんのこと、各機器の基本的な操作を集中的に行えます(オペレーションコントロール機能)。また、一連の操作を一つのキーにインプットしたマクロ機能により、操作性が格段に向上しました。

メモ

本機のリモコンには、他のリモコンの信号をラーニング(学習)する機能もあります。ラーニングについては、67ページをご覧ください。

機器個別の操作をする カバーを開けて操作します

〇〇ゾーンにはヤマハのリモコン対応テープデッキおよびMD、⊖ゾーンにはヤマハのリモコン対応CD、DVDおよびLDプレーヤー、WMゾーンコントロールキーにはヤマハのリモコン対応チューナーをコントロールする信号がプリセットされており、各機器に対応するエリアを切り替えることで操作できます。マークが同じヤマハの機器のリモコンのキーと同様の操作ができます。詳細は各機器の取扱説明書をご覧ください。

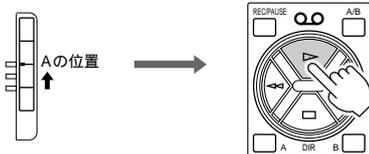
VCR 1、TV/DBS、VCR 2、およびV-AUXを操作するには、あらかじめ各機器のリモコン信号をエリアB、Cのゾーンコントロールキーにラーニングすることが必要です。ラーニングについては67ページをご覧ください。

1	カバーを開ける
2	入力ソースに合わせてA/B/Cスイッチを切り替える
3	インプットセレクターで入力を切り替え、対応するゾーンコントロールキーで操作する

例)ヤマハのテープデッキを再生する場合:

A/B/CスイッチをAの位置にする

〇〇ゾーンの▷を押す



A、B、C各エリアで操作できるキー

エリアA	エリアB	エリアC
<p>〇〇 ゾーン ヤマハの テープデッキ</p> <p>⊖ ゾーン ヤマハの CDプレーヤー</p> <p>WM ゾーン ヤマハの チューナー</p> <p>音場プログラム キー、TESTキー</p> <p>オレンジ色で 表示</p>	<p>〇〇 ゾーン 空き(VCR 1の リモコン信号を ラーニングして から操作できる)</p> <p>⊖ ゾーン ヤマハの DVDプレーヤー</p> <p>WM ゾーン 空き(TV/DBSの リモコン信号を ラーニングして から操作できる)</p> <p>音場プログラム キー、TESTキー、 +10キー(空き)</p> <p>オレンジ色で 表示</p>	<p>〇〇 ゾーン ヤマハの MDプレーヤー</p> <p>⊖ ゾーン ヤマハの LDプレーヤー</p> <p>WM ゾーン 空き(VIDEO-AUX端子 に接続した機器の リモコン信号を ラーニングして から操作できる)</p> <p>音場プログラム キー、TESTキー、 +10キー(空き)</p> <p>オレンジ色で 表示</p>
エリアAのキーには学習できません。	エリアBとCのキーは学習可能です。(67ページ参照)	

メモ

ヤマハのテープデッキ、CDプレーヤー、チューナーの操作はエリアAの〇〇、⊖、WMの各ゾーンコントロールキーにプリセットされています。ヤマハのDVDプレーヤーの操作はエリアBの⊖ゾーンコントロールキーにプリセットされています。ヤマハのMDプレーヤー、LDプレーヤーの操作はエリアCの〇〇、⊖の各ゾーンコントロールキーにプリセットされています。ただし、ヤマハMDプレーヤーMDX-9、DVDプレーヤーDVD-

1000、DVD-S700はプリセットされている信号では操作できませんので、これらの機器のリモコン信号をラーニングしてからお使いください。(67ページ参照)

“空き”のキーは、ラーニング後に操作することができます。(67ページ参照)

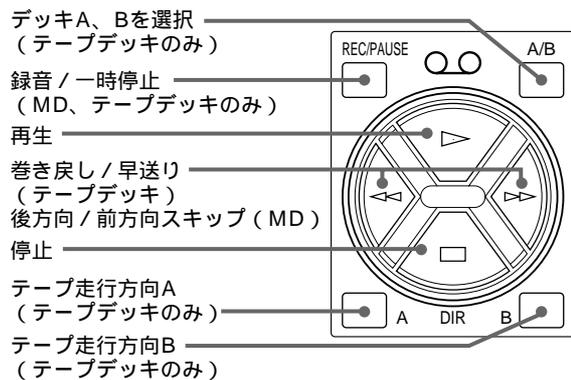
リモコンで操作する

テープデッキ、MD、ビデオデッキの操作

⊙ゾーンコントロールキーを使います。

ヤマハのテープデッキはエリアAに、MDはエリアCにプリセットされています。他社のMD、テープデッキ、VCRは、これらの機器のリモコン信号をエリアB、Cにラーニングしてから操作できます。

ヤマハMDプレーヤーMDX-9はプリセットされている信号では操作できません。リモコン信号をラーニングしてからお使いください。(67ページ参照)

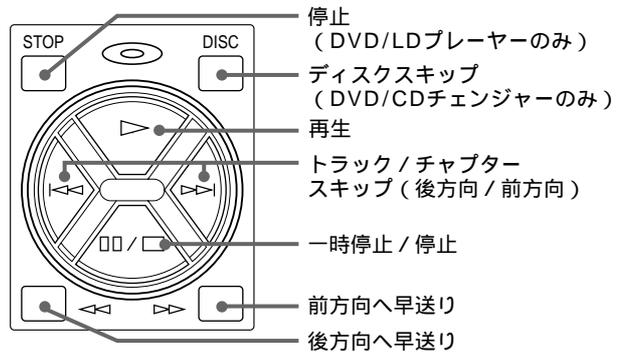


CD、DVDプレーヤー、LDプレーヤーの操作

⊙ゾーンコントロールキーを使います。

ヤマハのCDプレーヤーはエリアAに、DVDプレーヤーはエリアBに、LDプレーヤーはエリアCにプリセットされています。ヤマハDVDプレーヤーDVD-1000、DVD-S700はプリセットされている信号では操作できません。これらの機器のリモコン信号をラーニングしてからお使いください。(67ページ参照)

エリアB、Cにはヤマハのリモコン信号がプリセットされていますが、他社のDVD、CDプレーヤーまたはLDプレーヤーのリモコン信号をラーニングして操作することもできます。



ヤマハLDプレーヤーの操作について

インプットセレクターのDVD/LDキーで入力をDVD/LDに切り替え、A/B/CスイッチをエリアCに設定してから⊙ゾーンコントロールキーで操作します。

チューナー、TVチューナーおよびVIDEO-AUX端子に接続した機器の操作

⊙ゾーンコントロールキーを使います。

ヤマハのチューナーはエリアAにプリセットされています。他社のチューナー、TV/DBSやV-AUXは、これらの機器のリモコン信号をエリアB、Cにラーニングしてから操作することができます。

プリセット局番号を選ぶ



メモ

EFFECT、MASTER VOLUME、MUTE、TV、VCRの各キーは、カバーを開閉しても機能は変わりません。

インプットセレクター、⊙、SYSTEM POWER ON、STANDBYの各キーはMACROスイッチがOFFであれば、カバーを開閉しても機能は変わりません。

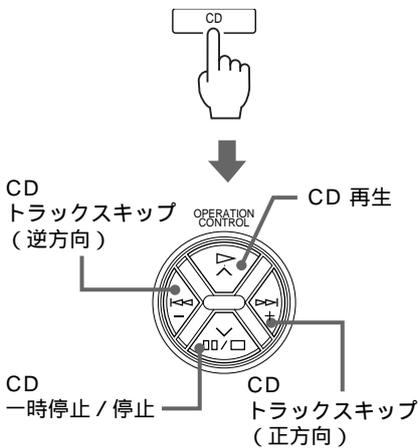
オペレーションコントロール機能を使う カバーを閉めて操作します

OPERATION CONTROLキーには、ヤマハのリモコン対応テープデッキ、DVD、MD、CDプレーヤー、チューナーおよびLDプレーヤーをコントロールする信号がプリセットされています。マークが同じヤマハの機器のリモコンのキーと同様の操作ができます。詳細は各機器の取扱説明書をご覧ください。

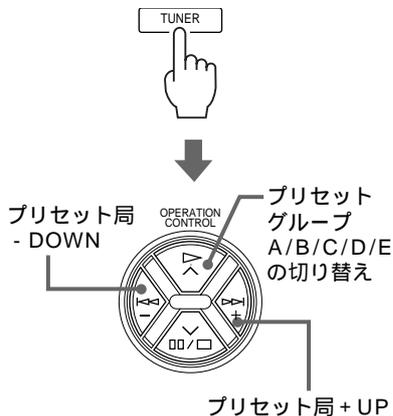
VCR 1、TV/DBS、VCR 2、およびV-AUXをOPERATION CONTROLキーで操作するには、あらかじめ各機器のリモコン信号をゾーンコントロールキーにラーニングしておきます。ラーニングについては67ページをご覧ください。

入力を選んだあと、OPERATION CONTROLキーで主要な4つの操作ができます(信号はプリセットされています)。

例えばを **CD** 押すと、OPERATION CONTROLキーは下図のようになります。

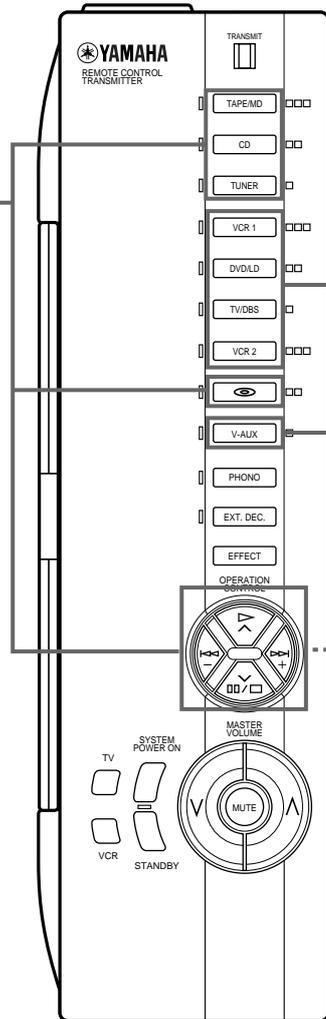


TUNER を押すと、OPERATION CONTROLキーは下図のようになります。

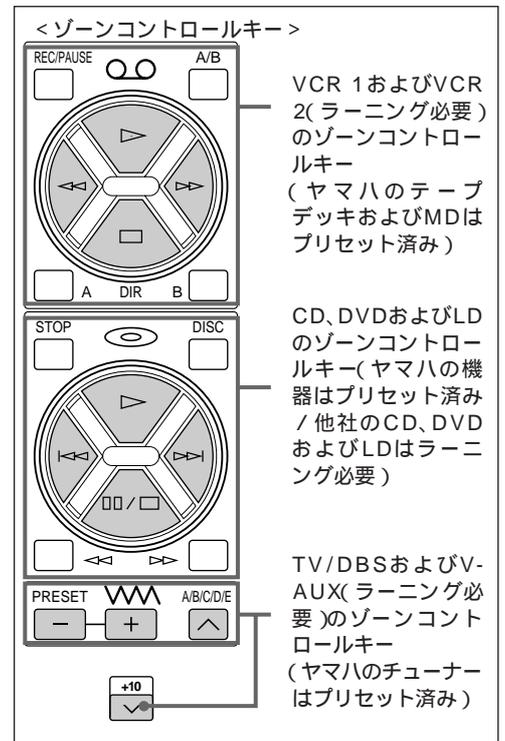


⦿キーについて

⦿キーは「空き」キーで入力切替機能はありませんが、このキーを押すと、OPERATION CONTROLキーでLDプレーヤーの操作ができます。



各機器のリモコン信号を **□** で示したゾーンコントロールキーにラーニングしてから、OPERATION CONTROLキーで主要な3~4つの操作ができます。ゾーンコントロールキーを操作するにはリモコンのふたを開けます。



リモコンで操作する

リモコンで操作する

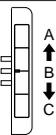
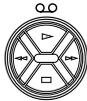
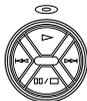
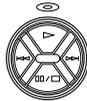
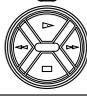
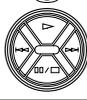
OPERATION CONTROLキーと各操作の対応

OPERATION CONTROLの各キーは、入力に従って、対応するエリアのゾーンコントロールキーにプリセットしてある信号やラーニングした信号を出力します。下の表の  で示した機器を操作するときは、あらかじめ対応するゾーンのキーにラーニング(学習)が必要です。(ラーニングのしかたは67ページをご覧ください。)

例えば、入力がTV/DBSのときは、OPERATION CONTROLキーの  キーを押すと、エリアB、WMゾーンコントロールキーの  キーにラーニングさせた操作をすることができます。

ご注意

OPERATION CONTROLキーで操作するときは、エリアA/B/Cを切り替える必要はありません。

入力	OPERATION CONTROLキーと対応する機能				信号を出力するゾーンとエリア	
					ゾーン	エリア 
TAPE/MD	▶ PLAY	■ STOP	▶▶ FF	◀◀ REW		
CD	▶ PLAY	▬▬ PAUSE/STOP	▶▶ SKIP	◀◀ SKIP		
TUNER	プリセットグループ A/B/C/D/Eを選ぶ	_____	プリセット局番号を選ぶ + UP - DOWN			
VCR 1	▶ PLAY	■ STOP	▶▶ FF	◀◀ REW		
DVD/LD	▶ PLAY (DVD)	▬▬ PAUSE/STOP (DVD)	▶▶ SKIP (DVD)	◀◀ SKIP (DVD)		
TV/DBS			+ (UP)	- (DOWN)		
VCR 2	▶ PLAY (MD)	■ STOP (MD)	▶▶ FF (MD)	◀◀ REW (MD)		
* 	▶ PLAY (LD)	▬▬ PAUSE/STOP (LD)	CHAPTER + (LD)	CHAPTER - (LD)		
V-AUX			+ (UP)	- (DOWN)		

*  キーは「空き」キーで入力切替機能はありませんが、このキーを押すことで、OPERATION CONTROLキーはLDプレーヤーを操作する信号を送ります。

メモ

カバーを閉めているときに操作できる機器は、入力中の機器だけです。入力を切り替えずに裏操作をするとき、例えばCDを再生中にビデオデッキのテープを巻き戻すときは、次のように操作します。

- ① カバーを開け、A/B/Cスイッチを切り替え
- ②  ゾーンコントロールキーの(ラーニング済みの)  を押す

マクロ機能を使う カバーを閉めて操作します

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキー操作でできるようにする機能です。

例えばCDを再生する場合、通常、①システムの電源を入れる ②CDに入力切換 ③PLAYキー(再生開始)などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、一連のキー操作の代わりにインプットセクターのCDキーを押すだけで、CDを再生できるようになります。

下の表に示すように、本リモコンのマクロキー(マクロマーク表示のインプットセクターおよびSYSTEM POWER ON/STANDBYキー)には、マクロ機能があらかじめプリセットされています。

また、マクロキーにはオリジナルのマクロ操作を設定することもできます(70ページ参照)。

プリセットされているマクロ動作

マクロキー	1番目 ➡	2番目 ➡	3番目	
	本体の電源が入る (接続した機器の電源が入る*1)	入力切換:TAPE/MD	ヤマハのテープデッキの再生開始(*2) エリアAのQOゾーンの▷信号が出る	
		入力切換:CD	ヤマハのCDの再生開始(*2) エリアAのゾーンの▷信号が出る	
		入力切換:TUNER	(メモリー受信*3)	
		入力切換:VCR 1	VCR 1の再生開始(*4) エリアBのQOゾーンの▷信号が出る	
		入力切換:DVD/LD	ヤマハのDVDの再生開始(*2) エリアBのゾーンの▷信号が出る またはDVD/LDの再生開始(*4)	
		入力切換:TV/DBS	—————	
		入力切換:VCR 2	ヤマハのMDの再生開始(*2) エリアCのQOゾーンの▷信号が出る またはVCR 2の再生開始(*4)	
		入力切換:なし、または キーにラーニングした信号(*4)	ヤマハのLDの再生開始(*2) エリアCのゾーンの▷信号が出る	
		入力切換:V-AUX	—————	
		入力切換:PHONO	—————	
		入力切換:EXT. DECODER	—————	
		テレビの電源が入る(*5) TVキーにラーニングしたテレビ電源オンの信号が出る	ビデオデッキの電源が入る(*5) VCRキーにラーニングしたビデオデッキ電源オンの信号が出る	
		本体の電源が切れる (接続した機器の電源が切れる)	—————	—————

リモコンで操作する

リモコンで操作する

- *1 接続した機器の電源を入れるためには、接続機器の電源プラグを本機のSWITCHED AC OUTLETSに接続し、電源のオン/オフを本機に同期させるようにします。
- *2 再生がスタートするのは、リモコン信号がプリセットされているヤマハのリモコン対応テープデッキ、CDプレーヤー、MD、DVD、LDプレーヤーです。他の機器はラーニングが必要です。
- *3 ヤマハのチューナーは電源を切る前に受信していた局を受信します。
- *4 ヤマハ以外の機器をマクロ操作するときは、対応するエリア(B/C)の各ゾーンコントロールキーにラーニングしておく必要があります。67ページをご覧ください。
- *5 キーを押すごとに電源のオン/オフが切り替わるテレビやビデオデッキの場合は、希望の操作にならないことがあります
例:すでに電源の入っているテレビでは、SYSTEM POWERキーを押すと電源が切れます。

マクロ機能で操作する

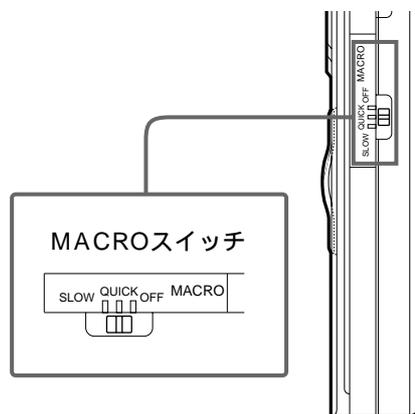
1 カバーを閉め、MACROスイッチを、「SLOW」または「QUICK」の位置にします。

QUICK : マクロ信号が0.5秒間隔で出力されます。
SLOW : マクロ信号が3秒間隔で出力されます。

2 希望のマクロキーを押します。

ご注意

機器の動作が始まるまでに時間がかかる場合や、希望の動作にならないときは「SLOW」の位置にします。
マクロ機能を使わないときは「OFF」の位置にします。
マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、(TRANSMIT/LEARNインジケーターが消灯するまで)他のキーの操作は受け付けません。「SLOW」で操作中は、特にご注意ください。
マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの送受信窓を本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。
「SLOW」で操作中は、特にご注意ください。



音場効果を楽しむ

本機は、ドルビームービーサウンドを忠実に再生するムービーサウンド音場や、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムに加え、世界各国の著名な演奏会場での実測データをもとに作成されたHiFi-DSP音場プログラムを内蔵しています。メモリーされている音場プログラムは25種類。再生するとき音場を呼び出し、その臨場感と効果をお楽しみください。

音場とは

「その空間が持つ特有な音の響き」を音場と呼んでいます。

コンサートホールなどで、私たちは、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射をくり返し、次第に減衰していく「後部残響音」を聴くことになります。(図A)

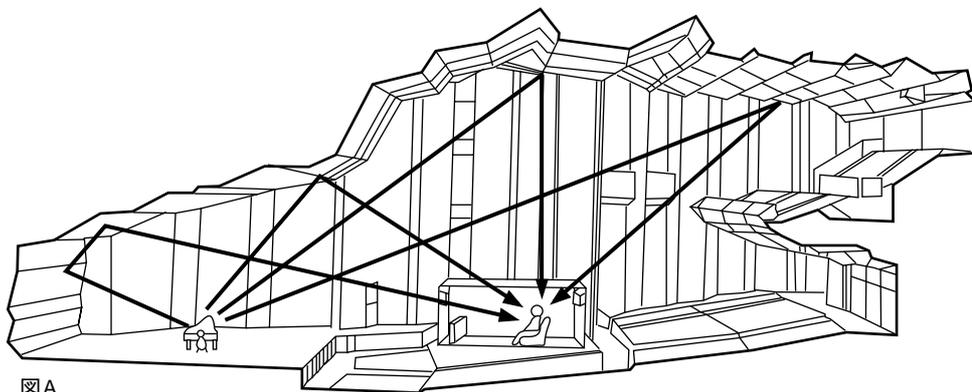
私たちは、直接音、初期反射音、後部残響音の一連の流れを一つの音として聴いているわけです。

反射音は、壁などに反射してから耳に到達するため、直接音より遅れてきます。そして時間経過とともに、壁や床・天井などに吸音され、直接音よりレベルが小さくなります。(図B)

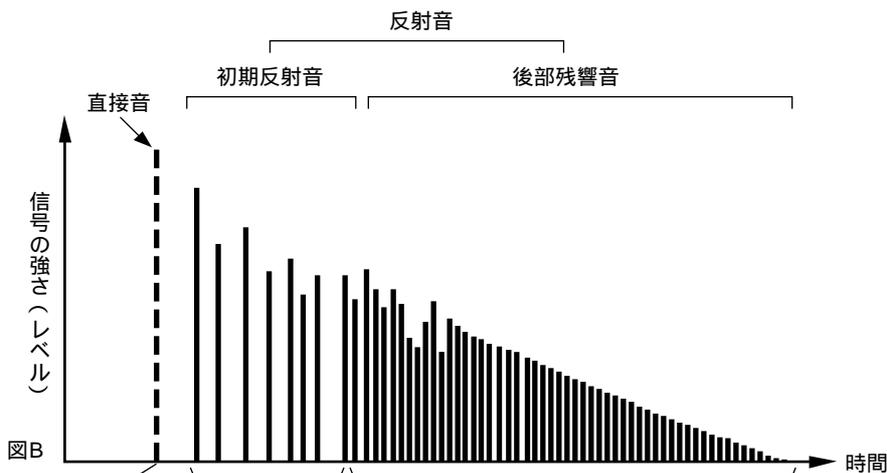
これらの初期反射音と残響音の構成は、建物内部の形状や広さ、内装材料の種類などによって異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間などの音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。

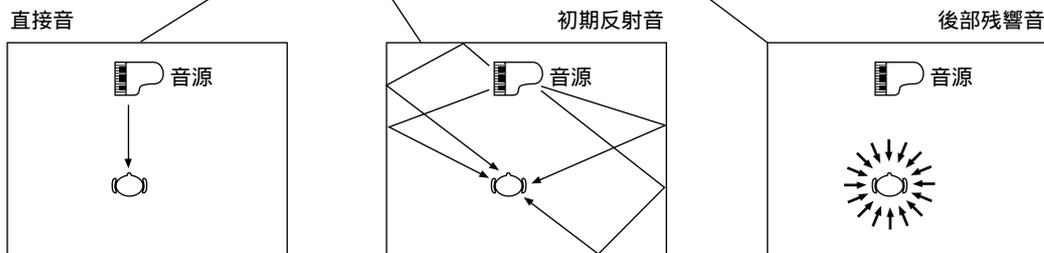
本機は、音場を再現するヤマハDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサ)を搭載、この音場実測データをもとに作成された音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウスの音場をリスニングルームに再現することができます。



図A



図B



音場プログラムの詳細は46～48ページをご覧ください。

音場効果を楽しむ

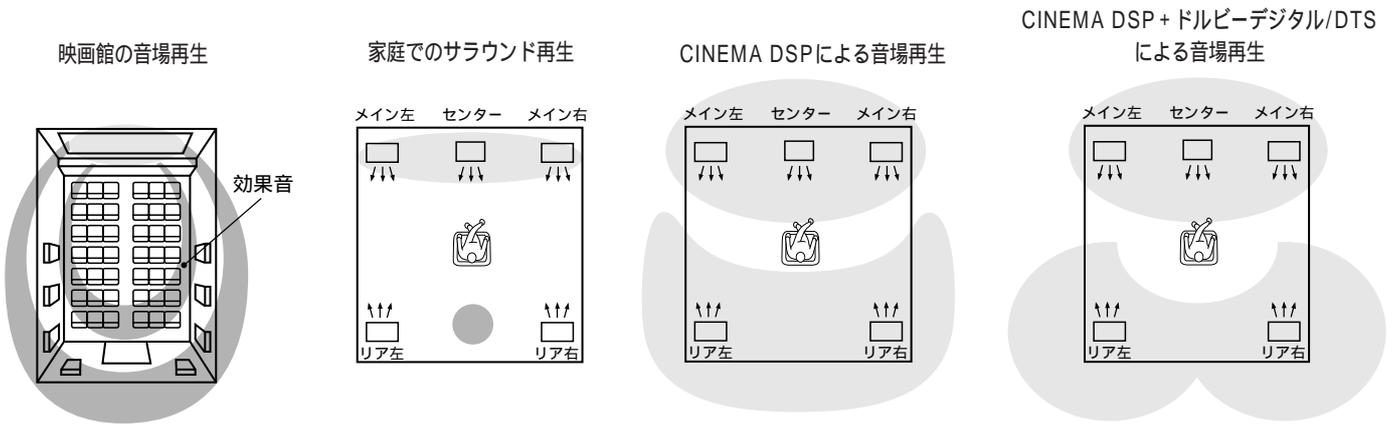
CINEMA DSP音場プログラムの特長

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画のサラウンドデコーダーであるドルビープロ・ロジックやドルビーデジタルとヤマハDSPを融合し、映画のサラウンドを最良の状態で作成するダビングステーション(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSPの音場プログラムでは、メインL/R、センターチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

入力モードが「AUTO」に設定されている場合、ムービーサウンド音場プログラムおよびCINEMA DSP音場プログラム(P08、9)でドルビーデジタルまたはDTS信号を入力すると自動的にドルビーデジタルまたはDTSに対応した音場処理になり、プログラムの名前も変わりますが、各音場効果のコンセプトは変わりません。



音場プログラム名と最適ソース

HiFi-DSP音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
P01	コンサートホール CONCERT HALL	ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。
P02	チャーチ CHURCH	ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。
P03	ジャズクラブ JAZZ CLUB	ニューヨークで話題のライブハウス「ザボトムライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
P04	ロックコンサート ROCK CONCERT	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
P05	ディスコ DISCO	ディスコミュージックに包まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

プログラムではメインL/R、リアL/Rから出力されます。

センターチャンネルを含んでエンコードされたドルビーデジタルおよびDTS信号を入力すると、P01～05のプログラムでもセンタースピーカーから音が出ます。

ドルビーデジタルおよびDTS入力時もプログラム名は変わりません。

実際のホールで測定されたデータを採用しているため、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものがあります。

CINEMA DSP音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	タイプ	特長および最適ソース
P06	スポーツ TV SPORTS	_____	様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと広がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。
P07	モノ MOVIE	_____	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声は臨場感を持って再生されます。
P08	ムービー シアター MOVIE THEATER 1	スペクタクル 70mm Spectacle (ドルビーデジタル時:DGTL Spectacle) (DTS時:DTS Spectacle)	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のドルビーソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		サイファイ 70mm Sci-Fi (ドルビーデジタル時:DGTL Sci-Fi) (DTS時:DTS Sci-Fi)	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、Science Fictionの世界を仮想空間音場で楽しめます。
P09	ムービー シアター MOVIE THEATER 2	アドベンチャー 70mm Adventure (ドルビーデジタル時:DGTL Adventure) (DTS時:DTS Adventure)	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm / ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデットにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場にオペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きと共にアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		ジェネラル 70mm General (ドルビーデジタル時:DGTL General) (DTS時:DTS General)	70mm / ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。

P08とP09は、ビジュアルソフト  と表示されているドルビーエンコードソースおよび  と表示されているDTSエンコードソースの再生に最適なプログラムです。

ドルビープロ・ロジックデコーダー、方向性強調回路、ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダーが使用されます。

メインL/R、センター、リアL/Rから出力されます。センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。

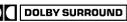
メインL、Rも方向性強調回路で信号処理されるので、ソースによっては左右メインスピーカーの音量が極端に異なる場合があります。(ドルビーデジタルおよびDTS時を除く)

音場プログラムは名前にこだわらず、聴感上最も気に入ったものを選択してください。また、実際に聴くときは、プログラムの音場にリスニングルーム自体の音場が付加されます。プログラムの音場を楽しむには、リスニングルームをできるだけデッドに(反射音が無いように)調整しましょう。

音場効果を楽しむ

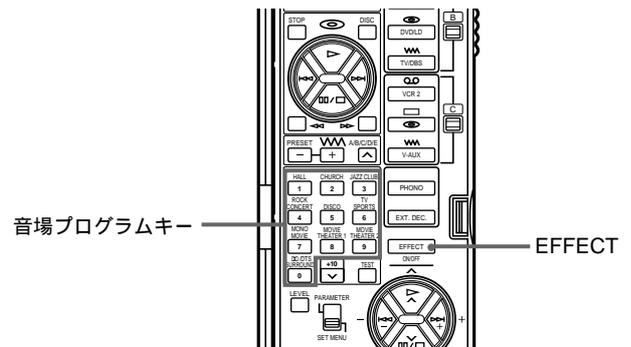
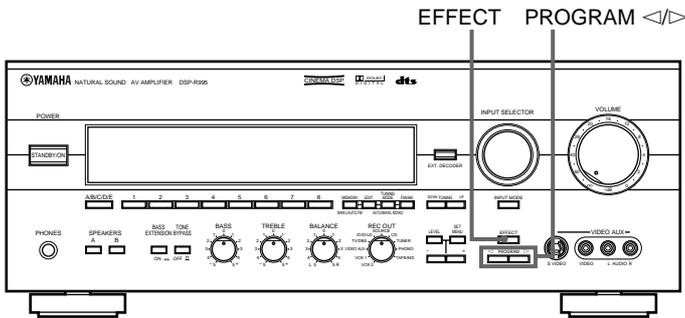
ムービーサウンド音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	タイプ	特長および最適ソース
P10	ドルビー/ディティールサウンド DOLBY/DTS SURROUND	プロ ロジック ノーマル PRO LOGIC/Normal (ドルビーデジタル時:DOLBY DIGITAL/Normal) (DTS時:DTS DIGITAL SUR/Normal)	ドルビープロ・ロジック/ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。
		プロ ロジック エンハンスト PRO LOGIC/Enhanced (ドルビーデジタル時:DOLBY DIGITAL/Enhanced) (DTS時:DTS DIGITAL SUR/Enhanced)	ドルビーサラウンドまたはDTSサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。

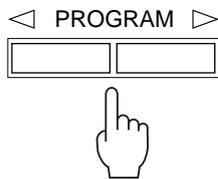
ビジュアルソフト  と表示されているドルビーエンコードソースおよび  と表示されているDTSエンコードソースの再生に最適なプログラムです。

プロ・ロジックおよびプロ・ロジックエンハンストは、方向性強調回路を使用するため、ソースがモノラルの場合、リアスピーカーから音は出ません。

音場プログラムの選びかた



本体で操作するとき



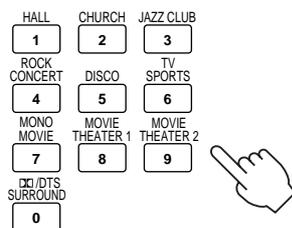
お好みの音場プログラム名 P08 ~ P10はプログラム名とタイプが表示されるまでPROGRAM </>キーを押します。

リモコンで操作するとき

お好みの音場プログラムキーを押します。プログラム名が表示されます。音場プログラムP08 ~ P10のタイプを選ぶには、選択した音場プログラムと同じキーを押します。

例：「P08 MOVIE THEATER 1」の「70mm Sci-Fi」を選ぶには

音場プログラムキーの「MOVIE THEATER 1」をもう一度押すと「70mm Sci-Fi」が選べます。



プロセッシングインジケータについて



デジタル入力端子からDTS信号を入力すると **dts** インジケータが点灯します。DTS対応のCDやLDを入力すると赤色の **dts** インジケータが、DTS対応のDVDを入力するとオレンジ色の **dts** インジケータが点灯します。DTS対応LDの入力時にオレンジ色の **dts** インジケータが点灯しても支障ありません。(73ページ)

DIGITAL

音場プログラム再生中、2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル信号再生時に点灯します。

PRO LOGIC

音場プログラムP08から10で再生中、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号、アナログ信号再生時に点灯します。

DSP

P10のPRO LOGIC Normalを除いたすべての音場プログラムで点灯します。音場プログラムをオフにすると(EFFECT OFF)消えます。

ご注意

ドルビーデジタルの記録チャンネル数は、ソフトにより異なります。

音場プログラムの入/切

EFFECTキー(またはリモコンのEFCT ON/OFFキー)を押すたびに音場プログラムの入/切ができます。音場プログラムをオフにするとEFFECT OFFが表示されます。

音場プログラムのメモリー

音場プログラムを設定すると、そのとき選んでいるインプットセクターにメモリーされます。音場プログラムを変えない限り、インプットセクターで入力を選ぶと、設定したプログラムになります。

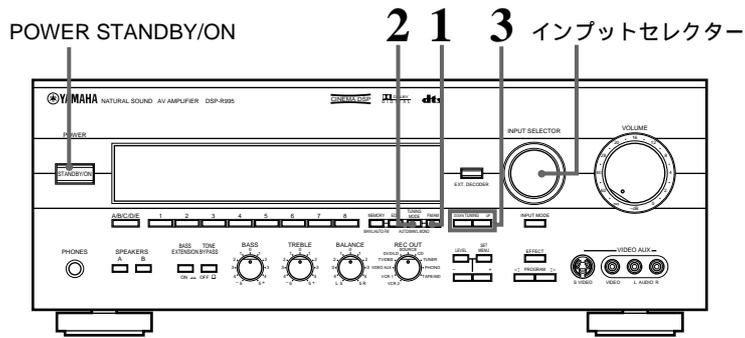
FM/AM放送を聴く

FM/AM放送を聴くときは、電源を入れインプットセクターで入力をTUNERにしてから操作をします。

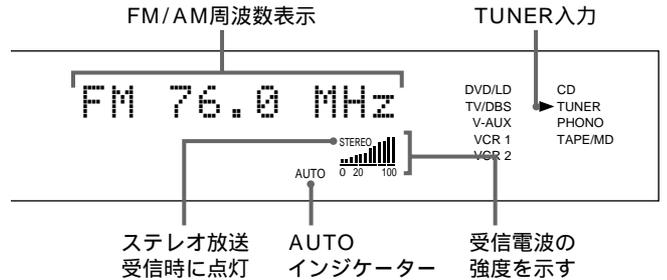
選局する

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類あります。

電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利ですが、電波の弱い放送局は、マニュアル選局をしてください。



放送局受信時のディスプレイ



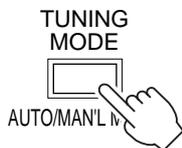
1 FM/AMキーを押して、バンド(FMまたはAM)を選ぶ



2 オート選局
TUNING MODEキーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させます。

マニュアル選局

TUNING MODEキーを押して、ディスプレイのAUTOインジケーターを消します。



3 TUNINGキーのDOWNまたはUPキーを押す

低い周波数の放送局を探すときはDOWNキーを、高い周波数の放送局を探すときはUPキーを押します。

オート選局

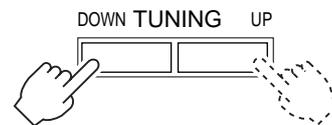
自動的に選局し停止します。

受信した放送局が希望の局ではないときは、もう一度TUNINGキーを押します。

マニュアル選局

希望の周波数が表示されるまで押します。

押し続けると連続的に周波数が変わります。



ステレオ放送受信時に雑音が多い場合は、TUNING MODEキーを押してAUTOインジケーターを消します。モノラル受信になりますが、雑音は軽減されます。

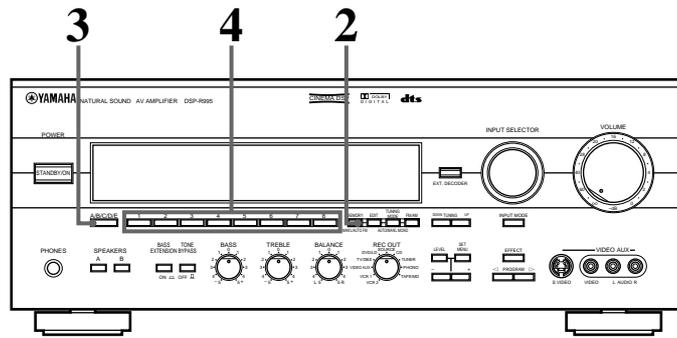
放送局のプリセット

放送局をプリセット(メモリー)しておけば、あとは簡単なキー操作で選局することができます。

プリセットの方法にはFM、AM局を選局してプリセットするマニュアルと、FM局のみを自動的にプリセットするオートFMの2種類があります。

40局(8局×5グループ)までプリセットすることができます。

プリセットしたときの受信モード(ステレオ/モノラル)もメモリーされます。



マニュアルプリセットのしかた

1	オート選局またはマニュアル選局でプリセットしたい放送局を選局する
2	MEMORYキーを押す ディスプレイのMEMORYインジケータが点滅し(約5秒間)、プリセットできる状態になります。
3	METHOD INジケータの点滅中に、A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループ(A/B/C/D/E)を選ぶ

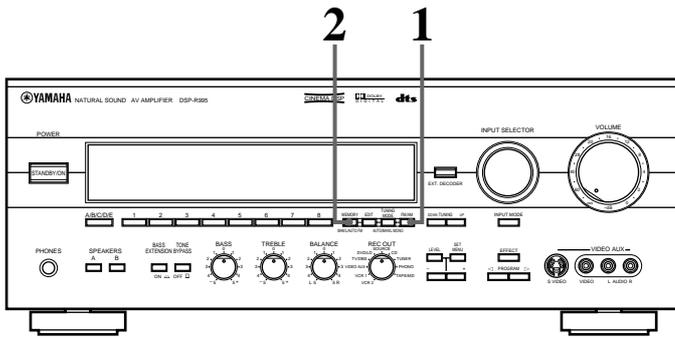
4	MEMORYの点滅中に、プリセット局番号のキーを押す、プリセット番号を表示させる
MEMORYインジケータが消え、プリセットが終わりました。 他の放送局を続けてプリセットするときは、1~4の手順をくり返します。	

プリセットした放送局を変更するには1~4の手順をくり返します。前の放送局に変わって新しくプリセットした放送局がメモリーされます。

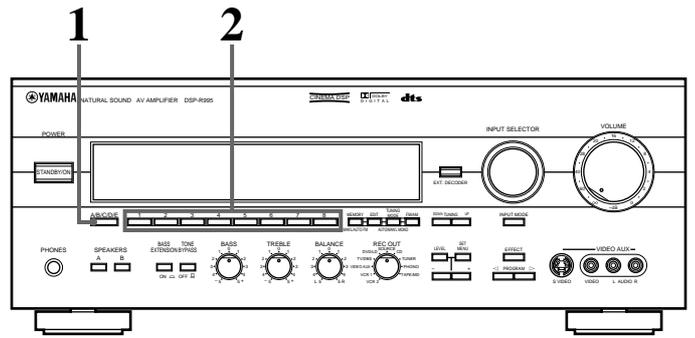
FM/AM放送を聴く

オートFMプリセットのしかた

電波の強いFM放送局のみを自動的にプリセットします。



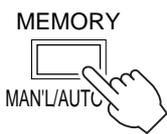
プリセット選局のしかた



1 FM/AMキーを押してFMを選ぶ

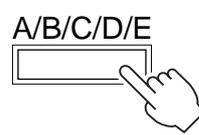


2 MEMORYキーを約3秒間押し続ける
MEMORYとAUTOインジケータが点滅し、放送局を受信するごとに、「A1」から自動的にプリセットします。

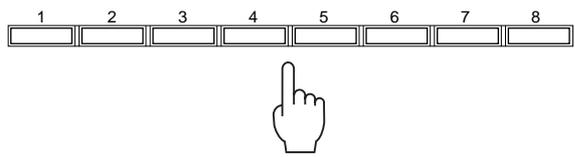


現在表示されている周波数から受信したFM局を順にプリセットします。
「E8」まで順番にプリセットすると停止します。

1 A/B/C/D/Eキーを押して、希望する放送局が入っているプリセットグループを選ぶ



2 プリセット局番号キーを押して、希望のプリセット番号を表示させる



オートプリセットが終了すると

最後にプリセットした放送局の周波数が表示されます。

プリセット番号の「A1」から順番に選局して、プリセットの内容を確認してください。

オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合は全帯域を1巡して停止します。

ご注意

マニュアルまたはオートプリセットで新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。

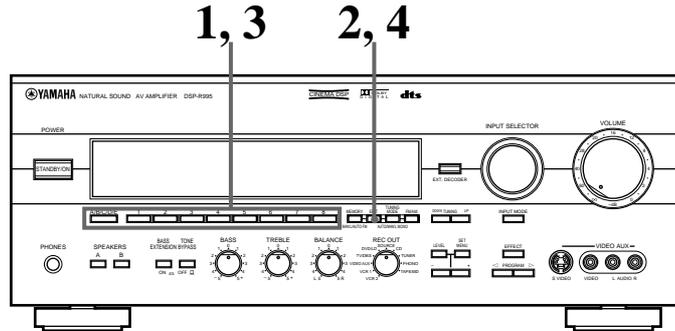
リモコンでプリセット選局するには
A/B/CスイッチをAの位置にします。

プリセット番号を選ぶ

プリセットグループ A/B/C/D/E を選ぶ

プリセット局の入れかえ

プリセットした放送局を入れかえることができます。
 良く聴く放送局やバンド別などにプリセット局を分類することができます。



例)「E1」にプリセットした放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合

<p>1 A/B/C/D/Eキーとプリセット局番号キーを押して「E1」を選ぶ</p>	<p>3 A/B/C/D/Eキーとプリセット局番号キーを押して「A5」を選ぶ</p>
<p>2 EDITキーを押す</p>	<p>4 EDITキーを押す プリセット局が入れかわりました。</p>

FM/AM放送を聴く

録音と録画

本機はREC OUTセレクターを装備しているので再生中のソースを録音 / 録画、または、再生中のソースとは別のソースを録音 / 録画することができます。

メモ

録音 / 録画する場合、事前に「試し録音」「試し録画」を行ってください。

本機の電源を切ると、接続した機器間の録音 / 録画は行えません。

トーンコントロール (BASS, TREBLE)、BASS EXTENSION、BALANCEコントロール、MASTER VOLUME、音場プログラムなどを操作しても、録音 / 録画には影響しません。

ご注意

入力ソースと同一のREC OUTには出力されません。(たとえば、ソースがVCR1のときはVCR1のビデオデッキで録音 / 録画することはできません。)

S-VIDEO端子からの録画は、S-VIDEO端子同士のみ有効です。

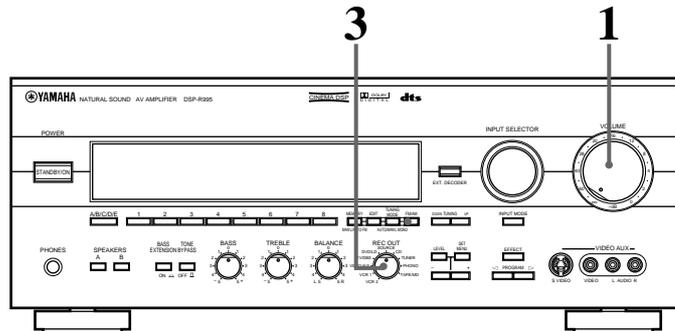
DIGITAL端子からの録音は、DIGITAL端子同士のみ有効です。

EXTERNAL DECODER INPUT端子から入力した信号は録音できません。

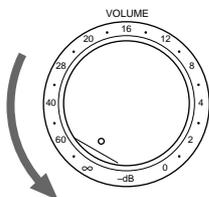
ドルビーデジタルRF信号は、REC OUT出力されません。

DTS信号はREC OUT出力されますが、録音機器 (MD、DATなど)によっては再生時にDTSデコードできない機器もあります。また、DTS信号は通常のPCM音楽信号とは周波数成分の異なったデジタルのデータですから、DTSデコーダーを通さずに録音・再生するとノイズが出力され、スピーカーが破損する恐れがあります。ご注意ください。

見ている(聴いている)ソースを録音 / 録画する

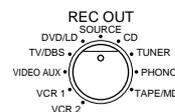


1 VOLUMEつまみを回し、最小「」にする



2 再生する機器の電源を入れる

3 REC OUTセレクターを「SOURCE」の位置にする



4 ソースを再生する

34ページの「再生」の手順で録音 / 録画するソースを再生します。

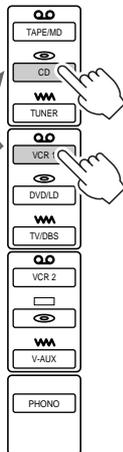
5 録音 / 録画を開始する

テープデッキ、またはビデオデッキで録音 / 録画を開始します。

メモ

録音レベルの調整は、それぞれのデッキで行います。ご使用になる機器の取扱説明書を参照してください。

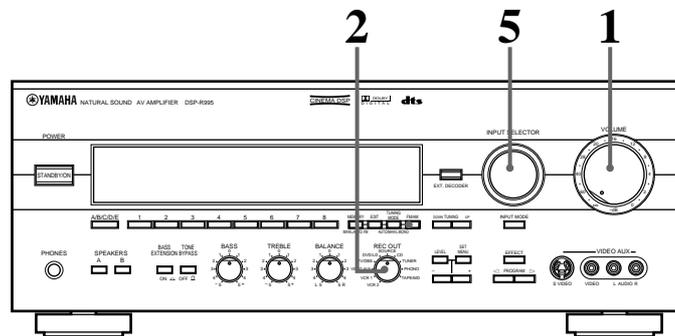
BGV録画

リモコンのイン
プットセレクター

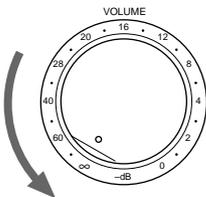
リモコンのインプットセレクターでソースを選択すると、BGV(バックグラウンドビデオ録画)を行うことができます。BGV録画とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて録画する機能です。

録画するビデオ系の映像を選択した後、リモコンで録音するオーディオ系の音声を選択して録画します。

見ている(聴いている)ソースとは別のソースを録音/録画する



1 VOLUMEつまみを回し、最小「」にする



2 REC OUTセレクターを録音/録画したいソースの位置にする



録音ソースのアナログ音声信号は、TAPE/MD、VCR 1、およびVCR 2のアナログ音声出力端子にREC OUTされ、映像信号はVCR 1およびVCR 2の映像出力端子にREC OUTされます。(フルレックアウト機能)

ご注意

デジタル録音はデジタル接続している機器の間でのみ可能です。本機では、DIGITAL SIGNAL CD、DVD/LD、TV/DBS端子の音声入力信号をDIGITAL SIGNAL TAPE MD端子にREC OUTします。

3 ソースを再生する

34ページの「再生」の手順で録音 / 録画するソースを再生します。

4 録音 / 録画を開始する

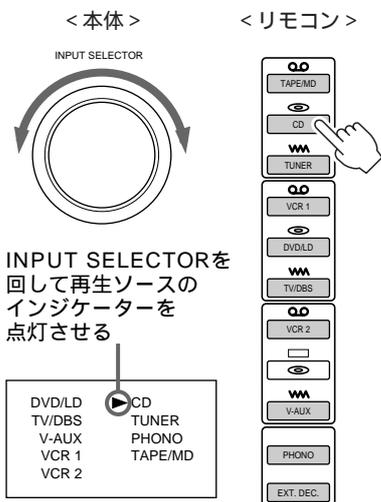
テープデッキ、またはビデオデッキで録音 / 録画を開始します。

メモ

録音レベルの調整は、それぞれのデッキで行います。ご使用になる機器の取扱説明書を参照してください。

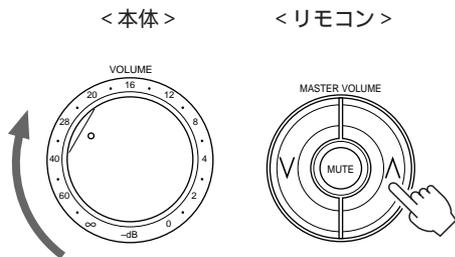
5 再生するソースを選択する

INPUT SELECTORで録音 / 録画とは別に再生するソースを選択します。



6 再生ソースの音量を調節する

VOLUMEつまみを回し、再生ソースの音量を調節します。



タイマー再生 / 録音

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せてご覧ください。

接続

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する
- 2 タイマー再生する機器の電源プラグを本機のAC OUTLETSに接続する
接続する機器の合計消費電力がAC OUTLETSの供給電力(100W)を超えないように注意してください。

操作

- 1 すべての機器の電源をONにする
- 2 インプットセレクターでタイマー再生 / 録音するソースを選ぶ
タイマー再生の場合：
再生する機器をタイマー再生ができるように操作します。
タイマー録音の場合：
放送局を受信し、デッキなど録音する機器をタイマー録音ができるように操作します。
- 3 本機のVOLUMEを調節する
タイマー録音で音出しをしない場合は、VOLUMEを絞っておきます。
- 4 タイマー再生 / 録音開始時刻および終了時刻をオーディオタイマーでセットする
設定した時刻になるとタイマー / 録音が始まります。

スリープタイマー

設定した時間が経過すると電源が切れるので、聞きながらおやすみになれます。

リモコンで操作します。

1 再生する

本機のSWITCHED AC OUTLETのコンセントに接続した機器(ソース)を選びます。それ以外の機器を選ぶと、本機の電源は切れますが、ソース側の電源は切れません。

2 SLEEPキーを押して時間を設定する



SLEEP 120min.



押すごとに次のように切り換わります。
(単位:分)



設定時間を約3秒間表示したあと入力ソース表示に戻り、SLEEPインジケーターは点灯します。

スリープタイマーは、電源を切ると解除されます。

スリープ動作を途中でやめるには

SLEEPキーを押して、SLEEP OFF表示にします。

メモリーバックアップについて

本機のPOWER STANDBY/ONスイッチで電源を切っても、インプットセレクター、パラメーター、セットメニューの設定、レベルなどの内容は消えずに、記憶(メモリー)されています。本機では、メモリー内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。また、約2週間は電源コードを電源コンセントから抜いても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間以上電源コードをコンセントから外した場合には、バックアップしているコンデンサーが放電してしまい、メモリー内容が消えることがあります。このような場合には、必要に応じて各調節、設定を行ってください。

電源コードが電源コンセントに接続されていれば、POWER STANDBY/ONスイッチを切ってもメモリーは常にバックアップされています。メモリー内容が消えることはありません。

パラメーターガイド

音場プログラム毎にDSP処理の構造が違います。そのため、パラメーターの種類も異なります。

イニシャル ディレイ

INIT. DELAY (Initial Delay)

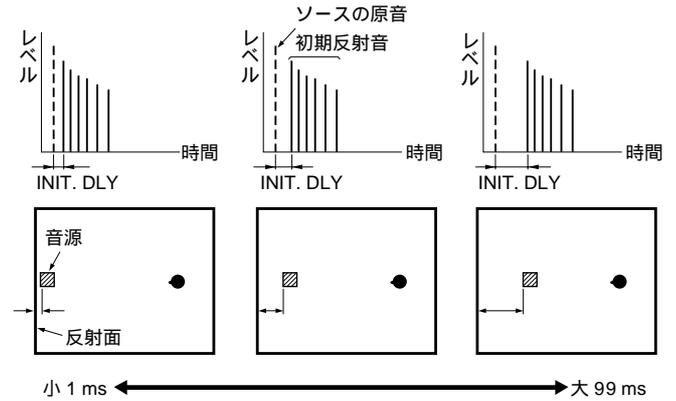
機能 : 音源と壁面との距離感を調整。

可変範囲 : 1ms ~ 99ms

解説 : 直接音から初期反射音が始まるまでの時間 遅延時間 をコントロールするパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。

INIT. DELAYを調整することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできた等がコントロールできます。

* 遅延時間を長くした場合、組み合わせによっては違和感のある音になることがあります。



プレゼンス イニシャル ディレイ

P. INIT DLY (Presence Initial Delay)

機能 : プレゼンス音場の遅延時間を調整。

可変範囲 : 1ms ~ 99ms

解説 : 直接音からプレゼンス音場が始まるまでの時間をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。

サラウンド イニシャル ディレイ

S. INIT DLY (Surround Initial Delay)

機能 : サラウンド音場の遅延時間を調整。

(「フロント2チャンネル(または3チャンネル)+リア2チャンネル」以上で、ドルビーデジタルおよびDTS入力時のみ有効)

可変範囲 : 1ms ~ 49ms

解説 : 直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

サラウンド ディレイ

S.DELAY (Surround Delay)

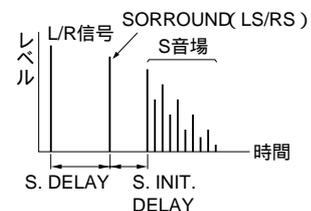
機能 : サラウンド音場の遅延時間を調整

可変範囲 : 0ms ~ 15ms(ドルビーデジタル/DTS時)
15ms ~ 30ms(ドルビープロ・ロジック動作時)
15ms ~ 49ms(その他の場合)

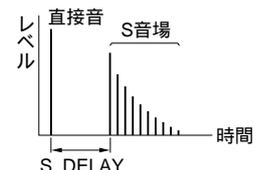
解説 : ドルビーデジタル/DTS入力時:
L/R信号とサラウンド音源との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音源が遅れて発生します。

ドルビーデジタル/DTS以外の入力時:
直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。
サラウンド音源は存在しません。

ドルビーデジタル/DTS入力時



ドルビーデジタル/DTS以外の入力時
(サラウンド音源は存在しない)



音場プログラムのパラメーターを変更する

ルームサイズ サイズ

ROOM SIZE

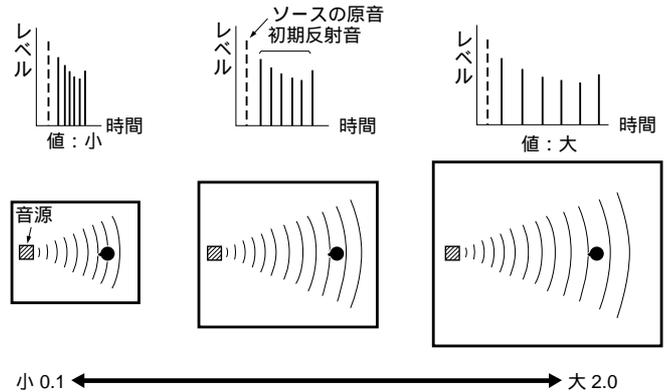
機能 : 拡がり感の調整。

可変範囲 : 0.1 ~ 2.0

解説 : 空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができますということになります。

1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。



プレゼンス ルーム サイズ

P. ROOM SIZE (Presence Room Size).....

機能 : プレゼンス音場の拡がり感の調整。

可変範囲 : 0.1 ~ 2.0

解説 : プレゼンスの拡がり感をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど、プレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に拡がり感が出てきます。

サラウンド ルーム サイズ

S. ROOM SIZE (Surround Room Size).....

機能 : サラウンド音場の拡がり感の調整。

可変範囲 : 0.1 ~ 2.0

解説 : サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が拡がりま

す。

ライブネス

LIVENESS

機能 : 響き具合の調整。

可変範囲 : 0 ~ 10

解説 : 初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

サラウンド ライブネス

S. LIVENESS (Surround Liveness).....

機能 : サラウンド音場の響き具合の調整。

可変範囲 : 0 ~ 10

解説 : サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

音場プログラムのパラメーターを変更する

リバーブ タイム REV. TIME (Reverb Time).....

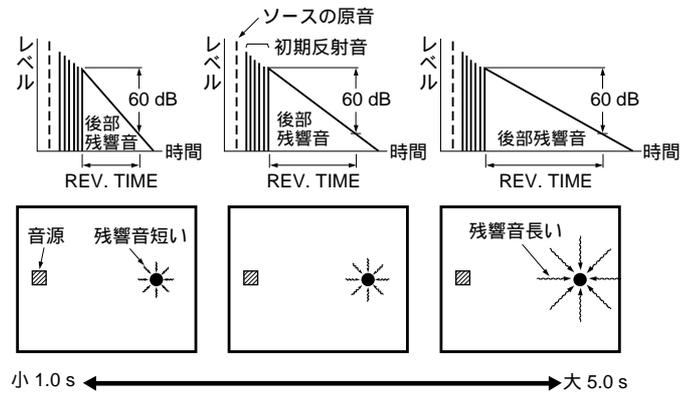
機能 : 余韻の長さを調整。

可変範囲 : 1.0s ~ 5.0s

解説 : 後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。

約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。

REV. TIMEを調整することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。



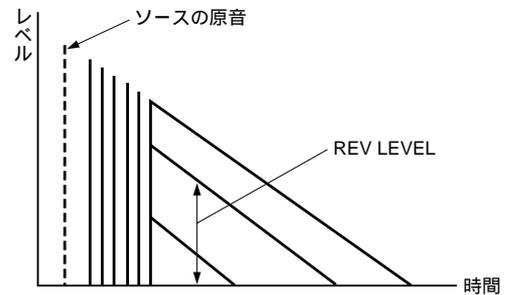
リバーブ レベル REV. LEVEL (Reverb Level).....

機能 : 余韻の強さを調整。

可変範囲 : 0% ~ 100%

解説 : 後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。



パラメーター一覧表

パラメーターを変更したときには、変更値を一覧表に記入しておいてください。

操作ミスで大事なパラメーターをイニシャライズしたときや、記憶した内容が消えたとき(2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたとき)に便利です。

パラメーター名	変更値1	変更値2
---------	------	------

P01 CONCERT HALL		
INIT. DELAY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
S. DELAY		

P02 CHURCH		
INIT. DELAY		
S. DELAY		
REV. TIME		
REV. LEVEL		

P03 JAZZ CLUB		
INIT. DELAY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
S. DELAY		

P04 ROCK CONCERT		
INIT. DELAY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
S. DELAY		

P05 DISCO		
INIT. DELAY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
S. DELAY		

P06 TV SPORTS		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		

P07 MONO MOVIE		
INIT. DELAY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
S. DELAY		

パラメーター名	変更値1	変更値2
---------	------	------

P08 MOVIE THEATER 1		
70mm(DGTL/DTS)Spectacle		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
70mm(DGTL/DTS)Sci-Fi		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		

P09 MOVIE THEATER 2		
70mm(DGTL/DTS)Adventure		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
70mm(DGTL/DTS)General		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		

P10 PRO LOGIC(DOLBY DIGITAL/DTS DIGITAL SUR.)		
Normal		
S. DELAY		
Enhanced		
S. DELAY		
S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
S. LIVENESS		

印のパラメーターは、ドルビーデジタルおよびDTS入力時のみ有効で、ステレオ入力時は設定できません。

P06、P08～10の音場プログラムは、ステレオ再生時、ドルビーデジタル/DTS再生時、個別にサラウンド音場のパラメーター(S.INIT DLY、S. DELAY、S. ROOM SIZE、S. LIVENESS)を設定できます。(P01～05およびP07の音場プログラムは不可)

セットメニューの設定

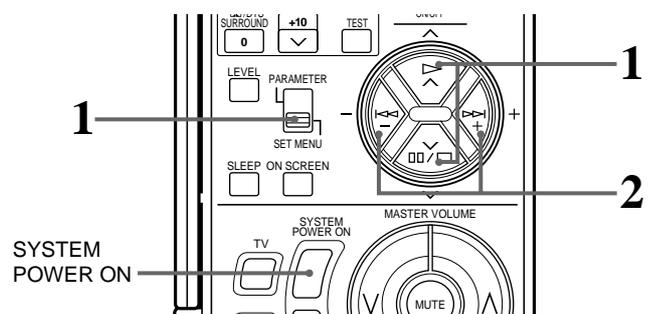
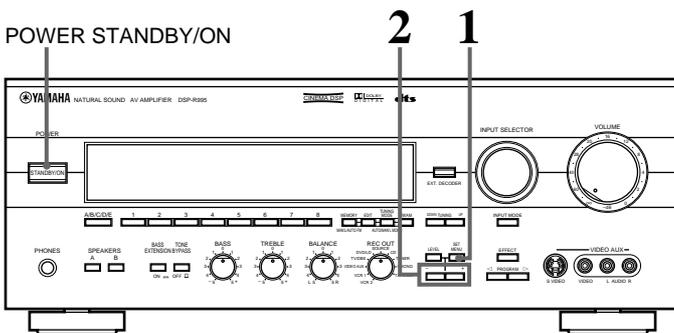
本機には13項目のセットメニューがあります。使用するスピーカーシステムに合わせて設定するスピーカーモード(28ページ)や、TV/DBSの入力モードの設定などの機能がセットメニューに納められています。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定してください。

セットメニュー6～13の設定内容

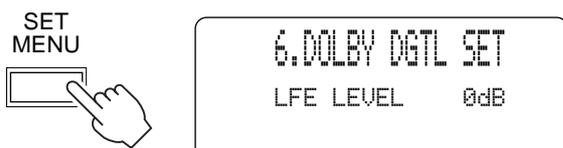
項目	設定内容	初期設定	可変範囲
ドルビー デジタル セット エルエフイー レベル 6. DOLBY DGTL SET LFE LEVEL	ドルビーデジタルでのLFE信号の再生レベルを設定します。	0 dB	-20 ~ 0dB(1dBステップ)
ドルビー デジタル セット ダイナミックレンジ 7. DOLBY DGTL SET DYNAMIC RANGE	ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを選択します。	MAX	MAX/STD/MIN
ディーティースセット エルエフイー レベル 8. DTS SET LFE LEVEL	DTSでのLFE信号の再生レベルを設定します。	0 dB	-10 ~ +10dB(1dBステップ)
センター デイレイ 9. CENTER DELAY	センターディレイタイムを設定します。	0ms	0 ~ 5ms(1msステップ)
パラメーター イニシャライズ 10. PARAMETER INI	音場プログラムのパラメーターを初期設定値に戻します。	—	—
メモリー ガード 11. MEMORY GUARD	セットメニュー項目の設定やレベルなどを保護します。	OFF	OFF/ON
テレビディービス インプット 12. TV/DBS INPUT	TV/DBSの入力モードを選択します。	AUTO	AUTO/LAST
ディマー 13. DIMMER	本体ディスプレイの明るさを調節します。	0	-4 ~ 0

設定のしかた

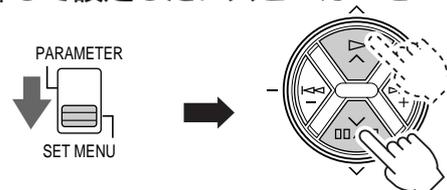
本体のSTANDBY/ONキーまたはリモコンのSYSTEM POWER ONキーを押して電源を入れます。



- 1 SET MENUキーを何回か押して、設定したいセットメニューの項目を表示させる

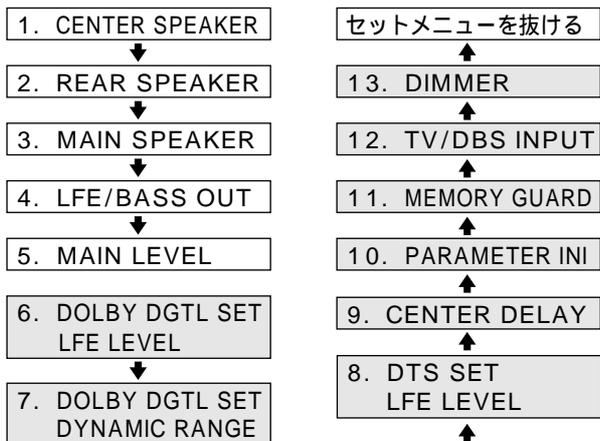


- リモコンでは、PARAMETER/SET MENUスイッチを“SET MENU”に合わせ、/キーを何回か押して設定したいスピーカーモードを表示させる



セットメニューの設定

SET MENUキーまたは キーを押すと、セットメニューは次の順序で表示されます。(1~5のスピーカーモードについては28ページを参照してください。)



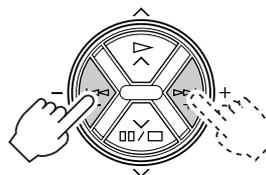
キーを押すと逆順に表示されます。

2 - / + キーを押して設定する

< 本体 >



< リモコン >



6. DOLBY DGTL SET
LFE LEVEL -1dB

スピーカーモードの設定が終わったら

SET MENUキー(リモコンでは / キー)を何回か押してセットメニューの表示を消します。

各メニュー項目の設定内容

6. DOLBY DGTL SET LFE LEVEL(ドルビーデジタルセットLFEレベル).....

6. DOLBY DGTL SET
LFE LEVEL -1dB

LFE信号の再生レベルを設定します。(ドルビーデジタル再生時のみ有効)

LFE信号は、ドルビーデジタルソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。ドルビー社の推奨によりLFE 0dB時は、他の5チャンネルのレベルより+10dBに設定されています。使用するサブウーファーなどの性能に応じてLFEレベルを調整してください。

7. DOLBY DGTL SET DYNAMIC RANGE(ドルビーデジタルセットダイナミックレンジ).....

7. DOLBY DGTL SET
DYNAMIC RANGE
▶MAX STD MIN

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジをMAX/STD/MINの3種類から設定します。(ドルビーデジタル再生時のみ有効)

MAX: ソースそのままのダイナミックレンジです。

STD(STANDARD): 一般家庭で再生する場合に推奨するダイナミックレンジです。

MIN: 小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによってはダイナミックレンジ「MIN」に対応していないものがあり、音量が極端に下がる場合があります。そのような場合は、ダイナミックレンジを「MAX」または「STD」に設定してください。

8. DTS SET LFE LEVEL(DTSセット LFEレベル).....



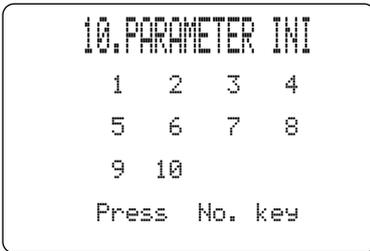
DTSでのLFE信号の再生レベルを設定します。
LFE信号は、ドルビーデジタルまたはDTSソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。使用するサブウーファーなどの能力に応じて、LFEレベルを調整して使用してください。

9. CENTER DELAY(センターディレイ).....



センタースピーカーのディレイタイムを設定します。
通常センタースピーカーはメインL,Rスピーカーと同一線上に設置しますが、本来は同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。目安として1ms増すと30cm遠ざかったこととなります。
センターディレイは、特にセンタースピーカーモードを「SML(スモール)」に設定しているとき、セリフの量感に効果があります。

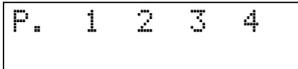
10. PARAMETER IN(パラメーターイニシャライズ).....



音場プログラムのパラメーターを、プログラムごとにイニシャライズします(初期設定値に戻します)。

ご注意

音場プログラムP08～10には各々2タイプの音場がありますが、タイプごとのイニシャライズは行えません。ドルビーデジタル用、DTS用、およびステレオ入力用でパラメーターが異なる場合でも、独立したパラメーターイニシャライズは行えません。



パラメーターが変更されている音場プログラムは、そのプログラムナンバーの前にアスタリスク(*印)が付いています。リモコンの音場プログラムキー(1～9,0)を押すと、その音場プログラムがイニシャライズされます。

メモ

アスタリスク(*)が付いていないプログラムをイニシャライズしても、何も変わりません。ディスプレイには キーを押すごとにプログラム1～4、5～8、9～10の順で表示されます。

ご注意

イニシャライズした音場プログラムを、元の状態(パラメーターが変更された状態)に戻すことはできません。
MEMORY GUARDの設定(66ページ)がONの時は、イニシャライズできません。

セットメニューの設定

11. MEMORY GUARD(メモリーガード).....



セットメニュー項目の設定やレベルなどを保護します。「ON」に設定しておけば、誤動作による設定の変更を防ぐことができます。

メモリーガードで保護される設定

- ・ 音場プログラムのパラメーター設定値
- ・ メモリーガード以外のセットメニュー項目
- ・ センター/リア/サブウーファアのレベル
- ・ オンスクリーン表示の設定

ご注意

メモリーガードを「ON」に設定すると、テストモードに入れません。

メモリーガードを「ON」に設定すると、他のセットメニュー(1~10、12~13)は呼び出せません。

12. TV/DBS INPUT

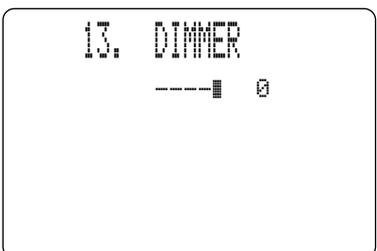


TV/DBSの入力モード(36ページ)を設定します。

AUTO: 電源を入れるたびに、入力モードは「AUTO」に設定されています。

LAST: 入力モードの最後の設定をメモリーし、電源オフ時も保持します。

13. DIMMER(ディマー).....



本体のディスプレイの明るさを調整します。本機の使用環境に応じて、ディスプレイ表示が明るすぎる場合はマイナス側に値を小さく設定します。

カーソルキーの「+」または「-」を押して、ディマーを調整(-4~0)します。

リモコンの学習機能（ラーニング機能）

本機のリモコンは、他の機器のリモコン信号を学習するラーニング機能を持っています。ラーニングさせておけば、本リモコンでヤマハ以外のAV機器をコントロールすることができます。

ラーニングできるキーについて

TVキー、VCRキー、キー、エリアBとCの  で示したキーがラーニングできます(下図参照)。エリアBとCのプリセット済みのキーもラーニングすることができます。ラーニングしても、プリセットされている機能は消去されません。ラーニング内容を消去すると、再度プリセット機能を使うことができます。押してもTRANSMIT/LEARNインジケータが点灯しないキーは空き(プリセットもラーニングもされていない)キーです。

メモ

ラーニングするときは、本リモコンのキーマークと、他の機器のリモコンのキーマークを一致させておくことが便利です。TVキーやVCRキーには、テレビやビデオデッキの電源スイッチの信号をラーニングすることをおすすめします。ラーニングできるキー数はヤマハ機器の信号で約20キーです。(ラーニングの内容により異なります。)

ご注意

エリアA(A/B/CスイッチがAのとき)のすべてのキーはラーニングできません。

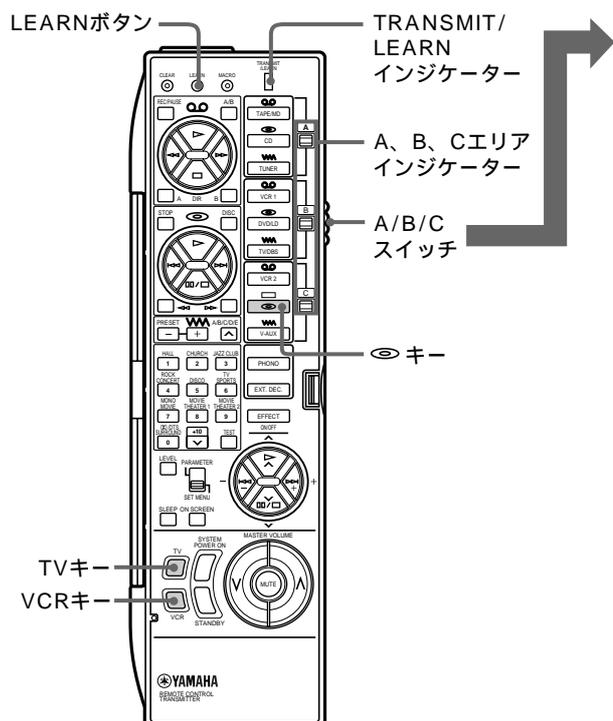
ラーニングの前に

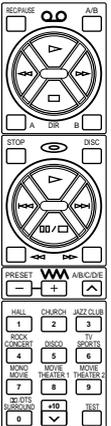
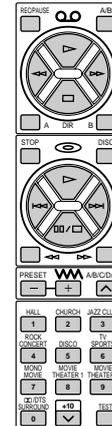
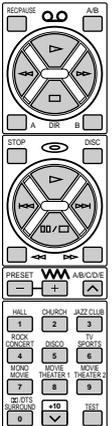
本リモコンは赤外線方式を使用しています。外部機器のリモコンが同じ赤外線方式であれば、ほとんどのリモコン信号をラーニングできますが、特殊な信号や非常に長い信号の場合、ラーニングできないことがあります。

また、メモリー容量がいっぱいになっている場合は、TRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅(エラー表示)し、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要のものを消去してください。

ラーニング中にカバーを閉めると、5秒後にTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅、ラーニングモードは解除されます。

5秒以内にカバーを開けると、再びラーニングモードに戻ります。



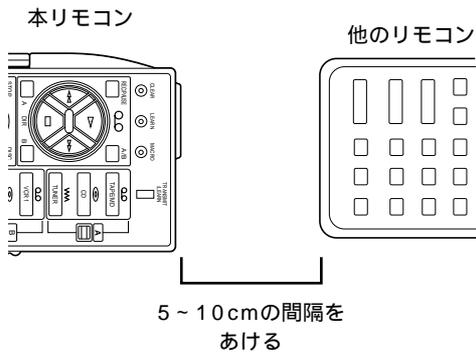
 A  オレンジ色で表示	 B  オレンジ色で表示	 C  オレンジ色で表示
		
A/B/CスイッチがAのときはラーニングできません。	エリアB、Cのキーがラーニングできます。ラーニングさせるときはA/B/CスイッチをBまたはCに切り替えます。 ヤマハのMD、LD、DVDプレーヤーを操作するための信号がプリセットされていますが、ラーニングすることもできます。	

リモコンの学習機能（ラーニング機能）

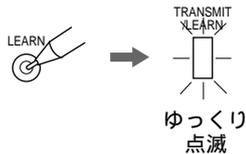
ラーニングのしかた

ここでは例として、エリアCの「M/PRESET」+「キー」に、「テレビをビデオ入力に切り替える」信号をラーニングします。次に、TVキーにテレビの電源をオン/オフさせる信号をラーニングします。

- 1** 本リモコンの送受信部と、外部機器リモコンの送信部を5～10cm間隔で向かい合わせる



- 2** カバーを開け、LEARNボタンを押す



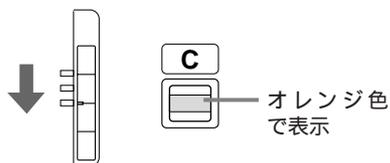
ボタンはボールペンなど先の細いもので押します。TRANSMIT/LEARNインジケータがゆっくり点滅し、ラーニングモードを示します。

ご注意

手順の操作は約30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的にラーニングモードは解除されます。その場合はもう一度LEARNボタンを押します。

- 3** A/B/CスイッチをBまたはCに切り替え、ラーニングさせるエリアを選ぶ

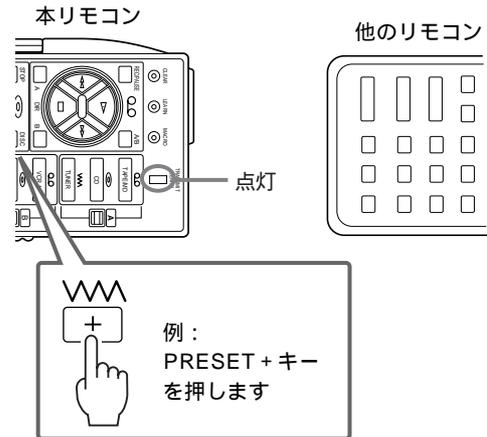
例：Cの位置に切り替えます。



ご注意

エリアAのすべてのキーはラーニングできません。TVキーやVCRキーにラーニングするときはエリアを選ぶ必要はありません。ラーニング後も、どのエリアを選んでいてもこれらのキーで機器を操作することができます。

- 4** 本リモコンのラーニングするキーを押す

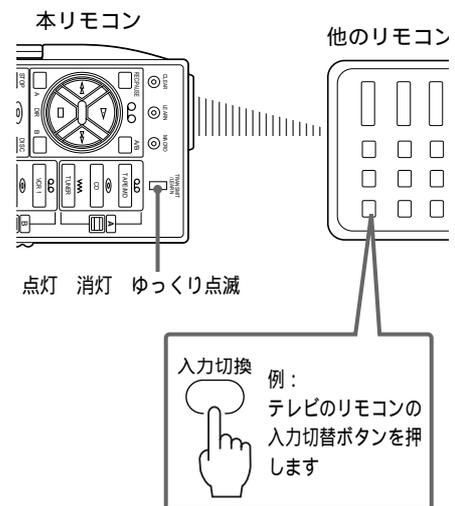


TRANSMIT/LEARNインジケータが点灯します。

ご注意

ラーニングできないキーを押すとTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅(エラー表示)します。他のキーを押してください。

- 5** 他の機器のリモコンのラーニングさせたいキーを、TRANSMIT/LEARNインジケータが消えるまで押し続ける



再びインジケータがゆっくり点滅すると次のラーニングができます。

リモコンの学習機能（ラーニング機能）

6 他のキーをラーニングさせる場合は、3～5の操作を繰り返す

例：TVキーにテレビの電源のオン/オフをラーニングさせるときは、手順4でTVキーを押してから手順5でテレビのリモコンの電源ボタンを押します。

7 ラーニングを終えるときは、LEARNボタンを押す



ラーニングができない（TRANSMIT/LEARNインジケーターが点灯/点滅しない）ときは、下記の方法で、もう一度操作をし直してください。

本リモコンまたは相手のリモコンの電池が消耗している



乾電池を2本とも新しい乾電池に交換する
（本リモコン場合はRESETボタンを押す）

向かい合わせたリモコンの間隔が離れすぎている、または近すぎる



リモコンの間隔を5～10cmにして操作をする

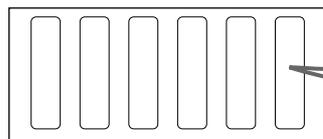
内蔵のマイコンが応答しない



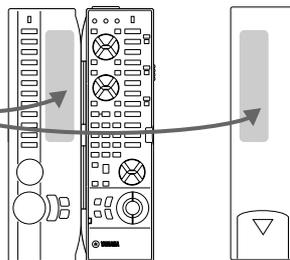
電池ケース内のRESETボタンを押す

ラーニング後は、付属のリモコンシートに名称/機能などを記入して活用してください。

リモコンシート



カバーの裏側や本体の裏面に貼ります。



マクロ設定のしかた

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキー操作でできるようにする機能です。本リモコンのマクロキー（マクロマーク表示のインプットセクターおよびSYSTEM POWER ON/STANDBYキー）には、マクロ機能があらかじめプリセットされていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。1つのマクロキーには、最大7種類の操作を設定することができます。使いやすいマクロを設定して、システムの操作に役立ててください。

ご注意

新しいマクロを設定しても、あらかじめプリセットしてあるマクロ機能は消去されません。設定したマクロの内容を消去すると再度プリセットマクロを使うことができます。

プリセットしてあるマクロに裏操作として、新しい信号を追加することはできません。マクロ設定をすると、すべて新しい内容に変わります。

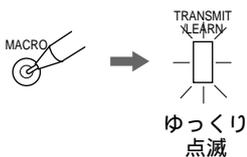
マクロ設定は、本リモコンのラーニング済み（またはプリセット）のキー信号をマクロキーに設定（転送）させて行います。

必要に応じてあらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。

音量の操作など、連続的に操作するキー信号は、本リモコンは短時間のコードとしてラーニングします。したがって、そのようなキーのマクロ設定はおすすめしません。

ここでは例として、「テレビの電源を入れ」「入力をビデオに切り替える」操作をTV/DBSキーにマクロ設定します。これらの一連の操作をマクロ設定するためには、「テレビの電源を入れる」「テレビをビデオ入力に切り替える」を本リモコンにあらかじめラーニングさせておきます。このラーニングのしかたは、P.68の例がそのまま使えるので参照してください。

1 カバーを開け、MACROボタンを押す

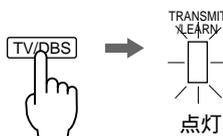


TRANSMIT/LEARNインジケータがゆっくり点滅し、マクロ設定モードを示します。

ご注意

以下の手順の操作は約30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的にマクロ設定モードは解除されます。そのような場合は、もう一度MACROボタンを押します。

2 カバーを開けたまま、設定するマクロキーを押す



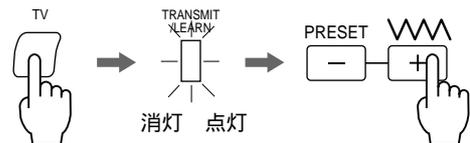
例：TV/DBSキーを押します。

TRANSMIT/LEARNインジケータが点灯し、押したキーにマクロ設定ができることを示します。

ご注意

マクロキー以外のキーを押すとTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅（エラー表示）します。

3 各操作をラーニングしておいたキーを、TRANSMIT/LEARNインジケータが消えるまで押し続ける



例：あらかじめラーニングさせておいた（68ページ）TVキー、PRESET+キーの順に押します

最初のキーを押してから再び点灯すると、次のキーをマクロ設定できます。

ご注意

TRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅するときは、そのキーはマクロ設定できません。

メモ

最大7種類のキー信号を設定することができます。7つ目のキー信号を設定するとTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅、自動的にマクロ設定モードは解除されます。

4 マクロ設定を終えるときは、MACROボタンを押す

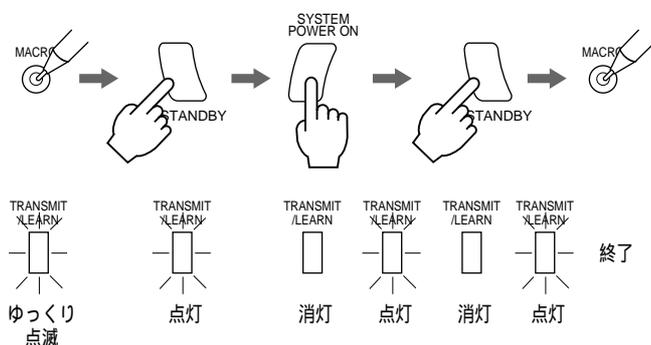


これでTV/DBSキーを押すだけで、テレビの電源が入り、テレビの入力がビデオに切り替わります。
他のマクロキーに他のマクロ設定をするときは、手順1から操作を繰り返します。

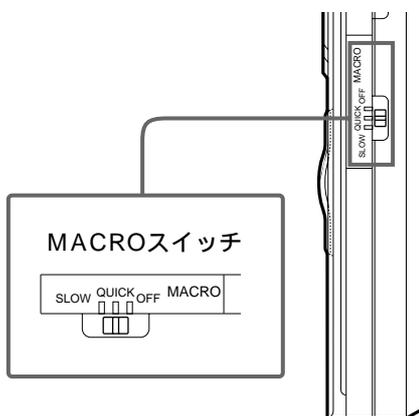
ヤマハBSチューナー-DBS-1000を接続している場合は

DBS-1000の電源がオンのときに、本機の電源をリモコンでオン/オフするとBSチャンネルが切り替わってしまいます。次のような手順で設定してください。

- ① DBS-1000と本機の電源の入り/切りを同時にするため、DBS-1000の電源コードを本機のAC OUTLETにつなぐ。
- ② リモコンSTANDBYキーに、SYSTEM POWER、STANDBYの順でマクロ設定する。



マクロ機能で操作するには

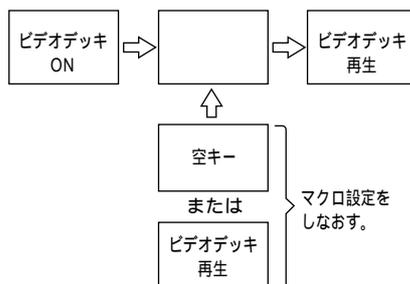


リモコンのカバーを閉め、MACROスイッチを「SLOW」または「QUICK」の位置にし、マクロ設定したキーを押します。詳しくは、43ページを参照してください。

マクロ機能での操作が希望どおりにならないとき：

“QUICK”位置で操作している場合は、“SLOW”位置に切り替え、もう一度操作する。
または、マクロ操作の中に「空きキー」または「同じ操作」をマクロ設定してください。

例：ビデオが再生できない、または再生までに時間がかかる場合

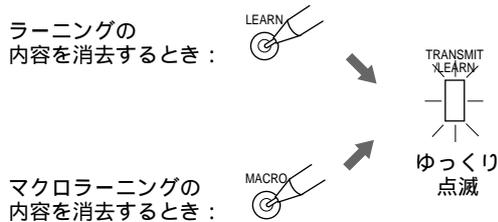


リモコンの学習機能（ラーニング機能）

学習内容の消去

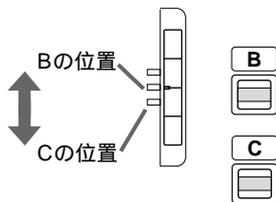
キーごとに消去するには

- 1** ラーニングの内容を消去するときはLEARNボタンを、マクロラーニングの内容を消去するときはMACROボタンを押す



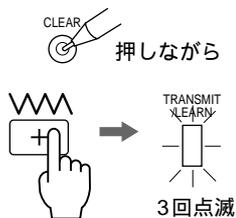
TRANSMIT/LEARNインジケータがゆっくり点滅します。

- 2** 消去したいキーのエリアに合わせて、A/B/CスイッチをBまたはCの位置に切り替える



マクロラーニングの内容を消去するときは、この操作は不要です。

- 3** CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押し続ける



TRANSMIT/LEARNインジケータが3回点滅すると消去は完了です。

消去したいキーが複数あるときは、CLEARボタンを押し続けながら、次のキーを押します。

- 4** 消去を終えるときはCLEARボタンを離す

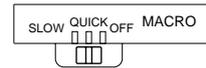


消去されたキーの信号は、もともとプリセットされていた信号に戻ります。

「空き」キーは、もとの信号の無い状態に戻ります。

すべてのキーを消去するには

- 1** MACROスイッチを消去する内容に合わせる

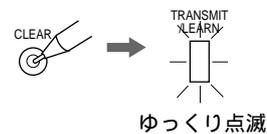


OFF：すべてのラーニング内容を消去する場合

QUICK：すべてのマクロ設定を消去する場合

SLOW：すべてのラーニング内容およびマクロ設定を消去する場合

- 2** CLEARボタンを押す

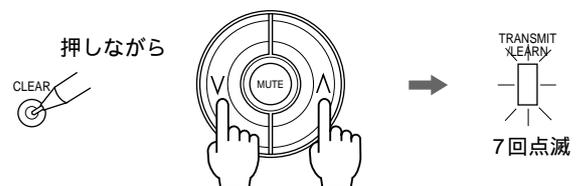


TRANSMIT/LEARNインジケータがゆっくり点滅します。

ご注意

MACROスイッチを切り替えたり、他のキーを押したり、30秒以上何の操作をしない場合は、TRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅(エラー表示)したあと、消去モードは解除されます。そのような場合は、もう一度CLEARボタンを押してください。

- 3** もう一度CLEARボタンを押しながら、MASTER VOLUMEキーの「**+**」キーを同時に押し続ける



TRANSMIT/LEARNインジケータが7回点滅すると、消去は完了です。

消去されたキーの信号は、もともとプリセットされていた信号に戻ります。

「空き」キーは、もとの信号の無い状態に戻ります。

ラーニングのメモリーバックアップについて

ラーニングした内容は、乾電池の交換時など、電池が外された時間が短時間の場合はメモリーされます。ただし、消耗した乾電池を使用したり、長時間乾電池が外されていたときは消えます。そのようなときは、もう一度ラーニングし直してください。

故障かな？と思ったら

本機を使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められましたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本機を使用中に強い外来ノイズ(落雷、過大な静電気など)を受けたり、誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、本機の電源を切り電源プラグをコンセントから抜き、約30秒後に再びつないで操作し直してください。

アンプノ一般

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください
	スピーカーコードがショートしている	電源コードを抜き、スピーカーの接続をやり直して再度電源コードを差し込みます
音が出ない	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	インプットセレクターで再生したい入力ソース名を表示させます
	MUTEキーが押されている(VOLUMEつまみのインジケーターが点滅している)	リモコンのMUTEキーを押すともとの音量に戻ります(またはMASTER VOLUMEキーなどを押してもミュートは解除されます)いちど音量を下げてからミュートを解除することをおすすめします。
	外部デコーダー入力になっている	EXT. DECODERキーを押して“EXT. DECODER”表示を消してください
	音量が絞られている	リモコンのMASTER VOLUMEキーを押すか、本体のVOLUMEつまみを右に回わして音量を上げてください
	接続が不完全	接続を確認してください
片方のスピーカーから音が出ない	接続が不完全	接続を確認してください
片方のメインスピーカーから音がでない	BALANCEがどちらか一方に回しきられている	BALANCEつまみで左右の音量バランスを調整してください
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込み直してください
メインスピーカーから音が出ない	SPEAKERSスイッチがOFFになっている	SPEAKERSスイッチを押して、ONにしてください
	接続が不完全	接続を確認してください
リア/センタースピーカーから音が出ない	EFFECT OFFになっている	EFFECTキーを押して、EFFECT OFF表示を消してください
	接続が不完全	接続を確認してください
センタースピーカーから音が出ない	センターモードがNONEになっている	センターモードを正しくセットしてください
	センターレベルが低い	センターレベルを上げてください
	音場プログラムP01~05を選択している	2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号およびアナログ信号再生時、音場プログラムP01~05では、センターの音は出ません
リアスピーカーから音が出ない	リアレベルが低い	リアレベルを上げてください
	音場プログラムP08またはP10でモノラルソースを再生している	他の音場プログラムを選択してください
通常のPCM CDやLDを再生すると音がでない	入力モードが“DTS”固定になっている(赤色のDTSインジケーターが点滅)	入力モードを“AUTO”に戻して再生してください
DTSソースを再生すると“ザーツ”というノイズが出る	入力モードが“ANALOG”になっている	必ずデジタル接続を行い、入力モードを“AUTO”または“DTS”固定にして再生してください
DTS対応のLDまたはCDを再生するとオレンジ色のDTSインジケーターが点灯する	プレーヤー側でディスクの種類を誤確認している	DTSデコードに支障はありませんが、プレーヤーの電源をいったん切り、再度電源を入れてください(CDでは正常にインジケーターが点灯するようになりますが、LDでは再びオレンジ色で点灯する場合があります。)
本機を使用しているとテレビから雑音が出る	本機とテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器と離して設置してください
本機に接続している機器にヘッドホン接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてください
音場効果を加えた音が録音できない	本機のREC OUT端子に接続した録音機器で、音場効果を加えた音を録音することはできません	

故障かなと思ったら

チューナー

FM放送受信時

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
“バリバリ”“ガリガリ”という雑音が入る	モーターバイクや自動車のイグニッションノイズをひろっている	FM屋外アンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に設置し、同軸ケーブルで接続してください
	サーモスタット付きの電気器具の雑音をひろっている	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてください
ステレオ放送になると雑音が多く聴きづらい	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合におきます	アンテナの接続を確認してください FM屋外アンテナを設置してください
オート選局ができない	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合におきます	屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください
ステレオ放送を受信中、ステレオインジケータが点滅し雑音が多い	受信している放送局の電波が弱い	マニュアル選局してください 受信地域の電界強度にあったアンテナを設置してください
	正しく選局されていない	もう一度選局してください
FM専用アンテナを使用しているが、音がひずむなど受信感度が悪い	ある種の妨害電波を受けている	アンテナの設置場所を変えてください
ステレオ放送なのにモノラル受信になってしまう	マニュアル選局モードになっている	TUNING MODEキーを押してAUTOインジケータを点灯させます
プリセット選局ができない	プリセット(メモリー)が消えている	もう一度プリセットしてください

AM放送受信時

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
音質が良くない (感度が悪い)	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全になっている	AMループアンテナを接続し直してください
オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全	AMループアンテナの方向を変えてください マニュアル選局をしてみてください 屋外にAM用のアンテナを張ってみてください
“ジー”“ザー”“ガリガリ”などの連続雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音をひろっている	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です
“ブンブン”“ヒューヒュー”などの雑音が入る	他の放送局による干渉を受けている 本機の近くでテレビを使用している	対策は困難です 本機からテレビを離してください

リモコン

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	リモコンと受光部の間に障害物がある	障害物を移動してください
	リモコンの操作範囲から外れている	本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっている	照明または本体の向きを変えてください
	RESETスイッチを押してください。記憶した内容は消えません。	
MACROスイッチが“SLOW”または“QUICK”の位置になっている	マクロ機能を使わないときは、“OFF”の位置にしてください	

参考仕様

オーディオ部

定格出力(20Hz~20kHz, 6)	
メイン L/R (0.04%THD)	100W + 100W
センター(0.04%THD)	100W
リア L/R (0.04%THD)	100W + 100W
実用最大出力(ステレオ 1kHz, 10%THD, 6)	
メイン L/R	140W + 140W
センター	140W
リア L/R	140W + 140W
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MM	2.5mV/47k
CD他(100W/8 換算)	150mV/47k
最大許容入力(1kHz, 0.05% THD)	
PHONO MM	110mV
CD他 (EFFECT ON, 0.5%THD)	2.2V
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150mV/1.0k
PRE OUT MAIN, CENTER, REAR	2.6V/1.1k
SUB WOOFER (MAIN SP:SMALL)	4.0V/1.5k
ヘッドホン出力	
CD他, 入力1kHz, 150mV, 8	0.5V/440
周波数特性	
CD他 (20Hz~20kHz, MAIN L/R)	0 ± 0.5dB
RIAA 偏差	
PHONO MM (20Hz~20kHz)	0 ± 0.5dB
全高調波歪率 (20Hz~20kHz)	
PHONO MM REC OUT, 3V	0.01%
CD他 (EFFECT OFF) SP OUT L/R, 50W/8	0.025%
信号対雑音比	
PHONO MM (2.5mV入力ショート), EFFECT OFF	80dB
CD他 (入力ショート), EFFECT OFF	96dB
チャンネルセパレーション	
PHONO MM(入力ショート, 1kHz/10kHz)	60/55dB
CD他(5.1k 入力ショート, 1kHz/10kHz)	60/45dB
トーンコントロール特性	
BASS 可変幅	± 10dB(50Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE 可変幅	± 10dB(20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz
バスエクステンション	+ 6dB(50Hz)
フィルタ特性	
MAIN, CENTER, REAR SP:SMALL (H.P.F.)	fc=90Hz, 12dB/oct.
SUB WOOFER OUT (L.P.F.)	fc=90Hz, 18dB/oct.
ギャングエラー	
MAIN L/R, 0 ~ - 60dB	3dB
ミュートイング	-

ダイナミックパワー (IHFダイナミックヘッドルーム測定による)

6	160W + 160W
4	200W + 200W
2 (ステレオ)	240W + 240W
パワーバンド幅 0.08%THD ステレオ, 50W/8)	10Hz ~ 50kHz
ダンピングファクタ(メインL/R, 20Hz~20kHz, 8)	160
残留ノイズ(メインL/R SP OUT)	170 μV

ビデオ部

ビデオ信号	1.0Vp-p/75
Sビデオ信号	Y: 1.0Vp-p/75 C: 0.286Vp-p/75
最大許容入力	1.5Vp-p
S/N	50dB
モニターアウト周波数帯域	5Hz ~ 10MHz, - 3dB

DSP部

DOLBY PRO LOGICデコーダ	YAMAHA YSS918-F
RAM	1M Bit S-RAM
プログラム数	
HiFi DSP	5
CINEMA DSP	17
DOLBY DIGITAL	1
DTS	1
DOLBY PRO LOGIC	1

入出力部

入力端子	
デジタル音声信号	同軸1(CD) 光4(CD, TAPE/MD, DVD/LD, TV/DBS)
アナログ音声信号	9(PHONO, CD, TAPE/MD, DVD/LD, TV/DBS, VCR1, VCR2, VIDEO AUX)
外部デコーダー6CH音声信号	1
ドルビーデジタルRF信号	1
映像信号(S-VIDEO含む)	5 (DVD/LD, TV/DBS, VCR1, VCR2, VIDEO AUX)
出力端子	
REC OUT	アナログ音声信号 3 (TAPE/MD, VCR1, VCR2) デジタル音声信号 1 (TAPE/MD:OPTICAL) コンポジット映像信号(S-VIDEO含む) 2 (VCR1, VCR2)
OUTPUT	音声信号 6 (MAIN L/R, CENTER, SUBWOOFER, REAR SURROUND L/R)
ビデオモニター	コンポジット: 1, S: 1
スピーカー出力端子	MAIN L/R(A/B) CENTER REAR(SURROUND) L/R

チューナー部

< AM >	
受信周波数範囲	531 ~ 1611kHz
実用感度	300 μ V/m
SN比	52dB
< FM >	
受信周波数範囲	76.0 ~ 90.0MHz
50dB S/N感度 (1kHz、100%変調)	
MONO	1.6 μ V (15.3dBf)
STEREO	23 μ V (38.5dBf)
実効選択度 (\pm 400kHz)	75dB
SN比	
MONO	81dB
STEREO	75dB
歪率 (1kHz)	
MONO	0.1%
STEREO	0.2%
ステレオセパレーション (1kHz)	48dB
周波数特性 (20Hz ~ 15kHz)	0 \pm 1.5dB
< オーディオ >	
出力レベル/インピーダンス	
FM (100%変調、1kHz)	550mV
AM (30%変調、1kHz)	150mV

総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	380W
ACアウトレット	SWITCHED \times 2
	TOTAL 100Wmax
寸法 (W \times H \times D)	435 \times 171 \times 391mm
重量	14.1kg
付属品	リモコン、単3乾電池(2本)、リモコン操作チャート、FM簡易アンテナ、AMループアンテナ

* 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

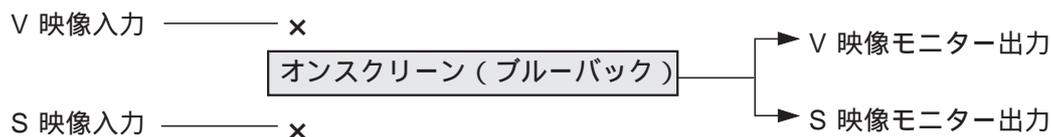
本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

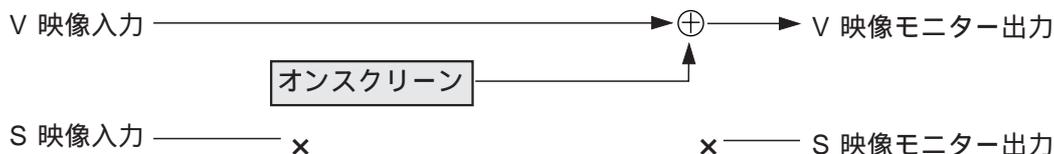
オンスクリーン信号経路図

1 V / S とともに映像入力がない場合

V : VIDEO S : S-VIDEO

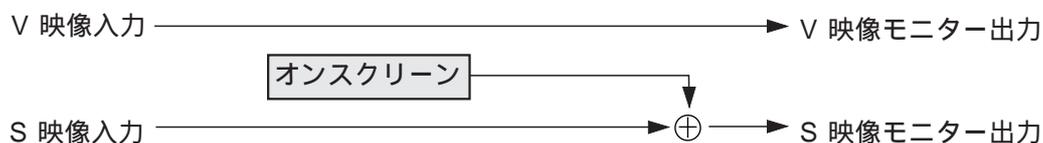


2 V の映像入力があり、S の映像入力がない場合



Sの映像入力があり、Sモニターの出力が接続されていない場合も同様です。

3 V / S とともに映像入力がある場合



Sモニターの出力は、Sコネクターの本体への接続を検出しています。
ケーブルの先にモニターが接続されていない場合も同様になります。

ご注意

S-VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子間の信号経路は独立しているため、ピンジャックから入った信号はピンジャックに出力され、S-VIDEO端子から入った信号はS-VIDEO端子に出力されます。(REC OUTも同様です。)また、Y / C分離、Y / Cミックスはできません。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を未永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)汗里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (087) 822 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズか変形がある。
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。



リモコン操作チャート

カバーを閉めて使う

マクロマーク
マクロ機能があるキーを示します。

EFFECTキー
音場効果を入/切します。

OPERATION CONTROLキー
インプットセクターで選んだ機器をコントロールします。各機器に対応した主要3キー～4キーの操作ができます。
ヤマハのテープデッキ、CDプレーヤー、チューナー、DVDプレーヤー、LDプレーヤー、MDのコントロール信号はプリセットされています。
・その他の機器はラーニング後に操作できます。

SYSTEM POWER キー
電源を入れます。

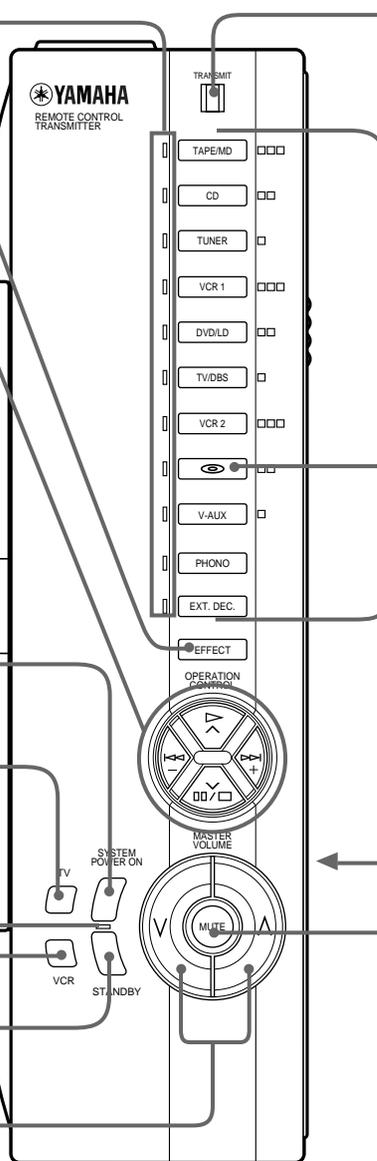
TVキー
現在空きキーです。

マクロマーク

VCRキー
現在空きキーです。

STANDBYキー
電源を切ります。

MASTER VOLUMEキー
音量を調節します。



TRANSMIT/LEARNインジケター
*操作のためにキーを押しても点灯しないときは、そのキーに信号が入っていないか、電池が消耗しています。

インプットセクター
入力を切り換えます。
また、プリセットマクロが働きます。
(MACROスイッチがQUICK、SLOW時)
マクロ操作例：

- ①電源オン (本体の電源オフ時)
- ②入力切換
- ③再生開始、など

○キー
このキーを押すとヤマハのLDプレーヤーをOPERATION CONTROLキーで操作できます。
・インプットセクターの機能はありません。

MACROスイッチ
OFF：マクロ機能を使わないとき。

QUICK：マクロ機能を使うとき。
(通常はこの位置で使います。)

SLOW：マクロ機能を使うとき。
(QUICKでは操作できないとき。)

MUTEキー
押すと音量が下がります。
もう一度押すと、もとの音量に戻ります。または、リモコンのMASTER VOLUMEキーなどを押してももとの音量に戻ります。

詳細は取扱説明書をご覧ください。

リモコン操作チャート

カバーを開けて使う

CLEARボタン

ラーニングした内容やユーザーマクロ設定を消去するときに使います。

LEARNボタン

■で示した、エリアBまたはCのキーにラーニングさせるときに使います。(エリアAのキーにはラーニングできません。)

ラーニングのさせかた

- ① LEARNボタンを押します。
- ② ラーニングさせる本機のキーを押します。
- ③ 相手方リモコンのキーを押します。
- ④ LEARNボタンを押して終了します。

ゾーンコントロールキー

QOテープゾーン、 ディスクゾーン、 チューナーゾーンの3つのゾーンで構成されています。A/B/C切換スイッチで選んだエリアに含まれる機器を操作できます。エリアAではヤマハのテープデッキ、CD、チューナーが、エリアBではDVDが、エリアCではヤマハのMDおよびLDが操作できます。

・エリアBとC (DVD、MD、LD以外) の機器はラーニング後に操作できます。

音場プログラムキー

音場プログラムを選びます。

+10キー

「空き」キーです。

LEVELキー

スピーカーレベル調整モードに入ります。

SLEEPキー

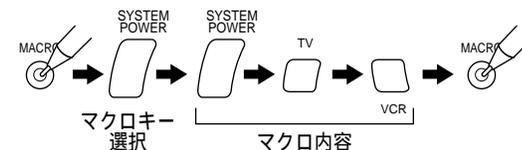
スリープタイマーを設定します。

120分 90分 60分 30分 解除

MACROボタン

マクロ設定するときに使います。

例：SYSTEM POWERキーを押すだけでTV、VCRの電源も入れる。(TV、VCRキーに各リモコンの電源オンの信号をあらかじめラーニングしておく)



A/B/Cスイッチ

操作する機器に合わせてエリアを切り替えます。

■で示したキーは3つのエリア (A、B、C) を持っています。

エリアインジケータ

A/B/Cスイッチで選んだエリアがオレンジ色で表示されます。

TESTキー

スピーカーレベル調整のテストトーンを入/切します。

、 -、 + キー

スピーカーレベル、パラメーター、およびセットメニューなどの項目選択や設定をするときに使います。

PARAMETER/SET MENUスイッチ

パラメーターモードとセットメニューを切り替えます。

PARAMETER: 音場プログラムのパラメーターやスピーカーレベルの設定

SET MENU: スピーカーモードなど13種類のセットメニューの設定

ON SCREENキー

モニター画面の表示を、フル表示 ショート表示 表示オフに切り替えます。

